

刑事判例

▲消防自動車ノ使命ト一般交通機關並通行人ノ注意義務 ▲消防自動車ニ對スル電車運轉手ノ注意義務

路幅員約三分ノ二ノ地點ヲ進行セルコトハ受命判事ノ昭和六年七月二十六日付檢證調書中ニ證人増井次郎ノ指示スル衝突後電車ノ停車シタリト稱スル地點ハ電車ノ後部力車行電車軌道南端ヨリ此方七寸ノ箇所(添附甲圖)ナリトノ記載ヲ添附甲圖ノ記載ニ照ラシテ之ヲ認ムヘク該道路ノ幅員カ五十九尺六寸ナルコト亦右檢證調書中ノ其ノ旨ノ記載ニヨリ明ナルヲ以テ結局該電車ハ七條通街路ニ進出シテ約三十九尺ヲ進行セルモノト認ムヘク而シテ右電車カ所謂シリーストツチノ速度(早足ノ速度)ヲ以テ右ノ距離ヲ進行スルニ要スル時間ハ五秒六秒ナルコト本院ニ顯著ナルトコロニシテ右五、六秒ノ間ニ於テ十七哩乃至二十哩ノ時速ヲ以テ進行シ來レル消防自動車ハ之ヲ最少限ニ見テ二十間ヲ進行シ得ヘキモノナルカ故ニ當初右電車カ七條通街路ニ進出シタル際ニ於テ被告人ノ操縦セル消防自動車ハ少クモ前記交叉點ヲ距約二十間ノ地點ニ在リタリト認ムヘク即被告人ハ少クモ交叉點ハ手前約二十間ノ地點ニ於テハ既ニ右電車ノ進行ヲ目撃シ得ヘキ地位ニ在リシモノト認ムルニ足ルヘク而シテ被告人カ消防自動車ヲ操縦シ時速十七哩乃至二十哩ヲ以テ進行中急停車ノ處置ヲ執ルニ於テハ該自動車カ五間五尺乃至六間四尺八寸ヲ以テ停車スルコトハ前記檢證調書中ニ右ノ實驗ヲ行ヒ該結果ヲ得タル旨ノ記載ニ微シ明ナルカ故ニ被告人ニ於テ前記ノ如ク約二十間ノ手前ニ於テ電車ノ進行ヲ目撃シ即時急停車ノ處置ヲ執リシナラハ消防自動車ハ交

又點ハ手前約十三間ノ地點ニ於テ停車スルヲ得タルモノト認ムルニ足ル被告人ハ當公廷ニ於テ當時被告人ハ交叉點ノ手前約十九間ノ地點ニ於テ電車ヲ認メタルカ當時電車ハ停留場ニ停車セル居タリト辯解スルモ右停留場ニ停車セル電車ハ交叉點ノ手前約十間五寸ノ地點ニ到ルニ非サレハ之ヲ目撃シ得サルコト前記檢證調書中ニ其ノ旨ノ記載アルニヨリ明ニシテ當時右電車カ普通停車スヘキ地點以外ノ地點ニ停車セザリシモノナルコト證人増井次郎ニ對スル受命判事ノ訊問調書ニ其ノ旨ノ供述記載アルニ照ラシテ之ヲ認ムルニ足ルヲ以テ被告人カ約十九間ノ手前ヨリ既ニ電車セル電車ヲ目撃シタリト供述ハ採用スルニ足ラス又若シ右十間五寸ノ地點ニ於テ電車ノ停車セルヨリ目撃シ得ヘキ前記檢證調書中ニ右ノ旨ノ記載アルニ照ラシテ之ヲ認ムルニ足ラズ電車カ衝突ヲ十間五寸ヲ進行スル時間ニ電車カ前記衝突ノ地點ヲ進行シ來ルモノト爲スヲ得ズ從テ被告人ノ辯解ハ採用セズ

仍テ茲ニ被告人ノ消防自動車運轉手トシテノ注意義務ヲ按ズルニ凡ソ消防自動車ハ一刹モ早ク火災現場ニ到着シ火災ノ被害ハ甚シカラサルニ先チ之ヲ鎮火セシムル使命ヲ有シ其ノ運轉ハ公共ノ利害ニ重大ナル影響ヲ持テモハナルカ故ニ一般ノ交通機關並通行人ハ消防自動車ノ進行シ來ルヲ覺知スルニ於テハ須ク道ヲ消防自動車ノ讓リ之ヲシテ出來得ル限リ速ニ火災現場ニ到着セシムルヲ以テ火災被害ヲ及フ限リ小ナラシムヘキ義務アリト謂ハサ

ルヘカラス此ノ趣旨ハ内務省令道路取締令第六條並ニ京都府令電氣鐵道取締規則第二十八條等ノ承認スルコトコトシテ現ニ京都市ニ於テハ京都府消防關係吏員ト京都市電車關係吏員トハ屢々會合シ電車從業員ヲシテ電車運轉ニ當リ消防手ノ活動ヲ妨害セザル様注意ヲ爲スヘキ打合ヲ爲シツツアリシコト證人原田惣市ノ當公廷ニ於ケル其ノ趣旨ノ陳述ニ依リ明ナレハ京都市電車從業員ハ平素電車ノ運轉上消防自動車ノ行動ヲ妨害スルカ如キ行動ヲ避テケト注意セラレツツアリシコトヲ知ルニ足リ從テ電車運轉手ハ電車中其ノ前面ニ消防自動車ノ進行シ來ルヲ察知スルニ於テハ其ノ通過ヲ俟テ進行ヲ始ムヘク又進行中其ノ前面ニ消防自動車ノ進行シ來ルヲ察知セバ其ノ進路ヲ妨害セザル爲メ進行ヲ止メ或ハ何時ニテモ停車シ得ヘキ用意ヲ爲ス等臨機ハ處置ヲ講スヘキ義務アルコト明瞭ナリト謂フヘク又其ノ後面ニ於テ消防自動車ハ運轉ニ從事スル者ハ其ノ進行ノ前途ニ在リ車馬行人等カ消防自動車ノ進行ヲ覺知シタリト信セラレ得ヘキ場合ニ於テハ此等ノ者カ當然道ヲ消防自動車ノ讓リ敢テ其ノ進路ヲ妨タルコトナカレハシト豫期シ其ノ進行ヲ繼續スルコトハ當然ハ處置ニシテ毫モ咎ムヘキニアラスト謂ハサルヘカラス然リト雖消防自動車ノ進行行動ハ許サルコトハ毫モ其ノ運轉手ニ前方注視ノ義務並ニ事故防止ノ義務ヲ免除スルモノハニアラス布モ消防自動車運轉手ト

哩ノ時速ヲ以テ進行シ該十字路ヲ通過セントシタルハ明ニ前記ノ注意義務ニ違背シタルモノト謂フヘク本件衝突ハ右違背ノ結果惹起サレタルモノニ外ナラザルヲ以テ被告人ハ右衝突ノ結果ニ付責ヲ負フヘキモノナルコト明ナリ仍テ判事事實ハ其ノ證明アリタルモノトス

法律ニ照ラスニ被告人ノ判示行爲ハ刑法第二百一十一條ニ該當スルトコロ右ハ一箇ノ行爲ニシテ數箇ノ罪名ニ觸ルル場合ナラバ以テ同法第五十四條第一項前段第十條ニ則リ最重キ高島近郎ニ對スル傷害罪ノ刑ニ從ヒ其ノ所定罰金刑ヲ選擇シ尙本件衝突ノ發生シタル當時ノ諸般狀況ニ鑑ミ犯罪ノ情狀酌諒スヘキモノアリト認メ同法第六十六條第六十八條ニ則リ酌量減輕ヲ爲シタル範圍ニ於テ被告人ノ罰金十圓ニ處スヘク右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ同法第十八條ニ則リ被告人ヲ五日間勞務場ニ留置スヘク訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ則リ被告人ヲシテ負擔セシムヘキモノトス、叙上ノ理由ニ基キ刑事訴訟法第四百四十七條第四百四十八條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

本籍愛知縣南設樂郡千塚村大字豊榮六番地 住居同縣八名郡八名村大字中宇利字大幡四番地、僧侶 森 達 堂 (明治十一年一月一日生)

大正十五年四月十日ヨリ昭和五年二月二十七日迄ノ間ニ寺ノ負債ヲ整理スルタメ檀越總代テアル今泉利平、小林久平、淺井龜次郎、竹下綱、渡邊清七等ニ連帯保證人ニナツテ實ヒ寺ノタメ合計八萬餘圓ヲ借入レタル旨ノ被告人ノ供述記載ト説示シタリ即原判決ハ原審(第二審)第一回公判調書中被告人ノ供述記載ヲ援用シテ原判決第二事實認定ノ資料ニ供シタルモノナリ然ルニ原審第二回以下ノ公判調書ヲ閱スルニ右第一回公判調書ハ之ヲ法廷ニ顯出シ被告人ニ讀聞ケ其ノ意見反證ヲ求メタル事述ノ微スヘキモノ存スル所ナシ然ラハ原判決ハ適法ニ證據調ヲ爲ササル證據ヲ斷罪ノ資料ニ供シタルモノニシテ證據ノ法則ニ違背シ破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ在リ

昭和七年二月二十二日 大審院第一刑部裁判長列事 泉二 新熊 列事 日高要太郎 列事 三宅正太郎 列事 遠藤 誠 列事 三宅正太郎 列事 高瀬幸七郎ハ刑部ニ付署名捺印スルコト能ハス 裁判長列事 泉二 新熊

●適法ニ證據調ヲ爲ササル證據ヲ採用シタル違法 昭和六年(九)第一三〇號

本籍愛知縣南設樂郡千塚村大字豊榮六番地 住居同縣八名郡八名村大字中宇利字大幡四番地、僧侶 森 達 堂 (明治十一年一月一日生)

右被告人ニ對スル業務上横領私文書偽造行使詐欺被告事件ニ付昭和六年七月十一日名古屋地方裁判所ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告人ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ判決スルコト左ノ如シ

昭和七年二月二十二日 大審院第一刑部裁判長列事 泉二 新熊 列事 日高要太郎 列事 三宅正太郎 列事 遠藤 誠 列事 三宅正太郎 列事 高瀬幸七郎ハ刑部ニ付署名捺印スルコト能ハス 裁判長列事 泉二 新熊

●適法ニ證據調ヲ爲ササル證據ヲ採用シタル違法 昭和六年(九)第一三〇號

本籍愛知縣南設樂郡千塚村大字豊榮六番地 住居同縣八名郡八名村大字中宇利字大幡四番地、僧侶 森 達 堂 (明治十一年一月一日生)

右被告人ニ對スル業務上横領私文書偽造行使詐欺被告事件ニ付昭和六年七月十一日名古屋地方裁判所ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告人ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ判決スルコト左ノ如シ

昭和七年二月二十二日 大審院第一刑部裁判長列事 泉二 新熊 列事 日高要太郎 列事 三宅正太郎 列事 遠藤 誠 列事 三宅正太郎 列事 高瀬幸七郎ハ刑部ニ付署名捺印スルコト能ハス 裁判長列事 泉二 新熊

●適法ニ證據調ヲ爲ササル證據ヲ採用シタル違法 昭和六年(九)第一三〇號

本籍愛知縣南設樂郡千塚村大字豊榮六番地 住居同縣八名郡八名村大字中宇利字大幡四番地、僧侶 森 達 堂 (明治十一年一月一日生)

右被告人ニ對スル業務上横領私文書偽造行使詐欺被告事件ニ付昭和六年七月十一日名古屋地方裁判所ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告人ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ判決スルコト左ノ如シ

昭和七年二月二十二日 大審院第一刑部裁判長列事 泉二 新熊 列事 日高要太郎 列事 三宅正太郎 列事 遠藤 誠 列事 三宅正太郎 列事 高瀬幸七郎ハ刑部ニ付署名捺印スルコト能ハス 裁判長列事 泉二 新熊

●適法ニ證據調ヲ爲ササル證據ヲ採用シタル違法 昭和六年(九)第一三〇號

本籍愛知縣南設樂郡千塚村大字豊榮六番地 住居同縣八名郡八名村大字中宇利字大幡四番地、僧侶 森 達 堂 (明治十一年一月一日生)

右被告人ニ對スル業務上横領私文書偽造行使詐欺被告事件ニ付昭和六年七月十一日名古屋地方裁判所ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告人ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ判決スルコト左ノ如シ

昭和七年二月二十二日 大審院第一刑部裁判長列事 泉二 新熊 列事 日高要太郎 列事 三宅正太郎 列事 遠藤 誠 列事 三宅正太郎 列事 高瀬幸七郎ハ刑部ニ付署名捺印スルコト能ハス 裁判長列事 泉二 新熊

●適法ニ證據調ヲ爲ササル證據ヲ採用シタル違法 昭和六年(九)第一三〇號

本籍愛知縣南設樂郡千塚村大字豊榮六番地 住居同縣八名郡八名村大字中宇利字大幡四番地、僧侶 森 達 堂 (明治十一年一月一日生)

右被告人ニ對スル業務上横領私文書偽造行使詐欺被告事件ニ付昭和六年七月十一日名古屋地方裁判所ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告人ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ判決スルコト左ノ如シ

昭和七年二月二十二日 大審院第一刑部裁判長列事 泉二 新熊 列事 日高要太郎 列事 三宅正太郎 列事 遠藤 誠 列事 三宅正太郎 列事 高瀬幸七郎ハ刑部ニ付署名捺印スルコト能ハス 裁判長列事 泉二 新熊

●適法ニ證據調ヲ爲ササル證據ヲ採用シタル違法 昭和六年(九)第一三〇號

本籍愛知縣南設樂郡千塚村大字豊榮六番地 住居同縣八名郡八名村大字中宇利字大幡四番地、僧侶 森 達 堂 (明治十一年一月一日生)

右被告人ニ對スル業務上横領私文書偽造行使詐欺被告事件ニ付昭和六年七月十一日名古屋地方裁判所ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告人ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ判決スルコト左ノ如シ

昭和七年二月二十二日 大審院第一刑部裁判長列事 泉二 新熊 列事 日高要太郎 列事 三宅正太郎 列事 遠藤 誠 列事 三宅正太郎 列事 高瀬幸七郎ハ刑部ニ付署名捺印スルコト能ハス 裁判長列事 泉二 新熊

●適法ニ證據調ヲ爲ササル證據ヲ採用シタル違法 昭和六年(九)第一三〇號

本籍愛知縣南設樂郡千塚村大字豊榮六番地 住居同縣八名郡八名村大字中宇利字大幡四番地、僧侶 森 達 堂 (明治十一年一月一日生)

右被告人ニ對スル業務上横領私文書偽造行使詐欺被告事件ニ付昭和六年七月十一日名古屋地方裁判所ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告人ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ判決スルコト左ノ如シ

昭和七年二月二十二日 大審院第一刑部裁判長列事 泉二 新熊 列事 日高要太郎 列事 三宅正太郎 列事 遠藤 誠 列事 三宅正太郎 列事 高瀬幸七郎ハ刑部ニ付署名捺印スルコト能ハス 裁判長列事 泉二 新熊

●適法ニ證據調ヲ爲ササル證據ヲ採用シタル違法 昭和六年(九)第一三〇號

本籍愛知縣南設樂郡千塚村大字豊榮六番地 住居同縣八名郡八名村大字中宇利字大幡四番地、僧侶 森 達 堂 (明治十一年一月一日生)

右被告人ニ對スル業務上横領私文書偽造行使詐欺被告事件ニ付昭和六年七月十一日名古屋地方裁判所ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告人ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ判決スルコト左ノ如シ

昭和七年二月二十二日 大審院第一刑部裁判長列事 泉二 新熊 列事 日高要太郎 列事 三宅正太郎 列事 遠藤 誠 列事 三宅正太郎 列事 高瀬幸七郎ハ刑部ニ付署名捺印スルコト能ハス 裁判長列事 泉二 新熊

●適法ニ證據調ヲ爲ササル證據ヲ採用シタル違法 昭和六年(九)第一三〇號

本籍愛知縣南設樂郡千塚村大字豊榮六番地 住居同縣八名郡八名村大字中宇利字大幡四番地、僧侶 森 達 堂 (明治十一年一月一日生)

右被告人ニ對スル業務上横領私文書偽造行使詐欺被告事件ニ付昭和六年七月十一日名古屋地方裁判所ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告人ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ判決スルコト左ノ如シ

刑事判例

消防自動車ノ使命ト一般交通機關並通行人ノ注意義務

路幅員約三分ノ二ノ地點ヲ進行セルコトハ受命判事ノ昭和六年七月二十六日付

又點ノ手前約十三間ノ地點ニ於テ停車スルヲ得タルモノト認ムルニ足ル被告ノ人

ルヘカラス此ノ趣旨ハ内務省令道路取締令第六條並ニ京都府令電氣鐵道取締規則

シテ自動車ノ操縦スル以上當ニ其ノ前方ヲ注視シ其ノ進路ニ於テ衝突ノ他ノ事

刑事判例

消防自動車ノ使命ト一般交通機關並通行人ノ注意義務

哩ノ時速ヲ以テ進行シ該十字路ヲ通過セントシタルハ明ニ前示ノ注意義務ニ違背

本籍愛知縣南設樂郡千郷村大字豊榮六番地

大正十五年四月十日ヨリ昭和五年二月二十七日迄ノ間ニ寺ノ負債ヲ整理スルタメ

六番地 住居同縣八名郡八村大字中字利字

刑事判例

消防自動車ノ使命ト一般交通機關並通行人ノ注意義務

昭和六年(九)第一三〇號

大正十五年三月十日ヨリ昭和五年四月二十日迄泉龍院ノ住職ヲシテ居リマシタカ

本籍愛知縣南設樂郡千郷村大字豊榮六番地

大正十五年三月十日ヨリ昭和五年四月二十日迄泉龍院ノ住職ヲシテ居リマシタカ

於テ金四千五百圓ヲ騙取シ、第二昭和二年八月頃ヨリ昭和四年十二月頃迄ノ間ニ同寺負債償却ノ爲借受テ業務上保管ニ係ル同寺所有ノ金員中約金二千圓ヲ其ノ頃犯意繼續シテ數回ニ亙リ南設樂郡新城町其ノ他ニ於テ遊蕩費藝妓落籍費送金等ニ費消横領シタルモノナリ(證據略)

被告人ハ本院公廷ニ於テ第一ノ事實ニ付香爐カ寺ノ所有物ナルコトヲ知ラサル旨陳辯スレトモ其ノ信スヘカラサルコトハ前示第一事實ニ對シテ證據ニ依リ洵ニ明白ナリ又第二事實ニ付寺ノ負債ノ爲借入タル金員ハ總テ被告人一人ノ債務ニシテ寺院ノ借入金ニアラサルカ故ニ其ノ費消ハ横領罪ヲ構成スヘキモノニアラサル旨辯護スレトモ寺ノ負債ヲ被告人個人ノ私財ニ依リテ清済スルノ要ナキハ勿論ニシテ從テ被告人カ右住職トシテ權從總代ト連帶シテ借入タル金員ハ被告人ニ於テ寺ヲ代表シテ寺ノ爲ニ借入ルル意思ヲ以テ債務ヲ負擔シタルモノト認ムヘク而シテ第二事實ニ對シテ證據ニ依リテ明白ナルカ如ク被告人カ前記寺ノ住職トシテ其ノ寺ノ總代二人以上ト連署シテ借入タル金員ハ法律上右寺ノ債務ト認ムヘキコトハ明治十年布告第四十三號ノ規定ニ依リ明白ナルカ故ニ右被告人ノ辯護モ亦排斥セサルヲ得ス、法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲中第一ノ私文書偽造ノ點ハ刑法第五十九條第一項ニ其ノ行使ノ點ハ同法第六十一條第一項第五十九條第一項ニ詐欺ノ點ハ同法第二百四十六條第一項ニ各該當スル所叙上各所爲間ニハ順次手段結果ノ關係アルヲ以テ同法第五

十四條第一項後段第十條ニ依リ最モ重キ詐欺罪ノ刑ニ從フヘク判示第二ノ業務上横領ノ點ハ同法第二百五十三條第五十五條ニ該當スル所以上、同法第四十五條前段ノ併合罪ニ係ルヲ以テ同法第四十七條第十條ヲ適用シ重キ業務上横領ノ罪ノ刑ニ法定ノ加重ヲ爲シタル刑罰範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役八月ニ處スヘク押收物件中主文掲記ノ文書(證據第一號)中偽造部分ハ本件犯罪ニ因リテ生シ何人ノ所有ニモ屬セサル物ナルヲ以テ同法第十九條第一項第三號第二項ニ則リ沒收スヘク訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一號ニ則リ全部被告人ヲシテ負擔セシムヘキモノトス仍テ刑事訴訟法第四百四十七條第四百四十八條ニ從ヒ主文ノ如ク判決ス

被告岩松玄十郎與
昭和七年三月七日
大審院第二刑事部裁判長列事 林 領三郎
判事 櫻村未太郎 判事 織田 嘉七
判事 岸 達也
判事 河邊久雄ハ輔官ニ付署名捺印スルコト能ハス
裁判長列事 林 領三郎

●證據理由不備ノ違法
昭和六年(九)第八三〇號
本籍並住居福岡縣那志免村大字
別府二百六十六番地
醬油醸造業 藤 正太郎
(明治十七年二月廿五日生)

右衆議院議員選舉法違反被告事件ニ付キ昭和五年十二月二十六日長崎控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告人ハ上告ヲ爲シタリ因テ檢察官井和義ノ意見ヲ聽キ

決定スルコト左ノ如シ
【主文】 本件ニ付キ事實ヲ審理ヲ爲ス【理由】 辯護人赤井幸夫、大澤一六上告趣意書第二點原判決ハ其ノ事實理由第一(一)(イ)中「尙未被告正太郎ハ同月(昭和五年二月)十八日右同所(福岡市川端町初音館)ニ於テ前記藤十郎ヨリ前同旨同目的(衆議院議員候補者横山雄偉ニ當選ヲ得シムル目的)ノ下ニ居村選舉人ノ投票買収費並ニ運動報酬トスル)ノ下ニ後日金五百五十圓ヲ供與スヘキ旨ノ申込ヲ爲スモノナルコトヲ知リナカラ即時之ヲ承諾シテ同人トノ間ニ金錢供與ノ約束ヲ爲シ」ト判示シタリ然レトモ其ノ證據說明ノ部ヲ見ルニ右事實ハ如何ナル證據ニ依リテ之ヲ認メタルヤ之ヲ知ルヘカラス果シテ然ラハ原判決ハ證據理由不備ノ違法アリ破毀ヲ免ラサルモノト信スト云ヒ

辯護人熊谷直太、杉村沖次郎、佐々木良吉上告趣意書第二點原判決ハ證據ニ憑ラシテ事實ヲ認定シタル違法アルモノトス原判決ハ判示第一(一)(イ)ノ後半ニ於テ「尙未被告正太郎ハ二月十八日右居所ニ於テ前記藤十郎ヨリ前同旨同目的(居村選舉人ノ投票買収費並ニ運動報酬トシテ)ノ下ニ後日五百五十圓ヲ供與スヘキ旨ノ申込ヲ爲スモノナルコトヲ知リナカラ即時之ヲ承諾シテ同人トノ間ニ金錢供與ノ約束ヲ爲シ」ト事實ヲ認定シ之ニ選舉法第二百四條第一號第一項ヲ適用シ處斷シタリ之カ立證トシテ原判決ハ判示第一(一)(イ)及「中略」ヲ除キ其ノ余ノ事實ハ當該干係被告人カ夫々其ノ旨當

公廷ニ於テ供述スルニヨリ明白ニシテ被告人等ハ夫々前記除外部分中自己干係部分ヲ否定シ「中略」ニ至リテ全カカル事實ナシト主張スレトモ判示第一(一)(イ)ノ(イ)(ハ)ハ藤十郎又ハ松永八郎ヨリ夫々被告人等三名又ハ南里勝次ニ判示金員ヲ供與シタル趣旨目的ハ何レモ判示ノ通りニシテ判示關係被告人等ニ於テ何レモ之ヲ知リナカラ自己ニ對スル分ハ敢テ自ラ收受シ謝罪スルニ對シテ分ハ被告人正太郎ニ於テ之ヲ偽造シタルコトハ被告人田原彌三ニ對シテ豫審第二回訊問調書、被告人南里辰次郎ニ對シテ豫審第一回訊問調書、被告人藤正太郎ニ對シテ豫審第一回訊問調書中ノ供述ヲ引用シ證據アリタルモノトセリ依テ之ヲ檢スルニ右引用證據ハ判示ノ如ク判示第一(一)(イ)(ロ)(ハ)ノ二月十一日金錢ノ授受アリタルコト及被告人正太郎カ南里勝次ニ金員ヲ傳達ヲ爲シタルコト右ノ金員ハ其ノ趣旨目的カ判示ノ如クナルコトノ立證ニ憑キスシテ何レノ點ヲ精査スルモ判示第一(一)(イ)ノ後半藤十郎ト藤正太郎間ニ判示ノ如キ金員供與ノ約束ヲ爲シタル旨ノ證據ナルヘキ痕跡スラナシ之レ原判決ハ判示第一(一)(イ)ノ後半被告人藤正太郎關係部分ノ事實ニ對スル證據理由不備セルモノニシテ判決ノ如何ナル部分ニモ右事實ヲ立證スル證據ハ之ヲ舉示スルコトコトナシ然ラハ原判決ハ證據ニ憑ラシテ事實ヲ認定シタル違法アルモノト云フニ在リ

【決定理由】 仍テ按スルニ原審公判調書中ニハ被告人正太郎ノ供述トシテ原判示事實第一(一)(イ)ノ後半事實ニ關シ

被告人正太郎ト藤十郎トノ間ニ金七百十圓供與ノ約束アリタル旨ノ記載アレトモ原判示ノ如ク金五百五十圓供與ノ約束ニアラズ原判示ノ金五百五十圓ハ金七百十圓ノ誤記ナリトスルモ右金七百十圓ヲ投票買収費及運動報酬費用トシテ授受スル旨ノ原判示事實ハ之ヲ否認シタル趣旨ノ記載アリ而シテ原判決ハ被告人等ノ公廷ニ於テ否認シタル事實ニ付キ各豫審訊問調書ノ供述記載ヲ證據トシテ示スルコトコトアレトモ右被告人正太郎ト藤十郎トノ右金錢供與ノ約束カ投票買収費用等トシテ成立シタリト認ムヘキ何等證據ノ看ルヘキモノナシ然ルニ原判決カ判示第一(一)(イ)ノ(ロ)ノ事實即チ被告人正太郎ト被告人牛房善次郎トノ間ニ金七百十圓供與ノ約束事實ニ付キ證據トシテ示スル供與ノ約束事實ニ對シテ豫審第一回訊問調書ノ供述記載ニヨレハ被告人正太郎ト藤十郎トノ間ニ供與ノ約束アリシ金七百十圓カ第二回投票買収費ナリシ事實ハ之ヲ認メ得ヘク但シ右金錢カ判示ノ如ク運動報酬ト認ムヘキモノナシト雖モ右供述記載サハ原判決ハ前掲第一(一)(イ)ノ(イ)ノ事實ノ證據トシテ之ヲ引用スルコトコトナキヲ以テ原判決ニハ結局所論判示事實ニ付キ證據理由ヲ説明セサル違法アリ論旨ハ各其ノ理由アルモノトス蓋シ原判決ノ證據說明ノ末尾ニ以上認定シタル諸事實ヲ綜合スレハ判示事實ヲ背認シ得ヘキ旨記載スルコトコトアレトモ該記載ハ證據ニヨリ認定シタル部分的事實ヲ綜合シテ判示犯罪事實ヲ夫々背認シ得ル旨ノ說明ニシテ各證據ヲ綜合シテ

各犯罪事實ヲ認定スル趣旨ニ付テハ、コト明白ナルカ故ナリ而シテ右違法ハ原判決カ右金錢供與ノ約束事實ト連繫犯ノ關係ニ在ルモノトシテ判示セル被告人正太郎ト藤十郎トノ間ニ金錢收受金員供與ノ周旋及金錢供與ノ約束ノ行為タル事實ヲ確定ニ不可分の影響ヲ及ボスヲ以テ被告人正太郎ニ對スル本件衆議院議員選舉法違反事件ニ付キ當院ニ於テ事實ヲ審理ヲ爲スヘク刑事訴訟法第四百四條ニ依リ主文ノ如ク決定シタリ

昭和六年九月七日
大審院第一刑事部裁判長列事 西川 一男
判事 清水 孝藏 判事 日高要次郎
判事 三宅正太郎 判事 杉浦 忠雄

昭和六年(九)第八三〇號
本籍並住居福岡縣那志免村大字
別府二百六十六番地
醬油醸造業 藤 正太郎
(明治十七年二月二十五日生)

右衆議院議員選舉法違反被告事件ニ付キ昭和五年十一月二十六日長崎控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告人ハ上告ヲ爲シタリ當院ハ昭和六年九月六日言渡シタル事實審理ノ決定ニ基キ更ニ審理ヲ遂ケ判決スルコト左ノ如シ

【主文】 原判決ヲ破毀ス、被告人正太郎ヲ禁錮三月ニ處シ未決勾留日數中四十日ヲ本刑ニ算入ス

【理由】 辯護人赤井幸夫大澤一六上告趣意書第二點論旨ノ理由アルコトハ當院ノ事實審理ノ決定ニ於テ説明シタル通りナリ、被告人正太郎ハ昭和五年二月二十日施行ノ衆議院議員選舉法違反罪關第一

區ノ議員候補者横山雄偉ノ選舉委員トシテ犯意繼續ノ上、第一(イ)同月十一日頃福岡市川端町初音館ニ於テ藤十郎カ右横山候補者ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ被告人居村方面ノ選舉運動ヲ依頼シ其ノ運動報酬並投票買収費トシテ供與シタル金五百圓ヲ收受シ(ロ)同日頃被告人ノ肩書住居ニ於テ同候補者ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ選舉人ナル牛房善次郎ニ其ノ選舉運動ノ報酬並投票買収費トシテ金五百圓ヲ供與シ、第二(イ)同月十八日前記初音館ニ於テ藤十郎ヨリ前項(イ)ト同様ノ目的趣旨ノ下ニ金七百十圓ヲ供與スヘキ旨ノ申込ヲ受ケ之ヲ承諾シ(ロ)同日頃被告人居村住居ニ於テ同目的ノ下ニ右牛房善次郎ニ對シ後日右藤十郎ヨリ右如ク供與セラルヘキ金七百十圓ヲ投票買収費トシテ供與スヘキ旨ノ約束ヲ爲シ、第三前記同日頃初音館ニ於テ右藤十郎ヨリ右候補者ノ爲ニ投票買収費トシテ金六百圓ヲ被告人ノ同村南里勝次ニ供與セラレ度キ旨ノ依頼ヲ受ケ之ヲ承諾シ該金員ヲ受取リ即日南里勝次方ニ持參シテ之ヲ同人ニ供與シ以テ周旋ヲ爲シタルモノナリ

右判示事實中第一ノ收受又ハ供與ノ金員圓カ判示ノ如ク本件ノ選舉運動報酬並投票買収費タル點第二ノ供與ノ約束承諾シ又ハ供與ノ約束ヲ爲シタル金七百十圓カ判示ノ如ク本件ノ投票買収費又ハ選舉運動報酬タル點第三ノ供與ノ周旋シタル金六百圓カ判示ノ如ク本件投票買収費タル點ノ事實ハ被告人正太郎ハ當院公廷ニ於テ之ヲ否認シ辯護人モ亦被告人ノ否認ト同様ノ主張ヲ爲スモ被告人正太郎ニ對

スル第一回豫審訊問調書中右各事實ヲ自認シタル趣旨ノ供述記載アレトモ被告人牛房善次郎ニ對シ第一回豫審訊問調書中同人ノ供述トシテ叙上第一ノ金五百圓ノ選舉運動報酬並投票買収費トシテ被告人正太郎ヨリ供與ヲ受ケタル旨ノ記載並二月十八日晚藤正太郎カ私ニ對シ横山派カラ第二回分ノ金七百十圓位近日中ニ來ル事ニナツテ居ル故其ノ事ヲ有權者ニ傳ヘ運動シテ與レト申シマシタリ、金員運動報酬並投票買収費アルコトハ云ハナクトモ判示居村住居私ハ藤十郎ト相談ノ上七百十圓ノ金カ來タラ之ヲ御手洗及別府ノ有權者ニ配付スルコトニ大體決定シタル旨ノ記載アレトモ被告人南里勝次、藤伊勢吉、城戸孫次ニ對シ衆議院議員選舉法違反被告事件ニ於ケル被告人南里勝次ニ對シ藤正太郎カ二月十八日夜藤十郎ノ使トシテ金六百圓ヲ私ノ自宅ニ持參シ買収運動ニ從事シテ居ル田原等モ來リ私ニ引續キ世話ヲ頼ミ金六百圓ヲ如何ニ分配シテ買収費ニ使ヘハヨイカ案文ヲ提出シテ與レト懇願セラレ私ハ分配案ヲ立テ其ノ場テ金ヲ狀袋ニ入レタル旨ノ記載アレトモ依リ之ヲ認定シ叙上被告人ノ辯解及辯護人ノ主張ハ之ヲ採用セス其ノ餘ノ判示事實ハ犯意繼續ノ點ヲ除キ被告人正太郎ハ當院公廷ニ於ケル其ノ旨ノ供述ニ依リ之ヲ認定シ、被告人判示各行爲カ犯意ノ繼續ニ係ル事實ハ判示ノ如ク短期間ニ同一ノ目的ヲ以テ同種ノ行爲ヲ果行シタル事跡ニ徴シ之ヲ認定ス

(イ)ノ點ハ衆議院議員選舉法第二百十二

又事實仰ノ通り相違アリマセムニ記録四二九丁)ト記載シタルヲ以テ被告人廣助カ原判決摘示ノ如キ供述ヲ爲シタルモノナリトナシ之ヲ罪證ニ供シタルモノトセハ右ノ供述ハ司法警察官意見書ト相俟テ一個ノ供述ヲナシ之ヲ離レテハ被告人廣助ハ如何ナル事實ノ供述ヲナシタルモノナリヤ知ルニ由ナキヲ以テ原審公判ニ於テ此ノ部分ニ對シ證據調ヲ爲スニハ第一審公判調書ヲ被告人等ニ讀開ケルト同時ニ司法警察官意見書ヲ被告人等ニ讀開ケ其ノ意見辯解ヲ求メサルハカラサルモノトス然ルニ原審公判調書ヲ開スルニ右司法警察官意見書ハ之ヲ被告人等ニ讀開ケ其ノ意見辯解ヲ求メタル事跡ノ微スヘキモノ存スル所ナク原判決ハ此ノ點ニ於テ虛無ノ證據ヲ罪證ニ供シタル違法ナルカ又ハ適法ニ證據調ヲ爲ササル證據ヲ罪證ニ供シタル違法ナルモノニシテ破毀スヘキモノト思料ス(第一點採用ノ判例参照)ト云フニ在リ

【決定理由】 仍テ記録ヲ査スルニ被告人廣助ニ關スル所論原判示事實ハ司法警察官意見書ニ明記アルト同時ニ第一審公判調書ニ所論ノ如キ記載存スルコト明ナルヲ以テ同被告人ハ第一審公判ニ於テ所論原判示事實ヲ自認セルコト論ハ俟タズ然レトモ右ノ被告人ノ供述ハ第一審公判調書ノ記載ト相俟テ前メテ之ヲ明確ニスルコトヲ得ヘキヲ以テ原判決カ之ヲ證據ニ供スルニハ右意見書ニ付テモ證據調ヲ爲スコトヲ要スルニ拘ラス原審公判調書ニ依レハ原審ニテハ第一審公判調書ヲ讀開ケ意見ヲ問ヒタルニ止リ右意見書ニ

細表ハ之ヲ被告人等ニ讀開ケ其ノ意見反證ヲ求メタル事跡ノ微スヘキモノ存スル所ナク原判決ハ此ノ點ニ於テ虛無ノ證據ヲ罪證ニ供シタル違法ナルト共ニ適法ニ證據調ヲ爲ササル證據ヲ罪證ニ供シタル違法ナルモノニシテ破毀スヘキモノト思料ス(第一點採用ノ判例参照)ト云フニ在リ

【決定理由】 仍テ記録ヲ査スルニ被告人廣助ニ關スル所論原判示事實ハ司法警察官意見書ニ明記アルト同時ニ第一審公判調書ニ所論ノ如キ記載存スルコト明ナルヲ以テ同被告人ハ第一審公判ニ於テ所論原判示事實ヲ自認セルコト論ハ俟タズ然レトモ右ノ被告人ノ供述ハ第一審公判調書ノ記載ト相俟テ前メテ之ヲ明確ニスルコトヲ得ヘキヲ以テ原判決カ之ヲ證據ニ供スルニハ右意見書ニ付テモ證據調ヲ爲スコトヲ要スルニ拘ラス原審公判調書ニ依レハ原審ニテハ第一審公判調書ヲ讀開ケ意見ヲ問ヒタルニ止リ右意見書ニ

右詐欺被告事件ニ付昭和六年五月七日名古屋地方裁判所ニ於テ言渡シタル第二審判決ニ對シ各被告人ハ上告ヲ爲シ當院ハ事實審理ノ決定ヲ爲シタルヲ以テ更ニ審理ヲ遂ケ判決スルコト左ノ如シ

【主文】 原判決ヲ破毀ス、被告人等ニ懲役貳年被告人健三ヲ懲役壹年被告人喜三郎ヲ懲役八月ニ處ス

【理由】 各被告人辯護人鶴澤總明上告趣意書第一點第二點第五點ハ理由アルコト當院カ昭和六年十月十五日爲シタル事實審理開始ノ決定ニ於テ説明セルカ如クナルヲ以テ更ニ被告事件ニ付審按スルニ被告人三名ハ原審相被告人原廣助及第一審相被告人西脇慶太郎、伊藤弘之ト共謀シ俗ニ所謂「インキ博打」ノ方法ニ依リ他人ヲ欺罔シ金員ヲ騙取セントコトヲ企テ名古屋市中區島田町三丁目三番地林直三及同市中區南桑名町三丁目十番地不破延一ヲ相手トシテ花札(證第一號)ヲ使用シ俗ニ「八八」又ハ「京カブ」ト稱スル博打ヲ爲スニ當リ被告人等二ハ手中ニ花札ヲ隠シ居リテ之ヲ巧ニ之ヲ他ノ花札

判例 江崎定次郎 判事 尾住竹 判事 磯田 嘉七

昭和六年(九)第九三〇號

本籍愛知縣中島郡稻澤町大字稻澤字 小澤九百一十一番地

住居名古屋市中區橫三ツ藏町四丁目 一番地、玉突業

原 哲 二

(明治二十一年七月十日)

外三名

ト取替ヘ被告人健三八俗ニ約ト稱スル方ニテ物ニ手掌ニ花札ヲ持テ居リ巧ニ之ヲ利用シ被告人等三郎ハ花札ヲ切リ際役札等二三枚ヲ捕ヘテ巧ニ之ヲ切り交セ該役札ヲ共謀者ニ與ヘ或ハ之ヲ自己ニ取リ廣助其ノ他ノ前審相被告人等ハ寄テ裝ヒ手合ヲ爲スニ拘ラス被告人等ハ該事實ヲ秘シ普通ノ方法ニ依リ手合ヲ爲スカ如ク裝ヒ右林及不破ヲシテ真正ニ輸贏ヲ決スルモノノ如ク誤信セシメ斯ル方法ニ依リ末尾添付ノ明細表中「犯時」及「犯行」場所「欄」記載ノ日時場所ニ於テ「犯罪實行ノ任」當リタル者ノ氏名「欄」記載シタル被告人及前審相被告人等ハ夫レ夫レ「被害者」ノ氏名「欄」記載シタル者ト前記方法ニ依リ賭博ノ手合ヲ爲シタル上同人等ヨリ十六回ニ亘リ「被害」欄「記載」シタル合計約二萬餘圓ヲ現金又ハ手形ニテ受取り騙取シタルモノニシテ右詐欺行爲ハ犯罪繼續ニ出テタルモノトス(證據略)

昭和六年(九)第八七七號

本籍大阪府西成區玉出町通リ一丁目二十番地

住居同市港區九條中通リ四丁目四百一番地、飲食店業

杉山 米 六

(明治廿七年七月一日)

外一名

右被告人半六ニ對スル背任詐欺、被告人清太郎ニ對スル背任贈賄被告事件ニ付昭和六年四月二十日大阪地方裁判所ニ於テ言渡シタル第二審判決ニ對シ各被告人ハ上告ヲ爲シタルヲ以テ檢察官井和義ノ意見ヲ聽キ決定スルコト左ノ如シ

【主文】 本件ニ付キ事實ノ審理ヲ爲ス【理由】 被告人藤井清太郎辯護人赤井幸夫上告趣意書第五點原判決ハ判示第一ノ(一)乃至(六)ノ事實ニ付キ上告人清

太郎ハ背任罪ノ共犯ナリトシテ刑法第二百四十七條ヲ適用處斷シタル然レトモ其ノ證據說明中ニ引用シタル證據ニ徴スレハ杉山半六ハ其ノ電話加入權ヲ擔保トシテ金員ヲ借用ヲ申込メル者ニ對シテハ其ノ始メヨリ其ノ契約書ニ依リ契約ヲ履行スルノ意思ナク藤井清太郎ヲシテ所謂其ノ處分ヲ爲サシメテ清太郎ヨリ借用セル金額ヲ取得セントスルノ意思ナリシヲ以テ固ヨリ正當ニ金借申込人ノ爲メ擔保權保存事務ノ處理ニ任シタルニアラサルヲ以テ杉山半六ノ所爲ハ他ノ犯罪ヲ構成スルハ格別背任罪ヲ以テ論スヘキニアラス從テ之レニ加功シタルトセラルル上告人清太郎ノ所爲亦其ノ共犯ヲ以テ處斷スヘキニアラサルナリ果シテ然ラハ原判決ハ事實理由ト證據理由ト互ニ相齟齬トシテ違法アルト同時ニ事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルモノニシテ此ノ點ニ於テ破毀ヲ免レサルモノト信スルコト云フニ在リ

【決定理由】 仍テ按スルニ原判決ハ其ノ第一ノ(一)乃至(六)ノ事實トシテ被告人半六ハ貸電話又ハ電話使用權ヲ擔保人ニ金融ヲ爲スヘキ旨ノ新聞廣告ヲ爲シ他方ノ電話使用權ヲ擔保トシテ金圓借用方ノ申込ヲ受クルヤ一方ニ於テ借主ヨリ該使用權ヲ賣渡擔保ニ取リ一定ノ期間貸金ヲ爲スコトトシ借主ニ於テ利息ノ前拂ヲ爲スコトキハ期限ヲ無限ニ延長シ元利金完済ノ際ニハ擔保人借主ニ賣渡シ借主名義ニ書替ヘ復歸セシメ借主カ利息ノ支拂ヲ怠リタルトキハ期限ノ利益ヲ失ヒ擔保人ノ特約ヲ無効トシ貸主ニ於テ任意ニ處分シ得ヘキ旨ヲ約シ他方清太郎ニ對シ其ノ電話使用權ヲ前同様に約定ノ下ニ賣渡擔保人入レテ同人又ハ同人指定ノ者ニ名義書替ノ上同人ヨリ自己ノ借主ニ對シテ貸付ノ金額以上ニ貸金ヲ交付シテ其ノ差額ヲ利用シ居タル者被告人清太郎ハ金融業等ヲ營ミ居タルモノナルコト被告半六ニ於テ淺井井市其ノ他ノ者等ヨリ前記ノ如ク金圓ノ借用申込ヲ受クルヤ同人並ニ被告人清太郎前記ノ如キ約定手續ヲ爲シタル上借主名義ノ電話使用權ヲ賣渡擔保ニ取リ金員ヲ貸付ケ以テ借主ノ爲メ該擔保保存ノ事務處理ニ任シタルニ拘ラス被告人清太郎ト共謀ノ上自己及勝太郎ノ利益ヲ圖リ若クハ借主ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ或ハ清太郎ニ對シ故意ニ利息ノ支拂ヲ怠リ契約違反ノ狀態ヲ發生セシメ或ハ又之ト同時ニ故リ借主ヨリ持參シタル利息ノ受領ヲ避ケ以テ自己又ハ自己及買主双方ノ擔保買戻ノ特約ヲ無効ニ歸セシメ因テ被告人清太郎ニ於テ契約不履行ノ理由トシテ電話機ヲ取り外シ以テ借主ニ對シ其ノ時價ト借主ノ借用殘金トノ差額ノ賣渡擔保ヲ廢ラシメ又ハ右契約不履行ノ理由トシテ電話機ヲ取り外スヘキ旨ヲ借主ニ告ケタル上借主ヨリ右使用權買戻ノ交渉ヲ受ケルヤ之ヲ借主ニ對シテ貸付金以上ノ代價ニ賣渡シ以テ借主ニ對シ其ノ差額ノ損害ヲ蒙ラシメタルト認定シ之ヲ刑法第二百四十七條所定ノ背任罪ニ問擬シタル然レトモ右判示ニ依レハ被告人半六ハ被告人清太郎ニ對シ利息ノ支拂ヲ怠リタルト云フト雖モ之レ兩者共謀ノ上恰モ契約違反アルカ如キ狀

(11)

態ヲ作爲センカ爲メ半六ニ於テ故ラニ支拂ヲ爲サカリシト云フニアルカ故ニ之ヲ以テ眞ノ契約違反ナリト爲スヲ得サルハ...

昭和六年十月八日 大審院第一刑事部裁判長判事 西川 一男 判事 清水 孝藏 判事 日高要次郎 判事 三宅正太郎 判事 杉浦 忠雄

本籍大阪府西成區玉出町通一丁目二十番地 住居同市港區九條南通四丁目三百三十五番地、京屋自轉車商店田中敏介方、飲食店業

右被告人半六ニ對スル背任罪被告清太郎ニ對スル背任罪被告清太郎ニ對スル背任罪被告清太郎ニ對スル背任罪...

日右各本刑ニ算入ス、訴訟費用ハ全部被告人清太郎ノ負擔トス

昭和六年(九)第八七七號 本籍大阪府西成區玉出町通一丁目二十番地

住居同市港區九條南通四丁目三百三十五番地、京屋自轉車商店田中敏介方、飲食店業

右被告人半六ニ對スル背任罪被告清太郎ニ對スル背任罪被告清太郎ニ對スル背任罪...

付シタル金額ト電話使用權時價トノ差額金ヲ借主ヨリ交付セシメテ騙取セントコトヲ企テ(一)半六ハ昭和四年九月十八日頃前記住居ニ於テ淺井増市ヨリ同人名義...

昭和六年(九)第一五八七號 本籍岡山縣淺口郡玉島町大字柏島七十一番地

住居神戸市石井町三丁目九十三番屋敷金藏業

右被告人半六ニ對スル背任罪被告清太郎ニ對スル背任罪被告清太郎ニ對スル背任罪...

中川ヨリ買戻ノ交渉ヲ受ケタルヤ前記清太郎住居ニ於テ金千五百圓ニテ賣戻ヲ爲シ半六ヨリ交付シタル金九百圓トノ差額金...

昭和六年(九)第一五八七號 本籍岡山縣淺口郡玉島町大字柏島七十一番地

住居神戸市石井町三丁目九十三番屋敷金藏業

右被告人半六ニ對スル背任罪被告清太郎ニ對スル背任罪被告清太郎ニ對スル背任罪...

刑事判例

判決ニ示スヘキ判斷ヲ遺脱シタル違法
被告ノ異議無キ旨ノ陳述ト不法ナル辯護權ノ制限

昭和七年二月十日

大審院第三刑事部裁判長判事 中西 用徳
判事 中尾 芳助 判事 草野約一郎
判事 岸 達也

昭和六年(九)第一五八七號

本籍岡山縣淺口郡玉島町大字柏島七
十一番地
住居神戸市石井町三丁目九十三番屋
敷、金融業

森川 卯三郎

(明治二十四年十一月一日生)

右被告等事件ニ付昭和六年十月二十三
日神戸地方裁判所ニ於テ言渡シタル第二
審判決ニ對シ被告等ハ上告ヲ爲シ本院ハ
昭和七年二月十日事實審理ヲ爲ス旨ノ決
定ヲ爲シタルヲ以テ同決定ニ基キ更ニ審
理ヲ遂ケ判決スルコト左ノ如シ

【主文】 原判決ヲ破毀ス、被告人ヲ罰金
二十四圓ニ處ス、右罰金ヲ完納スルコト
能ハサルトキハ被告人ヲ十日間勞務場
ニ留置ス

【理由】 辯護人赤井幸夫上告趣意書第一
點ノ理由アルコトハ曩キ本院ニ於テ爲
シタル事實審理開始ノ決定ニ於テ説明ス
ル所ノ如シ仍テ更ニ審理ヲ遂ケタルニ
被告人ハ神戸市石井町三丁目九十三番
三番屋敷所在家屋ヲ賃借シ兩人間ニ家賃
値下等ニ付紛争ヲ重ネ居リタル處被告人
ハ昭和六年三月七日午後六時頃家賃金請
求ノ爲來リタル白藤口論ノ末同家屋支
開口ノ上間ニ於テ兩手ヲ以テ同家屋支
ハシ其ノ場ニ顛倒セシメ同家屋支

家格子戸ヨリ屋外ニ出ツルヲ追跡シ「ス
ツキ」ヲ以テ同人ヲ毆打シ因テ其ノ右
肩胛間部ニ治療日數約二週間ヲ要スル打
撲傷ヲ被ラシメタルモノナリ(證據略)

被告人及辯護人ハ本件行爲ハ正當防衛ニ
該當スト主張スルモ前掲證據ニ依リ其ノ
理由ナキコト明ナリ、之ヲ法律ニ照スニ
被告人ノ所爲ハ刑法第二百四條ニ該當ス
ルヲ以テ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ被告人
ヲ罰金二十四圓ニ處シ右罰金ヲ完納スルコ
ト能ハサルトキハ同法第十八條ニ依リ被
告人ヲ十日間勞務場ニ留置スヘキモノト
ス、右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四
百四十七條第四百四十八條ニ則リ主文ノ
如ク判決ス

被告等々波與佐太郎

昭和七年四月十三日

大審院第三刑事部裁判長判事 中西 用徳
判事 中尾 芳助 判事 草野約一郎
判事 高瀬幸七郎 判事 岸 達也

昭和七年四月十三日

被告等々波與佐太郎

昭和七年四月十三日

大審院第三刑事部裁判長判事 中西 用徳
判事 中尾 芳助 判事 草野約一郎
判事 高瀬幸七郎 判事 岸 達也

昭和七年四月十三日

【決定理由】 仍テ原審公判調書ヲ査閱ス
ルニ辯護人相垣正二ハ被告人ノ原審公判
廷ニ於ケル自分ハ白藤房吉ヨリ暴行ヲ受
ケタルニ因リ之ヲ排除シ自己ノ權利ヲ防
衛スル爲メ已ムコトヲ得ルモノト主張シ
リタル旨ノ供述ヲ採用シ被告人ノ行爲ハ
正當防衛ニ該當スル旨ヲ陳述シタル趣旨
ノ記載アリ此ノ陳述ハ刑事訴訟法第三百
六十條第二項ニ所謂犯罪ノ成立ヲ阻却ス
ヘキ事由タル事實上ノ主張ナルヲ以テ原
審ハ之ニ對シ判断ヲ示スヘキ筋合ナル
ニ原判決ニ之ヲ認ムヘキ記載ナキニ因リ
同判決ハ同法第四百十條第二十號ニ所謂
判決ニ示スヘキ判斷ヲ遺脱シタル違法
アルモノニシテ此法令ノ違反ハ原判決ニ影
響ヲ及ベスヘキモノトス論旨ハ理由アリ
因テ爾餘ノ論旨ニ對シ説明ヲ省略シ同
法第四百十條ニ則リ主文ノ如ク決定ス

辯護人ノ一人ノ立會無キ
公判廷ノ供述ト其證據力

辯護人ニ對シ公判期日ニ違法ナル召喚ヲ
爲サシテ公判ヲ開廷シ辯護人ハ立會無
クシテ被告人ヲ訊問シタル場合ニ於テハ
其ノ供述ハ之ヲ證據ト爲スヲ得ス
昭和六年(九)第二三三號
決定

本籍廣島縣賀茂郡御園宇村三百五十
一番屋敷
住居廣州市八丁堀六十一番地
劇場書記 古谷 重助

(明治十七年十一月五日生)

外二名

右被告人卯吉、象六ニ對スル偽造有價證
券交付、被告人勘一ニ對スル偽造有價證
券交付及同幫助、被告人重助ニ對スル偽
造有價證券交付行使及詐欺各被告事件ニ
付昭和六年一月十二日廣島控訴院ニ於
テ言渡シタル判決ニ對シ被告人等ハ上告
ヲ爲シタル旨ヲ檢事松井和義ノ意見ヲ聽
キ決定スルコト左ノ如シ

【主文】 本件ニ付事實ノ審理ヲ爲ス
【理由】 被告人勘一辯護人大谷彰一上告
趣意書第一點原判決ヲ採證ニ違法アリ原
判決ハ第六事實ニ對シ證據ヲ都ニ「判
示第一ノ二事實ニ付キ示シタル」一、
二、三、四、七ノ證據ト説示シタル即

刑事判例

被告ノ異議無キ旨ノ陳述ト不法ナル辯護權ノ制限

昭和七年二月十日

大審院第三刑事部裁判長判事 中西 用徳
判事 中尾 芳助 判事 草野約一郎
判事 岸 達也

昭和六年(九)第一五八七號

本籍岡山縣淺口郡玉島町大字柏島七
十一番地
住居神戸市石井町三丁目九十三番屋
敷、金融業

森川 卯三郎

(明治二十四年十一月一日生)

右被告等事件ニ付昭和六年十月二十三
日神戸地方裁判所ニ於テ言渡シタル第二
審判決ニ對シ被告等ハ上告ヲ爲シ本院ハ
昭和七年二月十日事實審理ヲ爲ス旨ノ決
定ヲ爲シタルヲ以テ同決定ニ基キ更ニ審
理ヲ遂ケ判決スルコト左ノ如シ

【主文】 原判決ヲ破毀ス、被告人ヲ罰金
二十四圓ニ處ス、右罰金ヲ完納スルコト
能ハサルトキハ被告人ヲ十日間勞務場
ニ留置ス

【理由】 辯護人赤井幸夫上告趣意書第一
點ノ理由アルコトハ曩キ本院ニ於テ爲
シタル事實審理開始ノ決定ニ於テ説明ス
ル所ノ如シ仍テ更ニ審理ヲ遂ケタルニ
被告人ハ神戸市石井町三丁目九十三番
三番屋敷所在家屋ヲ賃借シ兩人間ニ家賃
値下等ニ付紛争ヲ重ネ居リタル處被告人
ハ昭和六年三月七日午後六時頃家賃金請
求ノ爲來リタル白藤口論ノ末同家屋支
開口ノ上間ニ於テ兩手ヲ以テ同家屋支
ハシ其ノ場ニ顛倒セシメ同家屋支

即チ原判決ハ第四回公判ニ於ケル被告卯
吉ノ供述ヲ右各事實認定ノ資料ニ供シタ
ルモノナリトシ何トナレハ第四回公判ニ
於テハ十五日以上開廷セザリシトノ事由
ニヨリ審理ヲ更新シタルコトハ同公判調
書ニヨリ明ナレハナリ然ルニ第四回公判
ニ於テハ前點ニ述フルカ如ク被告人卯吉
ノ辯護人中田根太ニ公判期日召喚狀ヲ發
セシメシテ同辯護人不出廷ノ儘公判ヲ發
モセシメシテ同辯護人不出廷ノ儘公判ヲ
開廷シ審理ヲ爲シタルモノニシテ同辯
護人ノ辯護權ヲ不法ニ制限シ公判手續上
重大ノ違法アルモノナルヲ以テ同公判
於ケル被告人卯吉ノ供述ハ刑事訴訟法上
證據トナスコトヲ得サルモノトス然ルニ
之ヲ採テ本件斷罪ノ資料ニ供シタル原
判ハ採證ノ法則ニ違背シ破毀ヲ免レサル
モノト信スト云ヒ

第三點原判決ハ其ノ第一、二、第三
ノ一、二、第四、第六、第五、一、二事
實ノ證據トシテ被告末廣ノ原審公判廷ニ
於ケル供述ヲ採用シタルニ原審公判
調書ヲ閱スルニ被告末廣ニ對シテハ其
ノ第三回公判ニ於テ一旦結審シタルモ其
ノ後法廷外ニ於テ辯論再開ノ決定ヲ爲シ
(記錄三五二四丁) 昭和五年十二月二十
六日第四回公判ヲ開廷シ審理ヲ更新シタ
ルモノナリトス然ルニ同公判調書ヲ閱ス
ルニ被告末廣ノ辯護人タル辯護士角倉晋
造不出頭ノ旨記載アリ(辯護届一三二〇
七丁) 仍テ同辯護人ニ對シ適法ニ公判期
日召喚狀ヲ送達シタル否ヤ否ヤ調査スル
ニ同辯護人ニ對シ第四回公判期日召喚
和五年十二月二十六日公判期日召喚狀
ヲ送達シタル事跡ナキハ勿論同辯護人ヨ

リ同公判期日出頭請書ヲモ徵シタル事跡
存セサルニ拘ラス同辯護人不出廷ノ儘公
判ヲ開廷シ審理ヲ爲シタルハ同辯護人ノ
辯護權ヲ不法ニ制限シタルモノニシテ公
判手續上重大ナル違法アルモノト云フヘ
ク同公判ニ於ケル被告人末廣ノ供述ハ證
據トナスコトヲ得サルモノトス然ルニ之
ヲ採テ本件斷罪ノ資料ニ供シタル原判決ハ
採證ノ法則ニ違背シ破毀ヲ免レサルモノ
ト信スト云フニ在リ

【決定理由】 仍テ記錄ヲ調査スルニ被告
人卯吉、昭和五年十二月三日ノ原審第三
回公判ニ出頭セザリシ爲メ原審ハ同被告
人ニ對シル事件ヲ他ノ被告人ニ對スル事
件ト分離シ其ノ後同月二十六日公判期
日ト定メテ被告人卯吉及其ノ辯護人ノ一
人高橋光次ニ之ヲ告知シ又原審相被告人
秋山末廣ニ對スル事件ハ右原審第三回公
判ニ於テ結審トナリタルモ同月十七日辯
論再開ノ決定アリ原審ハ同月二十六日
公判期日ト定メテ被告人末廣及其ノ辯護
人ノ一人高橋武夫ニ之ヲ告知シタルコト
明ニシテ更ニ原審第四回公判調書ニ依レ
ハ右昭和五年十二月二十六日ノ公判期日
ニハ被告人卯吉及其ノ辯護人高橋光次
被告人末廣及其ノ辯護人高橋武夫出頭シ
被告人卯吉辯護人中田根太、被告人末廣
辯護人角倉晋造ハ出頭セシメシテ公判開
カレ右被告人兩名ニ對シ各事件ハ併合
審理セラレ各被告人ノ訊問及證據ノ取調
ヲ了シ檢事並ニ出頭シタル各辯護人ノ意
見ノ陳述アリテ結審トナリタルコトヲ認
ムルニ足ルアリテ右期日ニ出頭セザリシ
辯護人中田根太、角倉晋造力夫々當該被
告人ノ辯護人トシテ選任セラレタルモノ

刑事判例

被告ノ異議無キ旨ノ陳述ト不法ナル辯護權ノ制限ニ辯護人ノ一人ノ立會無キ公判廷ノ供述ト其證據力

ナルコト記録上明瞭ナルヲ以テ原告ハ果シテ兩辯護人ニ對シテ適法ニ右期日ノ告知ヲ爲シタルモノナリヤト按スルニ右期日ハ前示ノ如ク原告公判期日外ニ於テ之ヲ定メタルモノナルトコロ之ヲ前記辯護人

若シ又右答述ノ趣旨ヲ解シテ各被告人カ夫々不出頭ノ辯護人ヲ解任シタルモノハルトモ、カ爾後其ノ辯護人ノ權限ハ消滅スヘク、從テ辯護權ノ侵害アルコトナカ

以上說示シタル破毀ノ理由タル違法ハ原判決ノ認定シタル事實ノ確定ニ影響ヲ及ボスヲ以テ他ノ上告論旨ニ對スル判斷ヲ

二十一號乃至二十三號第三十五號ノ變造部分ハ之ヲ沒收ス、訴訟費用中證人津田謙吉、平田政吉、西本忠藏、田村益、藤田定市、宮田眞六ニ支給シタル分及鑑定人吉田義夫ニ支給シタルモノノ十七分ノ一ハ被告人ノ負擔トス

刑事判例

被告人ノ異議無キ旨ノ陳述ト不法ナル辯護權ノ制限ニ辯護人ノ一人ノ立會無キ公判廷ノ供述ト其證據力

込ミ同店員ヲシテ該株券ヲ真正ナルモノト誤信セシメテ之ヲ擔保ニ取りテ德兵衛ヨリ金三千圓ヲ吉田太郎ニ貸與スルコトヲ承諾セシメ仍テ同店員ヨリ即時同所ニ於テ貸借名義ノ下ニ金二千九百五十五圓ヲ受取り之ヲ騙取シ、更ニ同年二月三日

ヲ行使シテ更ニ前記廣石信用組合ヨリ金四圓ヲ騙取セントコトヲ企テ二月二十八日同組合ニ於テ前記理事石井辰五郎ニ對シテ變造公債證書ヲ真正ナルモノノ如ク提示シタル上之ヲ擔保トシテ金圓ヲ貸與スルコトヲ承諾セシメ仍テ同店員ヨリ即時同所ニ於テ貸借名義ノ下ニ金一千七百九十二圓七十八錢ヲ受取り之ヲ騙取シ、同年二月十三日秋山

ハレタルモノトス(證據略)法律ニ照スニ被告人カ偽造又ハ變造ニ係ル有價證券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ交付シタル點ハ夫々刑法第六十三條第一項ニ詐欺ノ點ハ夫々刑法第二百四十六條第一項ニ該當スルコトコロ第一、四第二、二ノ變造又ハ偽造ノ有價證券ノ一括交付ハ何レモ一個ノ行為ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルルヲ以テ各同法第五十四條第一項前段ヲ適用シ夫々其ノ中一枚ヲ交付シタル罪ノ刑ニ從フヘク以上ノ行使交付ノ行為及詐欺ノ行為ハ夫々連續犯ナルヲ以テ同法第五十五條ヲ適用シ各罪トシテ處分シテ右兩罪ノ行為ハ手段結果ノ關係ニアルヲ以テ同法第五十四條第一項後段ヲ適用シ前者ノ罪ノ刑ニ從ヒ其ノ所定刑罰範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役一年二月ニ處シ同法第二十一條ニ依リ第一審ニ於ケル未決勾留日數中九十日ヲ右本刑ニ算入シ押收品中主文特記ノモノハ本件行使又ハ交付ノ罪ヲ組成シタル偽造有價證券又ハ變造有價證券ノ變造部分ニシテ何人ノ所有ニモ屬セサルヲ以テ同法第十九條第一項第一號第二項ニ依リ之ヲ沒收シ訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ依リ主文ノ如ク負擔セシムヘキモノトス、叙上ノ理由ニ基キ刑事訴訟法第四百四十七條第四百四十八條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

●整理不盡ト重大ナル事實ノ誤認本籍大分縣速見郡南由布村大字中川六百二十三番ノ一住居同縣北海郡那佐賀町字須賀自動車運轉手 上 田 豐 (三十七年)右業務上過失傷害被告事件ニ付昭和六年七月十四日大分地方裁判所ニ於テ言渡シタル第二審判決ニ對シ被告人ハ上告ヲ爲シタリ因テ檢察官并和義ノ意見ヲ聽キ決定スルコト左ノ如シ

【理由】辯護人野野上告意書原判決ニ於テ被害者本光子ノ負傷ヲ被告ノ過失ニ因ルモノナリトシ被告ニ業務上過失傷害ノ罪ヲ認メタルハ法律上適用ヲ誤リタル不法アルモノトス同原判決摘示ノ事實ヲ見ルニ被害者本光子カ負傷シタルハ同人カ被告機銃ノ自動車ノ進路ヲ横斷セントシタルニ自動車カ近接シ身邊ニ迫リタル爲メ狼狽シテ地面ニ自動車左前部車輪ニ頭部ヲ位置シ自動車進路ニ直角ノ方向ニ俯向ニ倒シ同人前部車輪トハ五、六寸ノ間隙ヲ存シ再ヒ自動車ヲ同人ニ衝突セシムルコトナカリシモ同人ヲシテ其ノ路面ニ倒レタルニ因リ其ノ顔面ニ治療一週間ヲ要スル擦過性打撲傷ヲ蒙ラシメタルモノナリト謂フニ在リテ被害者ノ負傷カ被告機銃ノ自動車ニ直接離レテ生シタルモノニアラサルコトハ明瞭ナリ然ルニ原判決カ確定被告ニ罪責アリト爲ス所

刑事判例

▲審理不盡ト重大ナル事實ノ誤認▲非法定運動者タル選舉人ノ選舉運動並ニ報關受領ト擬律

倒レタルニ因リ負傷シタル事實トノ間ニ因果關係ノ存在ヲ肯定シタルカ故ナリ然シ其本件ノ場合被害者カ自動車ヲ認メ狼狽シテ地面ニ倒レ負傷シタルコトハ被告カ如何ニ滿全ノ注意ヲ拂フモ到底避ケ難キ結果ニシテ假ニ被告ニ過失アリトスルモ其ノ過失ト被害者ノ負傷トノ間ニ所謂相當因果ノ關係ヲ認ムルコトハ吾人ノ社會經驗乃至法律常識ニ照シ能ハサル處ニ屬ス從テ原判決ハ冒頭所述ノ如ク法律ノ適用ニ付過誤アル不法ノモノタルヲ免レスト云フニ在リ

【決定理由】 因テ案スルニ原判決ノ認メタル事實ハ「被告ハ大分縣北海部郡佐賀町町田生田定ニ自動車ヲ運轉中シテ昭和五年七月ヨリ大分市佐賀町町間ノ自動車運轉ノ業務ニ従事シ居ルモノナルトコト(中略)被告ハ事故ニ出テス依然同一速力ヲ繼續シテ進行シタリシカハ本光子ト約一問ノ距離ニ接近シタル際突如同人カ道路ヲ横斷セントシテ走り出ツルヤ直チニ之ヲ認メタル被告ハ自動車ヲ左方ニ轉回シ且急停車ノ處置ヲ執リ危險ヲ避ケンシタルモ情力ニテ自動車ハ一問位進行シテ停車シ光子ハ自動車近接シ身邊ニ迫リタルヲ狼狽シテ地面ニ自動車ノ左前部車輪ニ頭部ヲ位置シ自動車進路ニ直角ノ方向ニ俯向ニ倒レ同人ト前部車輪トハ五、六寸ノ間隙ヲ存シ幸ヒ自動車ヲ同人ニ衝突セシムルコトナカリシモ同人ヲシテ其ノ路面ニ倒レタル爲ニ因リ其ノ顔面ニ治療約一週間ヲ要スル擦過性打撲傷ヲ被ラシメタルモノナリト云フニ在ルモ其ノ引用セル證據ヨリ之ヲ觀レハ本光子カ地面ニ俯向ニ

倒レ其ノ顔面ニ治療約一週間ヲ要スル擦過性打撲傷ヲ被リタルハ被告ハ本光子カ將タ光子カ右自動車ニ關係ナク地面ニ倒レテ右負傷ヲ被リタルハ本光子カ行為ノ結果トハハ因果關係ノ存在ヲ肯定スルニ十分ナル證據アルニテ案スルニ本件縣道ハ原判決ノ如ク幅員五、六五メートルアリトセハ被告ハ其際道路ノ中央ヲ進行シテ光子ノ倒レタル場所ヲ避ケタルコト能ハサルヤ若シ當時ノ状況ニシテ到底避ケタルコト不能ナリシトセハ本件事故ハ不可抗力ニ依リ發生シタルモノト謂ハサルヲ得ス若シ又被告ハ其他ニ善處スヘキ便宜ノ處置ヲ講スコトヲ怠リタルモノトセハ其ノ實被告ハ在リト謂フヘク以上何レニスルモ更ニ事實ノ確定ヲ俟ツニ非サレバ本件過失傷害ノ責任認メ難ク原判決ニハ重大ナル事實ハ誤認アルモノト認ムヘキヲ以テ本論旨ハ結局其ノ理由アルニ歸ス仍テ刑事訴訟法第四百三十四條第三項第四百四十四條ニ則リ主文ノ如ク決定ス

昭和六年十一月二十一日
大審院第三刑事部裁判長判事 中西 用徳
判事 中尾 芳助 判事 三宅 正太郎
判事 高瀬 幸七郎 判事 岸 達也
昭和六年(刑)第一二二一號
判決
本籍大分縣遠見郡南由布村大字中川
六百二十三番地
住居同縣北海部郡佐賀町町田字須賀
自動車運轉手 上 田 豊
(宣三十八年)

右業務上過失傷害被告事件ニ付昭和六年七月十四日大分地方裁判所ニ於テ言渡シタル第二審判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シ當院ハ昭和六年十一月二十一日事實審理ヲ爲スヘキ旨決定シ言渡シタル因テ更ニ審理ヲ遂ケ判決スルコト左ノ如シ
【主文】 原判決ハ之ヲ破毀ス、被告人豊ハ無罪
【理由】 辯護人豊野上告趣意書ハ理由アリテ原判決ノ破毀スヘキコトハ本件事實審理開始決定ニ於テ説示スル所ナリ因テ本案ノ事實ヲ審理スルニ、本件公訴事實ハ被告ハ自動車運轉手ナルトコト昭和五年十月十四日午前九時五十分頃大分縣第六七一號自動車ヲ操縱シ大分市ヨリ佐賀町町間ニ向ヒ約十五哩ノ速力ヲ以テ北海部郡坂ノ市町大字久原字日吉原ノ縣道ヲ進行中日吉原精米所ノ傍道路右側ニ本光子外幼兒二名カ自動車ヲ進行シ來ルヲ知ラスシテ嬉遊シ居ル妻ヲ認メ乍ラ道路左側ヲ進行セハ無事通過シ得ヘシト輕信シ不注意ニモ速力ヲ低下セ且豫メ萬一急停車ノ用意ヲ爲サスシテ漫然幼兒等ヨリ約一問ノ近傍ニ差掛リタル過失ニヨリ偶々本光子(五歲)カ自動車ヲ接近セルヲ知ラスシテ道路ヲ横斷セントシテ自動車前部ヲ走り出テタルヲ見テ狼狽シ急停車ノ處置ヲ爲シタルモ及ハス同女ヲ地上ニ突倒シテ其ノ顔面ニ治療約一週間ヲ要スル擦過性打撲傷ヲ被ラシメタルト謂フニ在レトモ、右事實ヲ認ムヘキ證據ナキヲ以テ被告ハ對シテハ無罪ノ言渡ヲ爲スヘキモノトス然ルニ原審ニ於テ被告ハ業務上過失傷害被告事件ヲ確定スヘキ證據アリタリトシテ有罪

判決ヲ爲シタルハ重大ナル事實ノ誤認アルモノニシテ原判決ハ破毀ヲ免レス因テ刑事訴訟法第四百四十七條第四百四十八條第四百五十五條第三百六十二條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事松井和義關與
昭和七年五月七日
大審院第三刑事部裁判長判事 中西 用徳
判事 中尾 芳助 判事 草野 一郎
判事 高瀬 幸七郎 判事 岸 達也

右業務上過失傷害被告事件ニ付昭和六年七月十四日大分地方裁判所ニ於テ言渡シタル第二審判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シ當院ハ昭和六年十一月二十一日事實審理ヲ爲スヘキ旨決定シ言渡シタル因テ更ニ審理ヲ遂ケ判決スルコト左ノ如シ
【主文】 原判決ハ之ヲ破毀ス、被告人豊ハ無罪
【理由】 辯護人豊野上告趣意書ハ理由アリテ原判決ノ破毀スヘキコトハ本件事實審理開始決定ニ於テ説示スル所ナリ因テ本案ノ事實ヲ審理スルニ、本件公訴事實ハ被告ハ自動車運轉手ナルトコト昭和五年十月十四日午前九時五十分頃大分縣第六七一號自動車ヲ操縱シ大分市ヨリ佐賀町町間ニ向ヒ約十五哩ノ速力ヲ以テ北海部郡坂ノ市町大字久原字日吉原ノ縣道ヲ進行中日吉原精米所ノ傍道路右側ニ本光子外幼兒二名カ自動車ヲ進行シ來ルヲ知ラスシテ嬉遊シ居ル妻ヲ認メ乍ラ道路左側ヲ進行セハ無事通過シ得ヘシト輕信シ不注意ニモ速力ヲ低下セ且豫メ萬一急停車ノ用意ヲ爲サスシテ漫然幼兒等ヨリ約一問ノ近傍ニ差掛リタル過失ニヨリ偶々本光子(五歲)カ自動車ヲ接近セルヲ知ラスシテ道路ヲ横斷セントシテ自動車前部ヲ走り出テタルヲ見テ狼狽シ急停車ノ處置ヲ爲シタルモ及ハス同女ヲ地上ニ突倒シテ其ノ顔面ニ治療約一週間ヲ要スル擦過性打撲傷ヲ被ラシメタルト謂フニ在レトモ、右事實ヲ認ムヘキ證據ナキヲ以テ被告ハ對シテハ無罪ノ言渡ヲ爲スヘキモノトス然ルニ原審ニ於テ被告ハ業務上過失傷害被告事件ヲ確定スヘキ證據アリタリトシテ有罪

判決ヲ爲シタルハ重大ナル事實ノ誤認アルモノニシテ原判決ハ破毀ヲ免レス因テ刑事訴訟法第四百四十七條第四百四十八條第四百五十五條第三百六十二條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事松井和義關與
昭和七年五月七日
大審院第三刑事部裁判長判事 中西 用徳
判事 中尾 芳助 判事 草野 一郎
判事 高瀬 幸七郎 判事 岸 達也

判決ヲ爲シタルハ重大ナル事實ノ誤認アルモノニシテ原判決ハ破毀ヲ免レス因テ刑事訴訟法第四百四十七條第四百四十八條第四百五十五條第三百六十二條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事松井和義關與
昭和七年五月七日
大審院第三刑事部裁判長判事 中西 用徳
判事 中尾 芳助 判事 草野 一郎
判事 高瀬 幸七郎 判事 岸 達也

刑事判例

▲審理不盡ト重大ナル事實ノ誤認▲非法定運動者タル選舉人ノ選舉運動並ニ報關受領ト擬律

昭和七年(刑)第三〇七號
判決
本籍並住居高知縣吾川郡小川村新別
千三百五番地、農桑
谷 岡 時 久
(明治十九年二月一日生)

右縣會議員選舉期前被告事件ニ付昭和七年二月九日高知地方裁判所ニ於テ言渡シタル第二審判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シタルコト判決スルコト左ノ如シ
【主文】 原判決ハ之ヲ破毀ス、被告ハ罰金七十圓ニ處ス、右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ被告ハ罰金二圓ヲ一日ニ折算シタル期間勞務場ニ留置ス被告ヨリ罰金五圓ヲ追徴ス
【理由】 辯護人細川彦太郎上告趣意書一、上告人ハ民政黨員ニシテ其ノ下級團體タル吾川郡同志會内ノ下級團體タル吾川郡政治研究會ヨリ候補者選考委員トシテ推薦サレタル等汎ク民政黨員タル事ヲ認識サレタル者ニシテ何人ノ指示容喙ヲモ受ケタルコトナク當然民政黨員候補者トシテ投票セザルハカラサル立場ニ在リ依テ何人ト雖上告人ヲ買収シテ民政黨員候補者ニ投票セシメント考フル者モナカルヘク殊ニ多年ノ同志タル久保光次ニ於テ斯ル意思ヲ有スヘキ管ナク上告人又對價ニ依テ之ニ投票セントスルノ意ナキモノナルコトハ常識上明ナルニモ不拘第二審裁判所ニ於テハ民政黨員候補者赤堀赤心ノ爲ニ投票ヲナシタルコトノ報關トシテ金五圓ノ供與ヲ受ケタルモノト認定シタルハ重大ナル事實ノ誤認ナリト云ヒ二、上告人ハ久保光次ヨリ赤堀赤心ノ爲ニ世話ヲスル様ノ相談ヲ受ケタル際ニ農繁期ノ場合

ニ付世話ヲ致シ難キ旨答ヘ置キタル而巳ナラス事實何等ノ運動ヲモ爲シタルモノニ在ラサルニ第二審裁判所ニ於テハ上告人カ赤堀赤心ノ爲ニ選舉運動ヲ爲シタルモノノ如ク認メ其ノ報關トシテ金五圓ヲ受領シタルモノト認メタルハ之亦重大ナル事實ノ誤認ナリト云フニ在リテ所論ハ畢竟原判決ニ副ハサル事實主張延テ事實ノ認定ヲ批難スルニ在ルモ記録ヲ精査スルニ原判決ニハ重大ナル事實ノ誤認アルヲ見ス論旨何レモ其ノ理由ナシ三、上告人カ久保光次ヨリ罰金五圓ヲ受ケタルハ選舉終了後二週間餘ヲ經テ昭和六年十月二十日頃ノ事ナリ府縣制第四十條ニ依リ準用サレタル衆議院議員選舉法第百二十二條ニ依レハ投票ヲ爲シ又選舉運動ヲナシタルコトノ報關トシテ供與ヲ受ケタルカ又ハ其ノ約束ヲ爲スカ或ハ其ノ約束ヲ爲シテ投票ヲ爲シ又ハ選舉運動ヲ爲シタル場合ニ處ルサルヘキモノナルコトハ明ナリ上告人ハ投票ヲ爲シ又ハ選舉運動ヲ爲シタル爲ノ報關トシテ供與ヲ受ケタルモノニアラサルコトハ前述ノ如シ上告人ハ民政黨員トシテ平常黨ノ爲ニ盡力スルモノナルカ候補者選定ノ前ニ當リ選舉用務ニテ居所ヲ去ルコト十里ニ近キ高知市ニ往復シテ數日ノ日時ト相當多額ノ金錢ヲ使用シタル故ニ久保光次ヨリ提供サレタル金ハ一旦受領ヲ遠慮シタルトモ強テ與ヘラルルヲ以テ之ヲ受領シ前記失費ノ補ヒト爲スモ敢ヘテ恥ツヘキ行為ニ在ラスト信シ之ヲ受領シタルモノナリ然ルニ第二審裁判所ニ於テ上告人ノ右行為ヲ有罪ト認定シタルハ右法條ニ背反スルモノナリト云フニ在リ

【判決理由】 然レトモ法定ノ選舉運動者ニ非サル選舉人カ特定ノ議員候補者ノ爲ニ投票方及選舉運動ヲ依リテ其ノ投票及運動ヲ爲シタル後之カ報關ヲ受ケタルハハ府縣制第四十條ニヨリ準用サルハキ衆議院議員選舉法第百二十二條ノ罪ニ依リテ罰金五圓ニ處スルモノトス然ルニ原判決ニ於テ被告ハ爲スヘキモノトス因テ原判決ノ認定シタル事實ヲ法律ニ照スニ被告ハ所有中無資格運動ノ點ハ府縣制第四十條衆議院議員選舉法第九十六條第九十九條ニ全量收受ノ點ハ府縣制第四十條衆議院議員選舉法第百二十二條第四號ニ各該當スル處右ハ一ヶノ行為ニシテ二ヶノ罪名ニ觸ルルヲ以テ刑法第五十四條第一項前段第十條ニ則リ重キ金員收受罪ノ刑ニ從ヒ罰金刑ヲ選擇シテ主文ノ刑ヲ量定シ罰金不完納ノ場合ニ於テ勞務場留置ノ期間ニ付刑法第十八條ヲ適用シ又追徴ニ付テハ府縣制第四十條衆議院議員選舉法第百二十四條ヲ適用スヘキモノトス因テ主文ノ如ク判決ス
檢事佐々波與次郎關與
昭和七年五月十八日
大審院第三刑事部裁判長判事 中西 用徳
判事 中尾 芳助 判事 草野 一郎
判事 高瀬 幸七郎 判事 岸 達也

【主文】 原判決ハ之ヲ破毀ス、被告ハ罰金七十圓ニ處ス、右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ被告ハ罰金二圓ヲ一日ニ折算シタル期間勞務場ニ留置ス被告ヨリ罰金五圓ヲ追徴ス
【理由】 辯護人細川彦太郎上告趣意書一、上告人ハ民政黨員ニシテ其ノ下級團體タル吾川郡同志會内ノ下級團體タル吾川郡政治研究會ヨリ候補者選考委員トシテ推薦サレタル等汎ク民政黨員タル事ヲ認識サレタル者ニシテ何人ノ指示容喙ヲモ受ケタルコトナク當然民政黨員候補者トシテ投票セザルハカラサル立場ニ在リ依テ何人ト雖上告人ヲ買収シテ民政黨員候補者ニ投票セシメント考フル者モナカルヘク殊ニ多年ノ同志タル久保光次ニ於テ斯ル意思ヲ有スヘキ管ナク上告人又對價ニ依テ之ニ投票セントスルノ意ナキモノナルコトハ常識上明ナルニモ不拘第二審裁判所ニ於テハ民政黨員候補者赤堀赤心ノ爲ニ投票ヲナシタルコトノ報關トシテ金五圓ノ供與ヲ受ケタルモノト認定シタルハ重大ナル事實ノ誤認ナリト云ヒ二、上告人ハ久保光次ヨリ赤堀赤心ノ爲ニ世話ヲスル様ノ相談ヲ受ケタル際ニ農繁期ノ場合

【判決理由】 然レトモ法定ノ選舉運動者ニ非サル選舉人カ特定ノ議員候補者ノ爲ニ投票方及選舉運動ヲ依リテ其ノ投票及運動ヲ爲シタル後之カ報關ヲ受ケタルハハ府縣制第四十條ニヨリ準用サルハキ衆議院議員選舉法第百二十二條ノ罪ニ依リテ罰金五圓ニ處スルモノトス然ルニ原判決ニ於テ被告ハ爲スヘキモノトス因テ原判決ノ認定シタル事實ヲ法律ニ照スニ被告ハ所有中無資格運動ノ點ハ府縣制第四十條衆議院議員選舉法第九十六條第九十九條ニ全量收受ノ點ハ府縣制第四十條衆議院議員選舉法第百二十二條第四號ニ各該當スル處右ハ一ヶノ行為ニシテ二ヶノ罪名ニ觸ルルヲ以テ刑法第五十四條第一項前段第十條ニ則リ重キ金員收受罪ノ刑ニ從ヒ罰金刑ヲ選擇シテ主文ノ刑ヲ量定シ罰金不完納ノ場合ニ於テ勞務場留置ノ期間ニ付刑法第十八條ヲ適用シ又追徴ニ付テハ府縣制第四十條衆議院議員選舉法第百二十四條ヲ適用スヘキモノトス因テ主文ノ如ク判決ス
檢事佐々波與次郎關與
昭和七年五月十八日
大審院第三刑事部裁判長判事 中西 用徳
判事 中尾 芳助 判事 草野 一郎
判事 高瀬 幸七郎 判事 岸 達也

【判決理由】 然レトモ法定ノ選舉運動者ニ非サル選舉人カ特定ノ議員候補者ノ爲ニ投票方及選舉運動ヲ依リテ其ノ投票及運動ヲ爲シタル後之カ報關ヲ受ケタルハハ府縣制第四十條ニヨリ準用サルハキ衆議院議員選舉法第百二十二條ノ罪ニ依リテ罰金五圓ニ處スルモノトス然ルニ原判決ニ於テ被告ハ爲スヘキモノトス因テ原判決ノ認定シタル事實ヲ法律ニ照スニ被告ハ所有中無資格運動ノ點ハ府縣制第四十條衆議院議員選舉法第九十六條第九十九條ニ全量收受ノ點ハ府縣制第四十條衆議院議員選舉法第百二十二條第四號ニ各該當スル處右ハ一ヶノ行為ニシテ二ヶノ罪名ニ觸ルルヲ以テ刑法第五十四條第一項前段第十條ニ則リ重キ金員收受罪ノ刑ニ從ヒ罰金刑ヲ選擇シテ主文ノ刑ヲ量定シ罰金不完納ノ場合ニ於テ勞務場留置ノ期間ニ付刑法第十八條ヲ適用シ又追徴ニ付テハ府縣制第四十條衆議院議員選舉法第百二十四條ヲ適用スヘキモノトス因テ主文ノ如ク判決ス
檢事佐々波與次郎關與
昭和七年五月十八日
大審院第三刑事部裁判長判事 中西 用徳
判事 中尾 芳助 判事 草野 一郎
判事 高瀬 幸七郎 判事 岸 達也

【判決理由】 然レトモ法定ノ選舉運動者ニ非サル選舉人カ特定ノ議員候補者ノ爲ニ投票方及選舉運動ヲ依リテ其ノ投票及運動ヲ爲シタル後之カ報關ヲ受ケタルハハ府縣制第四十條ニヨリ準用サルハキ衆議院議員選舉法第百二十二條ノ罪ニ依リテ罰金五圓ニ處スルモノトス然ルニ原判決ニ於テ被告ハ爲スヘキモノトス因テ原判決ノ認定シタル事實ヲ法律ニ照スニ被告ハ所有中無資格運動ノ點ハ府縣制第四十條衆議院議員選舉法第九十六條第九十九條ニ全量收受ノ點ハ府縣制第四十條衆議院議員選舉法第百二十二條第四號ニ各該當スル處右ハ一ヶノ行為ニシテ二ヶノ罪名ニ觸ルルヲ以テ刑法第五十四條第一項前段第十條ニ則リ重キ金員收受罪ノ刑ニ從ヒ罰金刑ヲ選擇シテ主文ノ刑ヲ量定シ罰金不完納ノ場合ニ於テ勞務場留置ノ期間ニ付刑法第十八條ヲ適用シ又追徴ニ付テハ府縣制第四十條衆議院議員選舉法第百二十四條ヲ適用スヘキモノトス因テ主文ノ如ク判決ス
檢事佐々波與次郎關與
昭和七年五月十八日
大審院第三刑事部裁判長判事 中西 用徳
判事 中尾 芳助 判事 草野 一郎
判事 高瀬 幸七郎 判事 岸 達也

刑事判例

▲審理不盡ト重大ナル事實ノ誤認▲非法定運動者タル選舉人ノ選舉運動並ニ報關受領ト擬律

昭和七年(刑)第三〇七號
判決
本籍並住居高知縣吾川郡小川村新別
千三百五番地、農桑
谷 岡 時 久
(明治十九年二月一日生)

右縣會議員選舉期前被告事件ニ付昭和七年二月九日高知地方裁判所ニ於テ言渡シタル第二審判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シタルコト判決スルコト左ノ如シ
【主文】 原判決ハ之ヲ破毀ス、被告ハ罰金七十圓ニ處ス、右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ被告ハ罰金二圓ヲ一日ニ折算シタル期間勞務場ニ留置ス被告ヨリ罰金五圓ヲ追徴ス
【理由】 辯護人細川彦太郎上告趣意書一、上告人ハ民政黨員ニシテ其ノ下級團體タル吾川郡同志會内ノ下級團體タル吾川郡政治研究會ヨリ候補者選考委員トシテ推薦サレタル等汎ク民政黨員タル事ヲ認識サレタル者ニシテ何人ノ指示容喙ヲモ受ケタルコトナク當然民政黨員候補者トシテ投票セザルハカラサル立場ニ在リ依テ何人ト雖上告人ヲ買収シテ民政黨員候補者ニ投票セシメント考フル者モナカルヘク殊ニ多年ノ同志タル久保光次ニ於テ斯ル意思ヲ有スヘキ管ナク上告人又對價ニ依テ之ニ投票セントスルノ意ナキモノナルコトハ常識上明ナルニモ不拘第二審裁判所ニ於テハ民政黨員候補者赤堀赤心ノ爲ニ投票ヲナシタルコトノ報關トシテ金五圓ノ供與ヲ受ケタルモノト認定シタルハ重大ナル事實ノ誤認ナリト云ヒ二、上告人ハ久保光次ヨリ赤堀赤心ノ爲ニ世話ヲスル様ノ相談ヲ受ケタル際ニ農繁期ノ場合

【判決理由】 然レトモ法定ノ選舉運動者ニ非サル選舉人カ特定ノ議員候補者ノ爲ニ投票方及選舉運動ヲ依リテ其ノ投票及運動ヲ爲シタル後之カ報關ヲ受ケタルハハ府縣制第四十條ニヨリ準用サルハキ衆議院議員選舉法第百二十二條ノ罪ニ依リテ罰金五圓ニ處スルモノトス然ルニ原判決ニ於テ被告ハ爲スヘキモノトス因テ原判決ノ認定シタル事實ヲ法律ニ照スニ被告ハ所有中無資格運動ノ點ハ府縣制第四十條衆議院議員選舉法第九十六條第九十九條ニ全量收受ノ點ハ府縣制第四十條衆議院議員選舉法第百二十二條第四號ニ各該當スル處右ハ一ヶノ行為ニシテ二ヶノ罪名ニ觸ルルヲ以テ刑法第五十四條第一項前段第十條ニ則リ重キ金員收受罪ノ刑ニ從ヒ罰金刑ヲ選擇シテ主文ノ刑ヲ量定シ罰金不完納ノ場合ニ於テ勞務場留置ノ期間ニ付刑法第十八條ヲ適用シ又追徴ニ付テハ府縣制第四十條衆議院議員選舉法第百二十四條ヲ適用スヘキモノトス因テ主文ノ如ク判決ス
檢事佐々波與次郎關與
昭和七年五月十八日
大審院第三刑事部裁判長判事 中西 用徳
判事 中尾 芳助 判事 草野 一郎
判事 高瀬 幸七郎 判事 岸 達也

【判決理由】 然レトモ法定ノ選舉運動者ニ非サル選舉人カ特定ノ議員候補者ノ爲ニ投票方及選舉運動ヲ依リテ其ノ投票及運動ヲ爲シタル後之カ報關ヲ受ケタルハハ府縣制第四十條ニヨリ準用サルハキ衆議院議員選舉法第百二十二條ノ罪ニ依リテ罰金五圓ニ處スルモノトス然ルニ原判決ニ於テ被告ハ爲スヘキモノトス因テ原判決ノ認定シタル事實ヲ法律ニ照スニ被告ハ所有中無資格運動ノ點ハ府縣制第四十條衆議院議員選舉法第九十六條第九十九條ニ全量收受ノ點ハ府縣制第四十條衆議院議員選舉法第百二十二條第四號ニ各該當スル處右ハ一ヶノ行為ニシテ二ヶノ罪名ニ觸ルルヲ以テ刑法第五十四條第一項前段第十條ニ則リ重キ金員收受罪ノ刑ニ從ヒ罰金刑ヲ選擇シテ主文ノ刑ヲ量定シ罰金不完納ノ場合ニ於テ勞務場留置ノ期間ニ付刑法第十八條ヲ適用シ又追徴ニ付テハ府縣制第四十條衆議院議員選舉法第百二十四條ヲ適用スヘキモノトス因テ主文ノ如ク判決ス
檢事佐々波與次郎關與
昭和七年五月十八日
大審院第三刑事部裁判長判事 中西 用徳
判事 中尾 芳助 判事 草野 一郎
判事 高瀬 幸七郎 判事 岸 達也

刑事判例

選舉運動ニ於テ供與ヲ受ケタル金員ノ沒收並追徴額ノ算定

者ニ對シ一定ノ投票ノ獲得ヲ請負ハシメテ其ノ方法ヲ運動者ニ任シ...

昭和七年(九)第一一八號

本籍並住居山口縣熊毛郡佐賀村大字...

大工職 植野 八五郎

右縣會議員選舉期前違反被告事件ニ付昭...

【主文】 本件ニ付事實ノ審理ヲ爲ス...

ニ互リ... (一) 同村選舉有権者ニシテ無資格運動者ナル...

【決定理由】 角田軍一ニ對スル檢事ノ職取書ヲ閱スルニ...

シ、第一同月三日右清地岩藏方ニ於テ同人ヨリ有権者買収費他人ニ運動ヲ依頼ス...

刑事判例

選舉運動ニ於テ供與ヲ受ケタル金員ノ沒收並追徴額ノ算定

郎ニヤラスト申シ明日植野君ノ宅ニ遣ルト申シ...

シテ取得スル考ナリシ旨ノ記載原審公判調書中被告ノ供述トシテ...

該當スル所右ハ速報犯ニ該ルヲ以テ刑法第五十五條適用シ...

如ク請負ノ關係ニ於テ金員ノ供與アリタル場合ハ...

刑事判例

自動車運轉手ノ注意義務認定ト事實ノ誤認

●自動車運轉手ノ注意義務認定ト事實ノ誤認

昭和六年(九)第七一九號

決定

本籍 岡山縣吉田郡久田村大字久田
上原百九十五番地
住居 大阪市天王寺區北河堀町四十
二番地、坂倉源之助方
自動車運轉手 中川 勝太郎
(明治四十四年十二月七日生)

右業務上過失致傷被害事件ニ付昭和六年四月二十四日大阪地方裁判所ニ於テ言渡シタル第二審判決ニ對シ被告人並原審辯護人渡部一ハ上告ヲ爲シタリ因テ決定スルコト左ノ如シ

【主文】 本件ニ付事實ノ審理ヲ爲ス

【理由】 辯護人渡部一上告趣意書第四點原判決ノ判示スル處ハ重大ナル事實ノ誤認アルモノト認テ本件事實ノ審理ヲ左ノ如シ、抑モ原判決ハ本件事實ノ場合同一時間ヲ以テ進行ヲ繼續シタル結果本件事故ヲ惹起スルニ至リタルモノナル旨判示セラレタル事實ナリトス然レニ被告ハ右第一審判示ニ服セスシテ控訴ヲ爲シタル結果原審ハ再度證人清水義雄、加藤藤等ノ訊問相成リタル結果前叙ノ如ク自動車ノ速度ノ點ハ元ヨリソノ他事實認定ノ全般ニ涉リ第一審判決ノ所見ト全然ソノ軌ヲ異ニスルノ判示ヲ爲スニ至リタルモノニシテ以テ本件事故ノ真相力決シテ一目瞭然容疑ノ餘地ナキモノニ非サルコトヲ知ルニ足ルヘシト認テ本件上告理由第一、二點記述ノ如クソノ判斷ヲ肯定スヘキ資料ヲ缺クモノト觀察セララル

●自動車運轉手ノ注意義務認定ト事實ノ誤認

昭和七年五月二十五日

決定

本籍 東京市本郷區駒込追分町三十一番地
住居 埼玉縣入間郡飯能町字原町五十
八番地、著述業
南三九郎事 南 信 好
(明治二十三年四月一日生)

右恐喝未遂被告事件ニ付昭和六年十月七日名古屋地方裁判所ニ於テ言渡シタル第二審判決ニ對シ被告人ハ上告ヲ爲シタリ因テ檢事古田正武ノ意見ヲ聽キ決定スルコト左ノ如シ

【主文】 本件ニ付事實ノ審理ヲ爲ス

【理由】 辯護人稻本鏡之助上告趣意書第五點特ニ本件發生當時ニ於テハ被告人ハ診斷書(記録二〇二丁)ノ通り高度ノ神經衰弱ニ冒サレ其ノ責任能力ニ於テ缺タル處アリタルノミナラス一面被告人ハ記録記載ノ如キ學歴並ニ經歷ヲ有シ英和法政經濟商業辭典、英和商用品用語辭典等ノ好著ヲ有シ(記録二〇三丁)尙妻女ハ埼玉縣立高等女學校教諭、實兄ハ一年志願ノ身ヲ以テ日露ノ役ノ勳勳ニ依リ功五級大尉ニ昇進シ戰後早稻田ヲ出テ多年早

●自動車運轉手ノ注意義務認定ト事實ノ誤認

昭和六年(九)第七一九號

決定

本籍 岡山縣吉田郡久田村大字久田
上原百九十五番地
住居 大阪市天王寺區北河堀町四十
二番地、坂倉源之助方
自動車運轉手 中川 勝太郎
(明治四十四年十二月七日生)

右業務上過失致傷被害事件ニ付昭和六年四月二十四日大阪地方裁判所ニ於テ言渡シタル第二審判決ニ對シ被告人並原審辯護人渡部一ハ上告ヲ爲シタリ因テ決定スルコト左ノ如シ

【主文】 原判決ヲ破毀ス

【理由】 辯護人渡部一上告趣意書第四點ハ其ノ理由アリ原判決ヲ破毀スヘキモノナルコトハ既ニ本件事實審理開始決定ニ於テ説示スル所ナリ因テ本案事實ヲ審理スル處、被告人ハ運搬業板倉源之助方ニ雇ハレ自動車運轉ノ業務ニ從事中昭和五年九月十八日大第六三三七四號客用自動車ニ引越荷物及乘客一名ヲ載セ運轉中北區森町ニ赴クヘク同市南區日本橋筋ヲ北行シ同日午後零時三十分頃同筋五丁目道路交叉點附近ノ大阪市電西側停留所安全地帶西側ノ車道ニ差支リタルカ折柄東西兩側ノ停留所ニハ各電車停止シ之ニ妨ケラレ被告人ハ東側ノ道ヲ南行東側方面ニ至ル道路トハ交叉點附近ノ狀況ヲ知ルコト

●自動車運轉手ノ注意義務認定ト事實ノ誤認

昭和七年三月七日

決定

本籍 東京市本郷區駒込追分町三十一番地
住居 埼玉縣入間郡飯能町字原町五十
八番地、著述業
南三九郎事 南 信 好
(明治二十四年三月一日生)

右恐喝未遂被告事件ニ付昭和六年十月七日名古屋地方裁判所ニ於テ言渡シタル第二審判決ニ對シ被告人ハ上告ヲ爲シタリ因テ檢事古田正武ノ意見ヲ聽キ決定スルコト左ノ如シ

【主文】 本件ニ付事實ノ審理ヲ爲ス

【理由】 辯護人稻本鏡之助上告趣意書第五點特ニ本件發生當時ニ於テハ被告人ハ診斷書(記録二〇二丁)ノ通り高度ノ神經衰弱ニ冒サレ其ノ責任能力ニ於テ缺タル處アリタルノミナラス一面被告人ハ記録記載ノ如キ學歴並ニ經歷ヲ有シ英和法政經濟商業辭典、英和商用品用語辭典等ノ好著ヲ有シ(記録二〇三丁)尙妻女ハ埼玉縣立高等女學校教諭、實兄ハ一年志願ノ身ヲ以テ日露ノ役ノ勳勳ニ依リ功五級大尉ニ昇進シ戰後早稻田ヲ出テ多年早

刑事判例

●自動車運轉手ノ注意義務認定ト事實ノ誤認

右業務上過失致傷被害事件ニ付昭和六年四月二十四日大阪地方裁判所ニ於テ言渡シタル第二審判決ニ對シ被告人並原審辯護人渡部一ハ上告ヲ爲シタリ因テ決定スルコト左ノ如シ

●自動車運轉手ノ注意義務認定ト事實ノ誤認

昭和七年五月二十五日

決定

本籍 東京市本郷區駒込追分町三十一番地
住居 埼玉縣入間郡飯能町字原町五十
八番地、著述業
南三九郎事 南 信 好
(明治二十三年四月一日生)

●自動車運轉手ノ注意義務認定ト事實ノ誤認

昭和六年(九)第七一九號

決定

本籍 岡山縣吉田郡久田村大字久田
上原百九十五番地
住居 大阪市天王寺區北河堀町四十
二番地、坂倉源之助方
自動車運轉手 中川 勝太郎
(明治四十四年十二月七日生)

●自動車運轉手ノ注意義務認定ト事實ノ誤認

昭和七年三月七日

決定

本籍 東京市本郷區駒込追分町三十一番地
住居 埼玉縣入間郡飯能町字原町五十
八番地、著述業
南三九郎事 南 信 好
(明治二十四年三月一日生)

●自動車運轉手ノ注意義務認定ト事實ノ誤認

昭和六年(九)第七一九號

決定

本籍 岡山縣吉田郡久田村大字久田
上原百九十五番地
住居 大阪市天王寺區北河堀町四十
二番地、坂倉源之助方
自動車運轉手 中川 勝太郎
(明治四十四年十二月七日生)

●自動車運轉手ノ注意義務認定ト事實ノ誤認

昭和七年三月七日

決定

本籍 東京市本郷區駒込追分町三十一番地
住居 埼玉縣入間郡飯能町字原町五十
八番地、著述業
南三九郎事 南 信 好
(明治二十四年三月一日生)

●自動車運轉手ノ注意義務認定ト事實ノ誤認

昭和六年(九)第七一九號

決定

本籍 岡山縣吉田郡久田村大字久田
上原百九十五番地
住居 大阪市天王寺區北河堀町四十
二番地、坂倉源之助方
自動車運轉手 中川 勝太郎
(明治四十四年十二月七日生)

●自動車運轉手ノ注意義務認定ト事實ノ誤認

昭和七年三月七日

決定

本籍 東京市本郷區駒込追分町三十一番地
住居 埼玉縣入間郡飯能町字原町五十
八番地、著述業
南三九郎事 南 信 好
(明治二十四年三月一日生)

●自動車運轉手ノ注意義務認定ト事實ノ誤認

昭和六年(九)第七一九號

決定

本籍 岡山縣吉田郡久田村大字久田
上原百九十五番地
住居 大阪市天王寺區北河堀町四十
二番地、坂倉源之助方
自動車運轉手 中川 勝太郎
(明治四十四年十二月七日生)

●自動車運轉手ノ注意義務認定ト事實ノ誤認

昭和七年三月七日

決定

本籍 東京市本郷區駒込追分町三十一番地
住居 埼玉縣入間郡飯能町字原町五十
八番地、著述業
南三九郎事 南 信 好
(明治二十四年三月一日生)

●自動車運轉手ノ注意義務認定ト事實ノ誤認

昭和六年(九)第七一九號

決定

本籍 岡山縣吉田郡久田村大字久田
上原百九十五番地
住居 大阪市天王寺區北河堀町四十
二番地、坂倉源之助方
自動車運轉手 中川 勝太郎
(明治四十四年十二月七日生)

●自動車運轉手ノ注意義務認定ト事實ノ誤認

昭和七年三月七日

決定

本籍 東京市本郷區駒込追分町三十一番地
住居 埼玉縣入間郡飯能町字原町五十
八番地、著述業
南三九郎事 南 信 好
(明治二十四年三月一日生)

●自動車運轉手ノ注意義務認定ト事實ノ誤認

昭和六年(九)第七一九號

決定

本籍 岡山縣吉田郡久田村大字久田
上原百九十五番地
住居 大阪市天王寺區北河堀町四十
二番地、坂倉源之助方
自動車運轉手 中川 勝太郎
(明治四十四年十二月七日生)

●自動車運轉手ノ注意義務認定ト事實ノ誤認

昭和七年三月七日

決定

本籍 東京市本郷區駒込追分町三十一番地
住居 埼玉縣入間郡飯能町字原町五十
八番地、著述業
南三九郎事 南 信 好
(明治二十四年三月一日生)

●自動車運轉手ノ注意義務認定ト事實ノ誤認

昭和六年(九)第七一九號

決定

本籍 岡山縣吉田郡久田村大字久田
上原百九十五番地
住居 大阪市天王寺區北河堀町四十
二番地、坂倉源之助方
自動車運轉手 中川 勝太郎
(明治四十四年十二月七日生)

●自動車運轉手ノ注意義務認定ト事實ノ誤認

昭和七年三月七日

決定

本籍 東京市本郷區駒込追分町三十一番地
住居 埼玉縣入間郡飯能町字原町五十
八番地、著述業
南三九郎事 南 信 好
(明治二十四年三月一日生)

●自動車運轉手ノ注意義務認定ト事實ノ誤認

昭和六年(九)第七一九號

決定

本籍 岡山縣吉田郡久田村大字久田
上原百九十五番地
住居 大阪市天王寺區北河堀町四十
二番地、坂倉源之助方
自動車運轉手 中川 勝太郎
(明治四十四年十二月七日生)

●自動車運轉手ノ注意義務認定ト事實ノ誤認

昭和七年三月七日

決定

本籍 東京市本郷區駒込追分町三十一番地
住居 埼玉縣入間郡飯能町字原町五十
八番地、著述業
南三九郎事 南 信 好
(明治二十四年三月一日生)

●自動車運轉手ノ注意義務認定ト事實ノ誤認

昭和六年(九)第七一九號

決定

本籍 岡山縣吉田郡久田村大字久田
上原百九十五番地
住居 大阪市天王寺區北河堀町四十
二番地、坂倉源之助方
自動車運轉手 中川 勝太郎
(明治四十四年十二月七日生)

●自動車運轉手ノ注意義務認定ト事實ノ誤認

昭和七年三月七日

決定

本籍 東京市本郷區駒込追分町三十一番地
住居 埼玉縣入間郡飯能町字原町五十
八番地、著述業
南三九郎事 南 信 好
(明治二十四年三月一日生)

刑事判例

相當教養アル者不良ナラザル者ノ窮餘ノ恐喝未遂ト其ノ犯情ニ關スル記載ヲ欠ケル判決

昭和七年六月二日 大審院第一刑部裁判長列事 泉二 新熊 列事 日高次郎 列事 三宅正太郎 列事 杉浦 忠雄 列事 植月 愛明

犯罪ノ時ニ關スル記載ヲ欠ケル判決ノ效力

昭和七年六月二日 大審院第一刑部裁判長列事 泉二 新熊 列事 日高次郎 列事 三宅正太郎 列事 杉浦 忠雄 列事 植月 愛明

昭和七年六月二日 大審院第一刑部裁判長列事 泉二 新熊 列事 日高次郎 列事 三宅正太郎 列事 杉浦 忠雄 列事 植月 愛明

昭和七年六月二日 大審院第一刑部裁判長列事 泉二 新熊 列事 日高次郎 列事 三宅正太郎 列事 杉浦 忠雄 列事 植月 愛明

昭和七年六月二日 大審院第一刑部裁判長列事 泉二 新熊 列事 日高次郎 列事 三宅正太郎 列事 杉浦 忠雄 列事 植月 愛明

昭和七年六月二日 大審院第一刑部裁判長列事 泉二 新熊 列事 日高次郎 列事 三宅正太郎 列事 杉浦 忠雄 列事 植月 愛明

昭和七年六月二日 大審院第一刑部裁判長列事 泉二 新熊 列事 日高次郎 列事 三宅正太郎 列事 杉浦 忠雄 列事 植月 愛明

昭和七年六月二日 大審院第一刑部裁判長列事 泉二 新熊 列事 日高次郎 列事 三宅正太郎 列事 杉浦 忠雄 列事 植月 愛明

昭和七年六月二日 大審院第一刑部裁判長列事 泉二 新熊 列事 日高次郎 列事 三宅正太郎 列事 杉浦 忠雄 列事 植月 愛明

刑事判例

犯罪ノ時ニ關スル記載ヲ欠ケル判決ノ效力

昭和七年六月二日 大審院第一刑部裁判長列事 泉二 新熊 列事 日高次郎 列事 三宅正太郎 列事 杉浦 忠雄 列事 植月 愛明

昭和七年六月二日 大審院第一刑部裁判長列事 泉二 新熊 列事 日高次郎 列事 三宅正太郎 列事 杉浦 忠雄 列事 植月 愛明

昭和七年六月二日 大審院第一刑部裁判長列事 泉二 新熊 列事 日高次郎 列事 三宅正太郎 列事 杉浦 忠雄 列事 植月 愛明

昭和七年六月二日 大審院第一刑部裁判長列事 泉二 新熊 列事 日高次郎 列事 三宅正太郎 列事 杉浦 忠雄 列事 植月 愛明

刑事判例

不適法ナル證據調ト其ノ效果▲審判請求事實ヲ審理セスシテ裁判ヲ爲シタル違法

(二八)

太郎及同町助役船橋茂三郎等ニ對シテ反惑ヲ抱キ居リタル折柄偶々同年七月十四日官地町長ノ任期満了シ再選スルコトト爲リタルヲ聞知シ被告人兩名ハ共謀ノ上右役場吏員ヲ恐喝シテ金員ヲ交付セシムコトヲ企テ同月十日附名古屋日報ニ現官地小牧町長再選反對ノ記事ヲ掲載セシメタル上翌十一日同町役場ニ赴キ被告人榮治郎ニ於テ同役場書記舟橋支那ニ面會ヲ求メ同人ニ對シテ中元ノ御手厚キ御後授ヲ願ヒニ來タト申向ケ右記事掲載ノ新聞ヲ示シ暗ニ廣告料名義ノ下ニ金員ヲ交付ヲ要求シタルニ同人ハ該新聞記事ヲ船橋助役ニ示シ來意ヲ傳ヘタルニ同助役ニ於テハ應能ク之ヲ拒絕セシメタル爲被告人等ハ遂ニ恐喝ノ目的ヲ遂ケス

太郎モノトス(證據略) 法律ニ照スニ被告人榮治郎ノ判示第一ノ行為ハ刑法第二百四十九條第一項第二項第五十條判示第二ノ行為ハ同第二百四十九條判示第三ノ行為ハ同第二百五十二條第一項第五十五條各該當スルヲ以テ傷害罪ニ付テハ其ノ懲役刑ヲ選擇シ以上併合罪ナルヲ以テ同第四十五條第四十七條第十條ニ依リ重キ恐喝罪ノ刑ニ法定ノ加重ヲ爲シタル刑期ノ範圍内ニ於テ被告人榮治郎ヲ懲役六月ニ處スヘキモノトス、叙上ノ理由ニ基キ刑事訴訟法第四百四十七條第四百四十八條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

昭和七年七月七日 大審院第一刑部裁判長列事 日高要次郎 列事 中尾 芳助 列事 三宅正太郎 列事 杉浦 正雄 列事 植月 愛明 裁判請求事實ヲ審理セスシテ裁判ヲ爲シタル違法 昭和六年(九)第一一〇一號 本籍山形市七日町四百五十八番地 住居同市同町六十番地、佃煮商 被告 貞藏 (明治三十三年十月十九日生) 右恐喝暴力行為等處罰ニ關スル法律違反傷害債權被告事件ニ付昭和六年三月三十日宮城控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告人ハ上告ヲ爲シテ因テ決定スルコトヲ左ノ如シ

點ニ於テ到底破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ在リ 【決定理由】 仍テ原審ノ各公判調書ヲ調査スルニ裁判長ハ第一審判決第十八事實即ち原判決第十五事實ニ付キ公訴ノ提起ナキ被告人青山清藏ニ對シテハ訊問ヲ爲シタル旨記載シテアリトモ被告人貞藏ニ對スル右第十五事實即ち傷害被告事件ニ付テハ被告人貞藏ヲ訊問シタルト認ムヘキ何等ノ記載ナキコト洵ニ所論ノ如シ然レハ原審ニ於テハ刑事訴訟法第三百四十五條ニ依リ右傷害被告事件ニ付被告人貞藏ハ訊問ヲ爲スヘキモノナルニ其ノ訊問ヲ爲サスシテ被告人貞藏ニ對シ右傷害事實ヲ認定シタル判決ヲ爲スニ至リタル違法ハ原判決ニ於テ右傷害事實併合罪ノ關係アルヲ認メ刑法第四十五條第四十七條ニ依リ被告人貞藏ニ對シ一箇ノ加重刑ヲ言渡シタル他ノ恐喝債權暴力行為等處罰ニ關スル法律違反ノ事實ヲ確定シモ影響ヲ及ボスヲ以テ原判決被告人貞藏ニ關スル部分ハ破毀ヲ免レサルモノトス因テ他ノ論旨ニ對スル說明ヲ省略シ刑事訴訟法第四百四十七條ニ則リ主文ノ如ク決定シタリ

香地、新聞販賣業

牧 谷 貞藏

(明治三十三年十月十九日生) 右恐喝債權被告事件ニ付昭和六年三月三十日宮城控訴院ニ於テ言渡シタル第二審判決ニ對シ被告人ハ上告ヲ爲シ同年十二月二十一日當院ニ於テ上告理由アリトシ刑事訴訟法第四百四十四條ニ則リ本件ニ付事實ノ審理ヲ爲スヘキ旨ノ決定ヲ言渡シタルヲ以テ同法第四百四十四條ニ則リ更ニ審理ヲ遂ケ判決スルコトヲ左ノ如シ 【主文】 原判決ヲ破毀ス、被告人ヲ懲役二年ニ處ス、但未決勾留日數中三百日ヲ右本刑ニ算入ス 訴訟費用中鑑定人安孫子千代之助(大島岩太郎ニ對スル鑑定分)ニ支給シタル分及證人島岩太郎ニ支給シタル分ノ二分ノ一ハ被告人ノ負擔トス 被告人カ意思繼續ノ下ニ(一)昭和三年十一月中山形市七日町自宅ニ於テ齋藤清ヲ恐喝シ金二十圓ノ交付ヲ受ケ(二)佐藤久之助ト共謀シ昭和四年一月七日同市同町持合田毎ニ於テ上村勝三郎等九名ヲ恐喝シ被告人等ニ對シ一人前價格金三圓餘相當ノ餐應ヲ爲サシメ且被告人ニ於テ金二十四圓ノ交付ヲ受ケタリトノ公訴事實ハ無罪

市及其ノ近郊ニ横行シテ暴虐ノ行為ヲ志ニシ居タルモ被害者ハ何レモ後難ヲ懼レテ之ヲ警察當局ニ申告スルニ至ラス殊ニ昭和二年九月山形市主催全國産業博覽會開催セラレ多數ノ香具師カ同市ニ集シタル以後其ノ非行一層甚シカリシモノニ對シ被告人ハ其ノ前後ニ互リ左ノ犯行ヲ敢テシタリ、第一、被告人ハ大正十五年十月二日夜半右村田武男ノ乾兒ニシテ活動寫眞常設館千歲座辯士タル第一審共同被告人端山菊與カ其ノ同僚タル同座辯士兒玉某ト喧嘩ヲ爲シタルコトニ關シ同人ニ衝ムトコアラリ武男ト共ニ兒玉ニ對シ報復センコトヲ圖リ更ニ菊與及第一審共同被告人室岡正雄ノ兩名ト共ニ翌三日午前六時頃山形市十日町ナル千歲座ニ到リ同座辯士ニ就寢中ノ兒玉ヲ被告人等四名共同シ武男ハ其ノ所有ノ木劍被告人及外二名ハ各手ヲ以テ毆打シ以テ數名共同シテ暴行ヲ加ヘ、第二、武男ハ菊與ト兒玉ノ右喧嘩ノ仲裁ヲ爲シタル同座辯士大島岩太郎ニ對シ恨ムトコアラリ大正十五年十月三日午前一時頃山形市内村田樓ニ於テ菊與等ト共同シテ岩太郎ヲ毆打シ因テ之ニ創傷ヲ負ハシメタル際被告人ハ武男ノ依頼ニ依リ岩太郎ヲ同市立病院濟生館ニ連行キテ治療ヲ受ケシメ同人ヲ再ヒ村田樓ニ連戻ラントスルヤ岩太郎ニ於テ直ニ之ヲ應諾セサリシヲ以テ大ニ快トセス同日千歲座ニ於テ兒玉ヲ毆打シタル後其ノ傷ニテ岩太郎ノ左耳部ヲ手ニテ數回毆打シ因テ同人ハ左慢性穿孔性中耳炎及左内耳炎ノ後胎症ヲ續發スルニ至リタルヲ左耳鼓膜破裂傷ヲ負ハシメ、第三、被告人ハ山形市七日町金具商中村惠藏方ニ金

郎ハ昭和二年十一月四日山形市小姓町貸座敷花村樓ニ於テ豫ネテ被告人玉男カ友人ナル活動寫眞常設館主田部市ヨリ訓戒方ヲ依頼セラレ居リタル同館樂士設樂文治ニ對シ遊樂等ヲ止ムヘキ旨訓戒シタルニ文治カ聽人レサリシヲ憤リ被告人三名共謀シ夫々手ヲ以テ顔面等ヲ毆打シ因テ同人ノ眼瞼及口唇等ニ全治約一週間ヲ要シタル傷害ヲ蒙ラシメ(豫審終結決定第一ノ十二事實)ト認定シ被告人貞藏ヲ傷害罪ニ問擬シタリ而ルニ被告人貞藏ハ第一審判決中有罪ノ部分ニ對シ控訴ヲ申立テタルモノナルヲ以テ原院公判ニ於テハ被告人貞藏ニ對シテモ此ノ事實ニ付キ事實ヲ訊問ヲ爲ササルヘカラスルモノナリトス然ルニ原院公判調書中此ノ事實ニ付キ被告人等ニ對スル事實訊問ノ部ヲ開スルニ裁判長ハ被告人村田玉男ニ對シ問、次ニ此事實ハ如何此時同上第十八事實ヲ讀問ケタリ答、其ノ通り相違アリマセカス問、貞藏林太郎トモ共々文治ヲ毆打タルカ答、左様テス同人等モ私力訓戒シタルニ背入レヌノテ續ニ毆打ツテ毆打ト思ヒマス、裁判長ハ被告人青山清藏、武田林太郎ニ對シ問、此事實ハ如何此時同上(第一審判決)第十八事實ヲ讀問ケタリ、被告人兩名ハ答、其ノ通り相違アリマセカス(記録 四五七四丁)ト記載アルノミニシテ右ノ事實ニ付キ被告人貞藏ニ對シ事實ヲ訊問ヲ爲シタル事述存スルトコロナシ然ラハ原院裁判所ハ右事實ニ付キ被告人貞藏ニ對シ何等ノ審理ヲ爲サスシテ結論シタルモノト云フヘテ原院公判ハ其ノ裁判手續上重大ノ違法アリ原判決ハ此ノ

指輪一個(代金三四二十錢)ヲ注文シ約定期日後約一ヶ月ヲ經タル昭和二年八月月中右指輪ヲ受取ルヘテ惠藏方ニ赴キタル際右注文ニ依リ作製シタル指輪ハ之ヲ他ニ賣却シタルヲ以テ翌日迄ニ再製スヘキ旨同人ヨリ告ケラルルヤ要ラステ一且同所ヲ立去リタル後同日夕刻再惠藏方ニ到リ同人ニ對シ何故注文品ヲ賣却シタルヤ等問詰シタル上村田親分モ怒ツテ居ル今夜出直シ來リ斯ナ店ハ叩壞シテ仕舞フト怒號シ以テ武男ヲ親分トスル村田一家ト稱スル團體ヲ背景トシ其ノ威力ヲ示シテ惠藏ノ財産ニ危害ヲ加ヘントスル氣勢ヲ示シテ脅迫シ、第四、被告人ハ其ノ後同日更ニ惠藏ノ實兄中村常助カ實弟惠藏邦ヲ伴ヒ前記村田樓ニ謝罪ノ爲來リタル際邦夫ノ態度ヲ憐ラシトシ同所ニ於テ手ニテ同人ヲ數回毆打シ以テ暴行ヲ加ヘ、第五、被告人ハ武男及原審共同被告人武田林太郎ト共ニ昭和二年十一月四日山形市小姓町貸座敷花村樓ニ於テ豫テ武男ノ友人ナル活動寫眞常設館館主田部市ヨリ素行ヲ改メシムル様訓戒方ヲ依頼セラレ居リタル同館樂士設樂文治ニ對シ遊樂等ヲ止ムヘキ旨訓戒シタルモ文治ニ於テ聞入ルル様子ナキヲ憤リ其ノ場ニテ右被告人等三名共同シ各手ヲ以テ文治ヲ毆打シ因テ同人ノ眼瞼及口唇等ニ全治約一週間ヲ要スル打撲傷ヲ負ハシメ、第六、被告人ハ山形市旗籠町吳服商鈴木竹次郎ヨリ柏谷シツニ對スル金百六十圓ノ貸金債權ノ取立方ヲ委任セラレ昭和三年八月頃シツノ内線ノ夫野野豐二郎ヨリ右債權ニ對スル辨濟ヲシテ受取リ其ノ占有ニ歸シタル竹次郎所ニ係ル金

刑事判例

審判請求事實ヲ審理セスシテ裁判ヲ爲シタル違法

(二九)

刑事判例

審判請求事實ヲ審理セスシテ裁判ヲ爲シタル違法ハ偵例ノ誤信ト物盜罪ノ不成立

(三〇)

文第四項掲記ノ訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ則リ之ヲ被告人ニ負擔セシムヘキモノトス...

偵例ノ誤信ト物盜罪ノ不成立

或者カ其區有林ヲ伐採スル當時井堰修繕用材ニ不足ヲ生シシメサル範圍ニ於テ其ハ某區有林ヲ自家用ノ爲ニ伐採スルコトハ誤信シタルモノハニシテ其ノ誤信スルコトニ付相當ノ理由アリタルモノハト認ムルヲ得ヘキトキハ或者ハ伐採行爲ハ罪ヲ犯スノ意ニ出テタルモノト爲スヲ得サルカ故ニ物盜罪ヲ構成スヘキモノト非ス...

本籍並住居京都府南野郡下佐濃村字長野九十一番地 農業 松 本 武

右森林物盜被告訴事件ニ付昭和六年十月七日京都府地方裁判所ニ於テ言渡シタル第二審判決ニ對シ被告人ハ上告ヲ爲シタリ因テ檢察官佐々波與佐次郎ノ意見ヲ聽キ決定

【主文】 本件ニ付事實ヲ審理ヲ爲ス【理由】 辯護人間辯護上告趣意書第二點被告人ハ本件山林伐採當時毫モ物盜ノ犯意ナカリシモノナリ左レハ今茲ニ假ニ數百歩ヲ讓リ上告理由第一點カ其ノ理由ナシトスルモ本件ハ被告人ノ犯意ヲ缺如スルヲ以テ此ノ點ニ於テ原判決ハ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルモノトス...

タル松本幸之助モ同様ノ嫌疑ヲ被ムリ延テハ餘生幾何モナキ母ぬい及松本ウのニモ果テ及ニスヘキコトヲ極度ニ怖レタル爲ニシテ第二審ノ公判ニ於テハ飽ク迄身ノ潔白ヲ證スル爲ノ事實ヲ供述シ且松本ウの及松本ぬいの人證申出ヲ爲シタルモノナリ...

シテ以テ假ニ不幸ニシテ被告人ニ本件山林ノ伐採權ナシトノ御認定ヲ受ケタルトスルモ被告人ハ單ニ過失ノ責ヲ負フニ止マリ刑責ニ任スヘキモノニアラザルナリ抑々本件カ司直ノ取調ヲ受ケタルニ至リタルハ告訴人カ昭和五年十二月兵庫縣豊岡町ヲ引拂ヒテ歸村シ本件山林ヲ盜伐セラレタリト主張シテ居村駐在巡査ニ申告シタルニ端ヲ發シタルモノニシテ當時被告人ハ告訴人ノ言動ヲ意外トシテ山林ノ所有關係ニ付稅務署ノ圖面等ヲ調査シ他方本件山林カ字竹藤區有林ナルコトノ確信ヲ得タリ...

刑事判例

偵例ノ誤信ト物盜罪ノ不成立

(三一)

眞實ニ對スル檢事ノ聽取書ニ依リテモ明ナリトシテ申告ヲ受理シタル駐在巡査ニ於テモ本件ハ到底犯罪ヲ構成スルモノニ非ストノ見解ノ下ニ之カ取調ヲ爲サシテ經過スル内告訴人ハ事件ヲ久美濱警察署ニ申告シタリ然レ共同署ニ於テモ亦事件ノ性質及告訴人平素ノ人爲ニ精ヘ「又カ」ノ感ヲ以テ之ヲ迎ヘ在再三ヶ月ヲ經過シタリ...

床ヲ踏ミ鳴シテ怒號シ被告人ノ極度ニ恐怖セシメ爾ニ被告人ハ改悔ノ情ナシト左レト心中ニ決シキ所ナクシテソモ何ノ改悔ヲ五月十一日被告人ハ本件ニ付被告人ノ爲檢事ニ對シ事情ヲ具申ニ付カレテ村長井尻龜治外三氏ヨリ「甚タシク檢事ノ心證ヲ害シ居ルヲ以テ檢事ニ對シテハ速ニ惡御座イマシタノ一點張テ陳謝セヨ」恐ラク本件ハ起訴セラルルカ如キコトナルヘキヲ以テ陳謝ノ途ニ出ツルヲ解決ノ捷徑トス...

義ノ供述ヲ爲シ事件ノ真相ヲ明ニシ得ザリシハ眞ニ遺憾ナリ然レモ檢事ニ於テモ事件ノ圓滿解決ヲ欲セラレ告訴人及被告人ニ對シ示談ヲ勸告セラレタルコト一再ナラス元來告訴人田中眞雄方ト被告人方トハ親戚ノ間柄ニシテ眞雄ノ妻トヨリ被告人ノ母ぬいとハ從妹姉ノ關係ニ在リ...

ヲ利用シ一ハ以テ被告人一家ヲ陥レントシ一ハ以テ竹藤區ニ對シ自己ノ主張ヲ貫徹シテ本件山林カ偶々境界不明ナルヲ奇貨トシ告訴人ノ所有ナルコトヲ確認セシメ先年ノ報復ヲ爲サントシタルモノナリ故ニ被告人ニ於テ檢事ノ示談勸告ニ從ヒ履々人ヲ介シ或ハ被告人自身告訴人方ニ赴キ示談交渉ヲ爲シタルモ告訴人ハ頑トシテ之ニ應ズ...

刑事判例

佐渡村信用組合監事及家屋稅調査委員等ノ要職ヲ兼テ公共ノ爲ニ盡瘁シ未タ會テ過失ヲ犯シタルコトヲ本年四月ニハ村會ニ於テ助役ニ推薦セラレタルニ之カ就職ノ機ナクシテ本事件ノ爲退職ノ已ムナキニ至リ未キ一生ヲシテ殆ト暗黒タラシメタリ而モ其ノ禍ハ一身ニ止マラス被告人ノ母ハ本件山林伐採ノ動機ヲ與ヘタルノ責ヲ感シ居村ニ居タラス永年住ミ慣レタル郷里ヲ棄テ齡六十歳ヲ超ヘタル老體ヲ以テ大阪ノ長兄ノ許ニ轉住スルニ至レリ被告人ニシテ若シ有罪ノ判決確定スルニ至ラザレバ之ニ因テ及ホス禍ハ今後止マル所ヲ知ラザルナリ被告人ト雖眞ニ罪科アラハ深ク刑ニ服スルニ躊躇セシ然レトモ本件ノ如ク心中些カモ疚シキ所ナカリ行爲ノ爲罪ニ服スルカ如キコトアランカ是終生ノ恨事ナリ何卒十分ナル御審理ヲ相仰度奉願候ト云フニ在リ

農業 松本 武

右森林盜伐被告事件ニ付昭和六年十月七日京都府裁判所ニ於テ言渡シタル第二審ノ有罪判決ニ對シ被告人ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ判決スルコト左ノ如シ

【主文】 原判決ヲ破毀ス、被告人武ハ無罪

【理由】 辯護人間狩有邊上告趣意書第二點ノ論旨ハ其ノ理由アリ原判決破毀ヲ免カレタルコト昭和七年四月二十八日ノ事實審理開始決定ニ於テ説明スル所ノ如シ仍テ該決定ニ基キ本案ニ付審理ヲ遂ケタルコトコ、被告人ハ昭和五年四月初旬頃松本憲侍、松下菊平ノ兩名ヲ雇使シ京都府熊野郡下佐渡村字竹藤小字小島五六十二番地ナル同村竹藤區有山林内ニ於テ自家用薪材ニ供スル目的ヲ以テ松及四手等ノ雜木約五十本此ノ價格金十六圓九十五錢ノモノヲ伐採セシメタルモノニシテ其ノ事實ハ被告人ノ當公判廷ニ於ケル其ノ旨ノ陳述ニ徴シ之ヲ認メ得ル所ナリトス然ルニ被告人及辯護人ハ右竹藤區有山林ハ井根立林ト稱シ竹藤區内ニ耕地ヲ有スル區民ハ自家ノ雜用ニ供スル爲右山林ノ樹木ヲ伐採スルコトヲ得ル慣行上ノ入會權存スルモノニシテ被告人亦此ノ慣行ニ基キ本件樹木ノ伐採ヲ爲シタルモノナレハ窃盜罪ヲ構成スルモノニ非スト辯護スルニ付按スルニ係争竹藤區有山林ハ井根立林ト稱シ同區民ハ其ノ耕地ニ使用スル井堰用材ヲ右山林中ヨリ伐採スルコトヲ得ル慣行ノ存在スルコトハ原告證人仲村定藏野村藤太郎ニ對スル訊問調書中各其ノ旨ノ供述錄取セラレアルニ徴シ之ヲ認メ得

ル場合ニ限定セラレ其ノ他ノ雜用ニ供スル爲ニハ其ノ伐採ヲ許サザルモノナルコト前顯各證人ニ對スル訊問調書中同趣旨ノ供述記載アルニ依リ明ナルヲ以テ被告人等辯解ノ如ク單ニ井堰用材ニ供スルニ止マラス少クモ其ノ大部分ハ之ヲ自家用薪材ト爲スル目的ノ下ニ伐採ヲ爲シタル本件ニ在リテハ其ノ慣行上ノ權利行使ヲ認ムルニ由ナキモノト云ハサルヲ得ス然レトモ(一)當審受命判事ノ證人松本憲、松下菊平、松本幸之助ニ對スル訊問調書中ノ供述記載ニ徴スルニキハ本件小島五六十二番地ノ山林ノ中被告人カ伐採シタル西方ノ部分ヲ其ノ前年昭和四年春頃係争井堰ニ因リテ灌溉ヲ受ケル田地ノ所有者松本幸之助ニ於テ自家用ノ爲伐木シタル事實アリ當時幸之助ノ母ノハ被告人ノ母ハ其ノ對シ井根立林ノ下ニ田地ヲ所有スル者ハ其ノ樹木ヲ伐採シ得ヘキモノナレハ同山林ヲ伐採スヘキ旨ヲ勸誘シタル事實アリ被告人ノ母ハ其ノ旨ヲ被告人ニ告ケ遂ニ本件伐採ヲ爲スニ至リタル事情ナルコトヲ知り得ヘク(二)同受命判事ノ證人松本與之助及同松本勘兵衛ニ對スル訊問調書中ノ供述記載ニ徴スルニハ小字長野區ニハ本件井根立林ニ類似セル區有山林三箇所存在シ其ノ井根立林ニ在リテハ其ノ附近ノ井堰ニ因リテ灌溉ヲ受ケル田地ノ所有者ハ組合ヲ設ケ其ノ組合員ノ同意承諾アル場合ニハ區有山林ノ樹木ヲ單ニ井堰用ノミニ止マラス井堰用ニ支障ヲ生セザル範圍ニ於テ自家ノ建築材又ハ薪用ニ伐採スルコトヲ許サル慣行存在セル事實ヲ看取シ得ヘク、

(三)然シテ本件井根立林ハ竹藤區内ニ屬スルモノ面積ノ大部分ハ長野區ニ隣接スルコト、(四)伐採場所時刻其ノ他ノ態樣等ニ照シ自己ノ行爲カ盜伐ニ當ルコトヲ認識シタルモノト認ムルニ足ラサル事等ノ事情ヲ綜合シ一面本件ニ在リテハ被害者竹藤區ニ於テ毫モ被告人ノ所爲ヲ問責シタル事述ノ觀ルヘキモノナキ點其他諸般ノ事情等ヲ參酌シテ考量スルトキハ被告人ハ本件竹藤區有山林ヲ伐採スル當時井堰修繕用材ニ不足ヲ生セシムル範圍ニ於テ本件井根立林ヲ自家用ノ爲ニ伐採スルコトハ竹藤區ノ認シテ差支ナキモノトハ誤信シタルモノニシテ之ニ付相當ノ理由アリタルモノト認ムルヲ得ヘク從テ被告人ハ本件行爲ハ罪ヲ犯スル意ニ出テタルモノト爲スルヲ得ザルカ故ニ窃盜罪ヲ構成スヘキモノニ非ス叙上ノ理由ニ基キ刑事訴訟法第三百六十二條ニ則リ被告人ニ對シテハ無罪ノ言渡ヲ爲スヘキモノトス、右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十七條同第四百四十八條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

昭和七年八月四日 大審院第一刑事部裁判長列事 泉二 新熊 列事 日高要太郎 列事 三宅正太郎 列事 杉浦 忠雄 列事 植月 愛明

●審理ニ關與セザル判事ノ判決書ニ對スル署名

昭和七年(レ)第三九八號 本籍並住居京都府熊野郡下佐渡村字町二十一番地

住居東京市京橋區船松町一番地、寺田時藏方、建具ブローカー

右傷害致死被告事件ニ付昭和七年一月二十八日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告人ハ上告ヲ爲シタリ因テ決定スルコト左ノ如シ

【主文】 本件ニ付事實ノ審理ヲ爲ス

【理由】 辯護人木原金助上告趣意書第一點ハ原判決ニハ「裁判長判事官内藤太郎判事芳賀健治判事坂本英雄」署名捺印シタルモノ原判決ノ基本トナリタル原院第四回公判調書ヲ閱スルニ其ノ冒頭ニハ「山田豐藏右殺人被告事件ニ付昭和七年一月二十一日東京控訴院刑部第四部ニ於テ第二回公判調書ニ記載シタル同一判事裁判所書記列席ノ土檢事三田勝立會公判ヲ開廷ス」(記録五二八二)ト記載シアリテ同公判ニハ第二回公判調書ニ記載シタル判事即チ「裁判長判事官内藤太郎判事芳賀健治判事佐藤藤三(記録四九八二)然ルニ原判決ニハ右審理ニ列席シタル判事佐藤藤三ノ署名捺印ナク却テ右審理ニ列席セザル「判事坂本英雄」署名捺印シタルハ違法ニシテ到底破毀ヲ免レザルモノトスト云フニアリ

【決定理由】 仍テ調査スルニ原判決ノ基本トナリタル原院第四回公判調書ニ依リハ本件被告事件ニ付昭和七年一月二十一日東京控訴院刑部第四部ニ於テ第二回公判調書ニ記載シタル同一判事裁判所書記列席ニ記載シタル判事即

裁判長判事官内藤太郎、判事芳賀健治、判事佐藤藤三列席シ審理ヲ爲シタルモノト認メザルヲ得ス然ルニ原判決ニ依リハ判事佐藤藤三ノ署名捺印ナク右審理ニ關與セザル判事坂本英雄ノ署名捺印アルコト明白ナレハ審理ニ關與セザル判事坂本英雄カ判決ニ關與シタルモノト認メザルヲ得ザルニ歸シ論旨ハ理由アリ仍テ刑事訴訟法第四百四十七條第四款第四十條ニ則リ主文ノ如ク決定ス

昭和七年五月十二日 大審院第二刑事部裁判長列事 林 頼三郎 列事 横村米太郎 列事 尾佐竹 猛 列事 藤田 嘉七 列事 稻田 健

住居東京市京橋區船松町一番地、寺田時藏方、建具ブローカー

右傷害致死被告事件ニ付昭和七年一月二十八日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告人ハ上告ヲ爲シタリ因テ決定スルコト左ノ如シ

【主文】 原判決ヲ破毀ス、被告人ヲ懲役四年ニ處ス、但第一審ニ於ケル未決勾留日數中三百日ヲ右本刑ニ算入ス

【理由】 辯護人木原金助上告趣意書第一點ノ理由アルコトハ昭和七年五月十三日

當院ノ爲シタル決定ニ於テ説示スル如クナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十四條ニヨリ更ニ當院ニ於テ審理スルニ、被告人ハ昭和五年五月十七日午前中豫テヨリ親交アリタル小田切金吉ヲ其ノ住所ナリ東京市外大森町ノ同方ニ訪レ共ニ飲酒シタル後同日午後二時頃同方ト共ニ同家ヲ立出テ諸所ヲ徘徊シタル間日午後七時頃東京市外入新井町不入斗九百六十番地飲食店中島清次郎方前ニ到リ同家ニ小田切ノ知合ナル田中百太郎等カ尙遊興ヲ爲シ居ルコトヲ認メ相共ニ同方ヲ訪ネテ同家ニ階上ノ酒席ニ招セラレタルカ小田切カ理由ナリ百太郎ニ言掛リテ爲シタル爲被告人カ之ヲ仲裁スルヤ反テ被告人ニ掛リ來リタル結果兩名ノ間ニ争鬪起リタルモノ其ノ場ニ居リタル田中勝太郎等ノ仲裁ニ依リ一時納リタル如クナリシニ同八時半頃小田切ハ肉切り丁ヲ携ヘ來リ既ニ百太郎等ノ退席セル前記二階座敷ニ於テ被告人ニ對シ先刺ハヨリモ僅ク侮辱シタナト云ヒツツ右庖丁ヲ以テ被告人ノ頭部等ニ斬付ケタルニヨリ被告人ハ憤激ノ餘小田切ノ手ヨリ右庖丁ヲ攬取リ之ヲ以テ同方ノ胸部其ノ他ニ斬付ケ十數箇所ノ創傷ヲ負ハシメ因テ間モナク同方ヲシテ胸部刺傷ニ因リ失血ノ爲死亡スルニ致ラシメタルモノナリ(略證據)

辯護人等ハ本件被告人ノ行爲ハ無意識ニテ爲サレタルモノナルヲミナラス急迫不正ノ侵害ニ對シ己ムコトヲ得シテ爲シタル所謂正當防衛行爲ナル旨主張スレトモ前掲舉示ノ證據ニ依リハ被告人ハ本件犯行ノ認識アリタルコト明ナルハミナラズ被告人ハ小田切ノ肉切り丁ヲ以テ斬付

昭和七年(レ)第八〇五號 本籍並住居長野縣下伊那郡飯田町八百五十五番地、足袋製造業 伊藤 兵三 (當四十八年) 外一名

刑事判例

佐渡村信用組合監事及家屋稅調査委員等ノ要職ヲ兼テ公共ノ爲ニ盡瘁シ未タ會テ過失ヲ犯シタルコトヲ本年四月ニハ村會ニ於テ助役ニ推薦セラレタルニ之カ就職ノ機ナクシテ本事件ノ爲退職ノ已ムナキニ至リ未キ一生ヲシテ殆ト暗黒タラシメタリ而モ其ノ禍ハ一身ニ止マラス被告人ノ母ハ本件山林伐採ノ動機ヲ與ヘタルノ責ヲ感シ居村ニ居タラス永年住ミ慣レタル郷里ヲ棄テ齡六十歳ヲ超ヘタル老體ヲ以テ大阪ノ長兄ノ許ニ轉住スルニ至レリ被告人ニシテ若シ有罪ノ判決確定スルニ至ラザレバ之ニ因テ及ホス禍ハ今後止マル所ヲ知ラザルナリ被告人ト雖眞ニ罪科アラハ深ク刑ニ服スルニ躊躇セシ然レトモ本件ノ如ク心中些カモ疚シキ所ナカリ行爲ノ爲罪ニ服スルカ如キコトアランカ是終生ノ恨事ナリ何卒十分ナル御審理ヲ相仰度奉願候ト云フニ在リ

右森林盜伐被告事件ニ付昭和六年十月七日京都府裁判所ニ於テ言渡シタル第二審ノ有罪判決ニ對シ被告人ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ判決スルコト左ノ如シ

農業 松本 武

如シ

【主文】 本件ニ付事實ノ審理ヲ爲ス
【理由】 各被告人辯護人...

【判決理由】 仍ツテ原告公判調書ヲ査ス
ルニ被告人兵三ハ所謂ハ如ク判示金圓...

【主文】 原告判決中被告人兵三及實二ニ關
スル部分ヲ破毀ス...

【理由】 各被告辯護人...

【主文】 原告判決中被告人兵三及實二ニ關
スル部分ヲ破毀ス...

【理由】 各被告辯護人...

【主文】 原告判決中被告人兵三及實二ニ關
スル部分ヲ破毀ス...

【理由】 各被告辯護人...

【主文】 原告判決中被告人兵三及實二ニ關
スル部分ヲ破毀ス...

【理由】 各被告辯護人...

【判決理由】 仍ツテ原告公判調書ヲ査ス
ルニ被告人兵三ハ所謂ハ如ク判示金圓...

【理由】 各被告辯護人...

【主文】 原告判決中被告人兵三及實二ニ關
スル部分ヲ破毀ス...

【理由】 各被告辯護人...

【主文】 原告判決中被告人兵三及實二ニ關
スル部分ヲ破毀ス...

【理由】 各被告辯護人...

刑事判例

登録シタル商標權ト其ノ效力▲背任罪既遂ノ認定ト擬律錯誤

結果重大ナル事實誤認ヲ爲シタルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アリト認め...

昭和七年六月二日 大審院第一刑部裁判長判事 泉二 新熊...

本籍廣島市天神町九十八番地 住居別府市大字濱路三千七百九十四番地...

右商標法違反被告事件ニ付昭和六年五月三十日大分地方裁判所ニ於テ言渡シタル...

【主文】 原判決ヲ破毀ス 被告入清助ハ無罪

自宅ニ於テ自製ノ風葉ニ「風葉うどんの友」ト稱スル右ト類似ノ商標ヲ使用シ...

昭和七年十月二十四日 大審院第一刑部裁判長判事 泉二 新熊...

被告入清助ハ無罪

【理由】 被告入清助ハ被告入久市ヲ稱シ...

【主文】 原判決中被告入熊太郎久市ニ關スル部分ヲ破毀ス...

刑事判例

背任罪既遂ノ認定ト擬律錯誤

人ノ有スル登録商標ニ依リ權利行使ノ範圍ヲ出テサルモノト認メラルルカ故ニ...

昭和七年十月二十四日 大審院第一刑部裁判長判事 泉二 新熊...

被告入清助ハ無罪

【理由】 被告入久市ヲ稱シ...

【主文】 原判決中被告入熊太郎久市ニ關スル部分ヲ破毀ス...

か該電話加入權者タル地位ニ在ルモノハハ下カ右電話加入權ヲ自己名義ニ變更...

昭和七年(九)第八一四號

本籍並住居秋田縣由利郡本莊町石脇...

右詐欺未遂背任被告事件ニ付昭和七年四月五日宮城控訴院ニ於テ言渡シタル判決...

【理由】 被告入久市ヲ稱シ...

刑事判例

背任罪既遂ノ認定ト擬律錯誤

背任關係トシテ(1)熊太郎カ保吉名義ニ變更スル義務ヲ有スル電話加入權ヲ昭和五年八月十八日長吉名義トシタル上(2)同年十月...

熊太郎ノ爲シタル電話加入權名義替換ハ義務ノ前半ヲ履行シ長吉ノ爲シタル電話加入權ノ後半ヲ履行シタルニ過キテ...

熊太郎ノ爲シタル電話加入權ノ後半ヲ履行シタルニ過キテ長吉ノ爲シタル電話加入權ノ後半ヲ履行シタルニ過キテ...

被告入久市ヲ稱シ...

スル之カ運動報酬トシテ金二百圓ヲ交付
 供與シ且當選ヲ得ル目的ヲ以テ執レモ
 其ノ情ヲ知レル被告人幸吉榮次盛利三名
 ニ對シ各二圓九十一錢六厘相當ノ酒食並
 同被告人嘉次郎、盛吉ニ對シ各一圓四十
 一錢六厘相當ノ酒食ノ各費應ラシキナリ
 ト云フニ在ルヲ以テ被告人市之進ノ叙上
 判示行爲ハ面接者タル幸吉等ヨリ投票
 ヲ得ル目的ニ出テタルモノト解スルヲ得
 サルカ故ニ同被告人ノ行爲ハ府縣制第四
 十條ニ依リ準用セラルル衆議院議員選舉
 法第九十八條第二項第九十九條ノ罰條
 ニ屬ルモノニ非ス然ルニ原判決カ右被
 告人ノ行爲ヲ以テ叙上二個ノ罪名ニ屬ル
 ルモノトシ刑法第五十四條第一項前段第
 十條ヲ適用處斷シタルハ無律錯誤ノ違
 法アルモノニシテ論旨ハ其ノ理由アリ原
 判決中被告人市之進ニ關スル部分ハ此ノ
 點ニ於テ破毀ヲ免レサルモノトス
 第三點ハ原判決ハ證人大野嘉次郎ニ對ス
 ル豫審第一回訊問調査ヲ援用シテ本件斷
 罪ノ資料ニ供シタル然ルニ原院公判調査
 ヲ閱スルニ右證人大野嘉次郎ニ對スル豫
 審調査ハ之ヲ被告人ニ讀聞ケ其ノ意見見
 證ヲ求メタル事述ノ存スル所ナク原判決
 ハ適法ニ證據調査ヲ爲ササル證據ヲ斷罪ノ
 資料ニ供シタル違法アリ破毀ヲ免レサル
 モノト思料ス若シ原判決ハ右被告人大
 野嘉次郎ニ對スル豫審第一回調査證人調
 査ナリト誤解シ之ヲ採用シタルモノナリ
 トセンカ被告人ニ對スル豫審調査ト證人
 ニ對スル豫審調査トハ刑事訴訟法上劇然
 タル區別アリ從テ其ノ信憑力ニ相違ス
 ルモノナルヲ以テ被告人ニ對スル豫審調

書ヲ證人ニ對スル豫審調査トナシ之ヲ證
 據ニ援用スルコトヲ許スヘキモノニアラ
 ス然ルニ被告人ニ對スル豫審調査ヲ證人
 ニ對スル豫審調査ナリトナシ之ヲ援用
 シタル原判決ハ採證ノ法則ニ違背シ破毀
 ヲ免レサルモノト思料ス云フニアレ
 トモ
 原判決援用ノ證人大野嘉次郎豫審第一回
 訊問調査トアルハ被告人大野嘉次郎豫審
 第一回訊問調査ノ誤記ナルコト極メテ明
 白ナリトス而シテ被告人ニ對スル豫審調
 査ト證人ニ對スル豫審調査トハ信憑力ニ
 差異アリトノ規定ナキヲ以テ其ノ何レヲ
 採リ何レヲ捨ツルヤハ一ニ裁判官ノ自由
 裁量ニ屬シ右資格ヲ誤記シタルハトテ影
 響ナキヲ以テ論旨ハ理由ナシ
 第四點ハ原判決ハ其ノ事實理由第一ニ於
 テ「被告人末吉、市之進、昭和六年九月
 二十五日施行ノ鹿兒島縣議會議員選舉
 際同日一日同縣鹿兒島郡ヨリ立憲政友
 會公認トシテ立候補シタルモノナルコト
 同被告人ハ其ノ以前ヨリ之カ立候補ノ
 決意ヲ有シ居リ同年七月頃ヨリ同郡西
 島村ノ選舉人タル被告人西濱幸吉ニ對シ
 同村内ノ選舉運動方ヲ依頼シ居リタルカ
 云々」ト認定シタル然ルニ其ノ證據說
 明ノ部ニハ被告人市之進ハ右認定ノ如ク
 「昭和六年七月頃ヨリ西濱幸吉ニ對シ同
 村内ノ選舉運動方ヲ依頼シ居リタル」ト
 ノ證據ハ「選舉運動方」ニシテ事案ナシ然ラハ
 原判決ハ證據ニ憑ラズシテ事實ヲ認定シ
 タル違法アルモノト思料ス云フニアレ
 トモ原判決カ所論援用ノ被告人カ昭和六
 年七月頃ヨリ選舉人タル西濱幸吉ニ對シ
 選舉運動方ヲ依頼シ居リタルトノ事實ハ

本件犯行ニ對ル運送ヲ叙述シタルニ止リ
 犯罪構成要件ニアラサルヲ以テ必スシモ
 ノ證據說示ヲ要セザルカ故ニ其ノ證據
 ノ舉示ナシトスルモ敢テ違法ニアラス論
 旨理由ナシ
 第五點ハ原判決ハ其ノ事實理由第一ニ於
 テ「被告人末吉市之進ハ……同年八月十
 日鹿兒島市山下町本千歲旅館ニ右被告人
 幸吉及同村ノ選舉人ナル被告人武榮次、
 四元盛利、大野嘉次郎、西村盛吉ヲ招致
 シ同旅館ニ於テ投票ヲ得ル目的ヲ以テ同
 人等ニ個々ニ面接シテ其ノ選舉運動方ヲ
 依頼シ云々」ト認定シタル然ルニ其ノ證
 據說明ノ部ニハ右認定ノ如ク被告人市之
 進ハ「投票ヲ得ル目的ヲ以テ」該行爲ヲ
 爲シタルトノ證據ハ「選舉運動方」ニシ
 ナシ或ハ曰ハ「既ニ選舉運動ヲ依頼シタ
 ル以上夫レ自體ニ於テ投票ヲ得ル目的
 ノ存セルコト勿論ナリ然レモ選舉法ニ
 ハ投票ヲ得若クハ得シメ又ハ得シメザル
 ノ目的ヲ以テ云々」ト規定アリテ該目的
 ノ有無ハ犯罪成否ノ岐ル重要要件ト爲
 シ居ルヲ以テ被告人ヲ選舉法違反罪ニ問
 擬スルニハ被告人ニ該目的ノ存セシコト
 ノ必スヤ證據ニ憑ラズテ之ヲ認定スルコト
 ヲ要シ他ノ證據ニ基キ推斷シ去ルヘキモ
 ノニアラス然ラハ原判決ハ此ノ重要要件
 ニ付證據ニ憑ラズシテ事實ヲ認定シタル
 違法アルモノト思料ス云フニアレト
 モ原判決援用ノ證據ノ全趣旨ヨリ所論
 判示事實ヲ認メ得ルヲ以テ論旨ハ理由
 ナシ
 第六點ハ原判決ハ第一事實トシテ「被告
 人末吉市之進ハ……同年八月十日鹿兒島
 市山下町本千歲旅館ニ右被告人幸吉及同

アルモノト思料ス云フニアレトモ原判
 決援用ノ證據ニ依リ僅ニ所論判示事實ヲ
 認メ得ヘキヲ以テ論旨ハ理由ナシ
 第七點ハ原判決ハ第一事實ニ於テ「被告
 人末吉市之進ハ昭和六年九月二十五日施
 行ノ鹿兒島縣議會議員選舉際同日一日
 同縣鹿兒島郡ヨリ立憲政友會公認トシ
 テ立候補シタルモノナルトコト同被告人
 ハ其ノ以前ヨリ之カ立候補ノ決意ヲ有シ
 居リ云々」ト認定シタル然ルニ其ノ證據
 說明ノ部ニハ被告人市之進ハ右認定ノ如
 キ證據ヲ援用シ居リタルトノ事實ハ「選
 舉運動方」ニシテ事實ナシ然ラハ原判決
 ハ證據ニ憑ラズシテ事實ヲ認定シタル
 違法アルモノト思料ス云フニアレトモ
 原判決カ所論援用ノ證據ニ依リ所
 論判示事實ヲ認メ得ヘキヲ以テ論旨ハ理
 由ナシ
 第八點ハ被告人市之進ノ本件行爲ハ犯罪
 ヲ構成スルモノニアラスト思料ス既ニ第
 一點ニ述ヘタルト雖モ假ニ然ラズトスル
 モ被告人ノ本件行爲ハ立候補準備ノ爲ニ
 シテ事情相當ニ同情スヘキモノアリ被告
 人ハ前科ナク性質溫厚素行善良數萬ノ資
 産ヲ有シ縣内ニ於テ相當ノ信用ト德望ト
 ヲ有スル者タルハ勿論大正六年以來村會
 議員郡會議員郡參事會員縣會議員村長農
 會長產業組合長等ノ公職ニ從事シ地方自
 治及産業ノ功勞者ナリトス而モ本件發生
 後ハ深く其ノ不徳ヲ恥チ專ラ謹慎ヲ爲シ
 改後ノ情願著ナルモノアルヲ以テ原判決
 ニ於テハ被告人市之進ニ對シ其ノ選舉權
 被選舉權ノ停止ヲ免除シ今後ニ於テハ法
 律ノ精神ヲ重ニスルキヤウ努メシムルコト
 却テ勝レリト思料ス然ルニ事案ニ出テ

カリシ原判決ハ科刑者ト重キニ過タルモ
 ノト思料スヘキ顯著ナル事由アルモノニ
 シテ破毀スヘキモノト思料ス云フニアレ
 レトモ記載ヲ精査シ諸般ノ情狀ヲ參酌ス
 ルモ原判決ハ量刑ノ措置ハ甚シク不當ナ
 リト思料スヘキ顯著ナル事由アルモノト
 認メ難キヲ以テ論旨ハ理由ナシ
 上述ノ如ク上告論旨第二點ハ其ノ理由ア
 ルヲ以テ刑罰訴訟法第四百四十七條ニ依
 リ原判決ヲ破毀シ同法第四百四十八條ニ
 依リ更ニ判決ヲ爲スヘキモノトス
 原判決ノ認定セル事實ヲ法律ニ照スニ被
 告人市之進カ議員候補者届出前ニ武榮次
 外四名ニ對シ選舉運動方ヲ依頼シタル所爲
 ハ府縣制第三十九條第四十條衆議院議員
 選舉法第九十六條前段第二百二十九條ニ該
 當シ右四名ニ對シ供與應ラズシタル
 所爲ハ府縣制第四十條衆議院議員選舉法
 第二百二條第一號ニ該當シ以上一所爲ニ
 シテ二個ノ法條ニ觸ルモノナルヲ以テ
 刑法第五十四條第一項前段ニ依リ重キ供
 與應罪ノ刑ニ從ヒ其ノ所定刑中罰金刑
 ヲ選擇シ被告人ヲ罰金三百圓ニ處シ此ノ
 罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ刑法
 第十八條ニ依リ百五十日間勞務場ニ留置
 スヘク訴訟費用中證人前田吉太郎、永田
 榮吉、時崎三、須崎タエニ支給シタル
 分ハ刑罰訴訟法第二百三十七條第一項ニ
 依リ被告人ト原審相被告人西濱幸吉、武
 榮次、四元盛利、大野嘉次郎、西村盛吉
 トノ平等負擔トスヘキモノトス、以上ノ
 理由ナルニ依リ主文ノ如ク判決ス
 後事對該支十圓與
 昭和七年十月二十日
 大審院第二刑事部裁判長 西川 一男

刑事 横村末太郎 刑事 尾佐竹 盛
 刑事 藤田 嘉七 刑事 稻田 豊
 ●連續殺害ニ重ル強盜殺人
 加害者カ被害者ニ對スル殺意ヲ起シ其ノ
 犯行ノ用ニ供スヘキ物ヲ携ヘテ夜中其ノ
 戶外ニ於テ同ノ屋内ヨリ出テ來ルヲ待
 テタル處被害者カ出テ來ラサル爲當夜ハ
 未ダ實行ニ着手スルニ至ラザリシモ爾後
 尙其ノ殺意ヲ繼續シテ現場ノ傍ニ隠レ
 行ハ機會ヲ待テ中其ノ殺害ヲ手段トスル
 財物奪取ノ犯意ヲ加ヘ該犯意ニ基キ被害
 者ヲ殺害シテ財物奪取ノ目的ヲ遂ケタル
 場合ニ在リテハ法律上ヨリ之ヲ觀ルトキ
 ハ當初ニ於ケル殺人ノ用ニ供スヘキ物ヲ
 準備シ機會ヲ窺ヒタル行爲ハ固ヨリ其ノ
 實行セラレタル強盜殺人既遂ノ行爲ニ包
 含セシメ既遂ニ至ル行爲ノ段階トシテ之
 ノ觀察スヘキ別ニ獨立シタル殺人豫備罪
 ナル一罪ノ成立ヲ認ムヘキモノニ非ス蓋
 刑法第二百一十一條ハ行爲ノ段階カ豫備ハ
 止リ着手ニ進ムセサル場合ハ處罰規定
 ナレハナリ
 昭和七年(九)第七七一號
 決定
 本籍和歌山縣東牟婁郡津川村大字請
 川二百四十五番地
 住居奈良縣吉野郡十津川村大字七色
 番地不詳、炭燒業
 西 金 藏
 (明治四十四年十月十日生)
 右強盜殺人殺人豫備住居侵入被告事件ニ

付昭和七年五月二日大阪控訴院ニ於テ言
 渡シタル判決ニ對シ原院檢察長代理檢察
 瀧川秀雄ハ上告ヲ爲シタリ因テ檢察長井
 彦三郎ノ意見ヲ聽キ決定スルコト左ノ如
 シ
 【主文】 本件ニ付事實審理ヲ爲ス
 【理由】 大阪控訴院檢察長代理瀧川秀雄
 上告趣意書本件公訴事實ハ被告人ハ和歌
 山縣東牟婁郡新宮町木炭炭屋本保一ニ
 雇ハレ奈良縣吉野郡十津川村大字七色日
 尾谷山林内ニ於テ炭燒ニ從事中製炭ノ成
 績思ハシカラス生計不如意ナリ折柄昭和
 六年八月以降再三和歌山縣西牟婁郡田
 邊町ニ居住スル實兄西濱新ヨリ妹キエ
 (當時十二歲)ヲ同町尋常小學校ニ通學
 セシムルニ付連レ來ルヘキ旨ノ通知ニ接
 シタルモ其ノ旅費ニ窮シ金員ノ調達ニ焦
 慮中日尾谷ニ於テ木炭運搬ニ從事セル同
 縣東牟婁郡三里村大字切畑六一番地野
 尻庄太郎ノ實母ヤサノ(八十一歲)カ多
 少蓄財シ居ルモノト思惟シ同人ヨリ金借
 スヘク同年十月十九日午後三時頃右庄太
 郎方ニ立越シタルモノ不在ナリヨリ同家
 上リ口ニ腰掛ケヤサノノ歸宅ヲ待チ居タ
 ル處間モナク歸宅セル同人ニ對シ金五圓
 ノ貸與方ヲ申込ミタルモ同人ヨリ之ヲ拒
 絶セラレ利ハ斷斷ニテ留守中邸内ニ侵入
 シ居ルハ益人ナリト惡慮セラレタル爲激
 怒シタルモ若シ近隣ノ者カ寄り來ラハ具
 合惡シト考ヘ其ノ儘同家ヲ逃ケ出シ附近
 ノ雜木林ニ隠レ思案ノ結果ヤサノヨリ物
 盜ニ還入りタルカ如ク吹聴セラルルニ
 至ラハ世間ニ對シ面目無キヲ以テ寧ロ同
 人ヲ殺害シ其ノ機ニ乘シテ金員ヲ奪取セ
 ント決意シ同夜十一時頃ヤサノ方退出入

刑事判例

運搬犯人預備殺人既遂ノ關係

口外側ニ潛ミ同家外側ニ在リタル長サ約三、四尺ノ棍棒ヲ用意シ若シ同人力ヲ用ニ出テ來ラハ撲殺セント一時間許リテ木...

實ヲ肯定シタルノ一事ニ至ラハ究極公訴事實ト致テ打格スル所アルコトナシ唯...

地ヨリ觀シ來レハ他人カ控ニ不在中ノ自宅内ニ立入り居レルヲ目録セハ之ヲ快...

八十一歳ノ老體ニ兇暴ノ限ヲ盡シ創傷數繁クシテ一々指摘スルニ堪ヘズ特ニ甚シ...

刑事判例

運搬犯人預備殺人既遂ノ關係

スル處アルヘキハ論ヲ俟タズ從テ訊問ニ對シテモ犯行ヲ悔ヒ謝罪ノ意ヲ表スヘキ...

右強盜殺人、殺人預備、住居侵入、被告事件ニ付昭和七年五月二日大阪控訴院ニ於...

五番地野尻庄太郎ノ母野尻やすの(當時八十一歳)カ日頃多少ノ蓄財ヲ爲シ居ル...

ノ翌二十二日午前三時頃同人力果シテ同家奥ノ間接手ノ兩戸ヲ開キテ出テ來リ同...

昭和七年八月六日 大審院第三刑事部裁判長判事 中西 用徳 判事 中尾 芳助 判事 草野約一郎...

判決 本籍和歌山縣東牟婁郡請川村大字請川二百四十五番地 住居奈良縣吉野郡十津川村大字七色...

判決 本籍和歌山縣東牟婁郡請川村大字請川二百四十五番地 住居奈良縣吉野郡十津川村大字七色...

判決 本籍和歌山縣東牟婁郡請川村大字請川二百四十五番地 住居奈良縣吉野郡十津川村大字七色...

刑事判例

運送致死者殺人既遂トノ關係

(四六)

ラ、蓋シ刑法第二百一、條ハ行爲ノ段階カ...

右傷害致死被告事件ニ付昭和七年六月二...

シタルカ否ノ點ハ證據不充分ト謂フヘキ...

非サルモ被告人堀山又右衛門ハ既ニ嘔吐...

嘔吐ト過剰防衛

嘔吐ニ於テ相手方ヲ地上ニ仆シ最早...

本籍並住居佐賀縣津浦郡古枝村甲二...

堀山又右衛門

(明治三十四年十二月一日生)

大審院第三刑部裁判長判事 中西 用徳...

嘔吐ニ於テ相手方ヲ地上ニ仆シ最早...

嘔吐ニ於テ相手方ヲ地上ニ仆シ最早...

嘔吐ニ於テ相手方ヲ地上ニ仆シ最早...

嘔吐ト過剰防衛

嘔吐ニ於テ相手方ヲ地上ニ仆シ最早...

本籍並住居佐賀縣津浦郡古枝村甲二...

堀山又右衛門

(明治三十四年十二月一日生)

貴ノ一部ヲ負フモノナリト假定スルモ記...

害者ノ叔父石丸治助カ昭和六年十一月二...

昭法第四百四十三條ニ依リ主文ノ如ク決...

至リタルカ被告ハ之ヲ制止セントシテ...

刑事判例

嘔吐ト過剰防衛

(四七)

大審院第四刑部裁判長判事 島田 鐵吉...

嘔吐ニ於テ相手方ヲ地上ニ仆シ最早...

嘔吐ニ於テ相手方ヲ地上ニ仆シ最早...

嘔吐ニ於テ相手方ヲ地上ニ仆シ最早...

重大ナル事實ノ誤認ト背任罪ノ不成立

昭和七年(九)第九五二號

本籍名古屋市中區西洲崎町二十六番戶

右背任被告事件ニ付昭和七年五月二十日長崎地方裁判所ニ於テ言渡シタル第二審判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シタリ因テ檢事大原昇ノ意見ヲ聽キ決定スルコト左ノ如シ

【主文】 本件ニ付事實ノ審理ヲ爲ス

【理由】 辯護人加藤長一、吉田謙上告趣意書第一點原判決ハ被告カ久松ノ利益ヲ圖リ同會社ニ損害ヲ加フヘキコトヲ認シナカラ其任務ニ背キ被告ハ保管ニ係ル株券ヲ久松ニ返還シタル旨判示シ刑法第二百四十七條ヲ適用斷シタリ然レトモ被告ハ會社カ株主總會ニ於テ久松ヲ取締役ニ選任シタルヲ以テ其就任ニ際シ同會社カ久松ヨリ預リ居ル株券ヲ便宜取締役ノ供託株ト爲シタルモノニシテ斯ル便宜ノ取扱ヲ爲スコトニ因リ株主總會ニ於ケル取締役選任ノ決議ヲ故障ナク實現セシムルコトハ會社當時ノ事情ニ適合スル措置ナリシモノナリ即チ被告ハ會社ノ爲メ株主總會ニ於テ選任シタル取締役ヲ就任セシメントシテ爲シタルモノニシテ自己又ハ第三者ノ利益ヲ圖ルカ爲メニモアラス又會社ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ爲シタルモノニモアラス會社ノ爲メ當然ノ任務ヲ遂行シタルニ止マリ決シテ任務ニ背キタル行爲ヲ爲シタルモノニモ

重大ナル事實ノ誤認ト背任罪ノ不成立

昭和七年(九)第九五二號

本籍名古屋市中區西洲崎町二十六番戶

右背任被告事件ニ付昭和七年五月二十日長崎地方裁判所ニ於テ言渡シタル第二審判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シ當院ハ同年十月四日事實ノ審理ヲ爲スヘキ旨ノ決定ヲ爲シタリ因テ判決スルコト左ノ如シ

【主文】 原判決ヲ破毀ス

【理由】 被告辯護人加藤長一、吉田謙上告趣意書第一點論旨理由アルコトハ前掲當院ノ決定ニ於テ説明スル如クナラザリ以テ刑部訴訟法第四百四十七條ニ依リ原判決ヲ破毀シ同法第四百四十八條ニ依リ被告事件ニ付更ニ判決ヲ爲スヘキモノトモ、仍テ兼按スルニ、本件公訴事實ハ被告ハ青島相互建築株式會社ニ事務取締役トシテ同會社ノ業務ヲ執行中、右會社ハ久松ノ株主總會ニ對シ同會社ノ同業社株券百九十株ヲ擔保トシテ金銀ノ貸付ヲ爲シ昭和三年十二月三十一日現在ニ於テ同業社株券ノ價值ハ元利合計金二千二百三十三圓九十六圓七角五分所同人カ同會社ノ取締役ニ選任セラレ定款所定ル株券ヲ同會社監査役ニ供託スルニ當リ被告ハ久松ノ利益ヲ圖リ自己カ取締役トシテ保管中ノ右株券中ヨリ五十株ヲ無償ニ引拔キ之ヲ同人ニ返還シ因テ擔保物件ノ一部ヲ喪失セシメテ會社ノ財産上ノ損害ヲ加ヘ、會社ハ大正十二年六月本中本備三郎ニ對シ青島市外仙家三

重大ナル事實ノ誤認ト背任罪ノ不成立

昭和七年(九)第九五二號

本籍名古屋市中區西洲崎町二十六番戶

右背任被告事件ニ付昭和七年五月二十日長崎地方裁判所ニ於テ言渡シタル第二審判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シタリ因テ檢事大原昇ノ意見ヲ聽キ決定スルコト左ノ如シ

【主文】 本件ニ付事實ノ審理ヲ爲ス

【理由】 辯護人加藤長一、吉田謙上告趣意書第一點原判決ハ被告カ久松ノ利益ヲ圖リ同會社ニ損害ヲ加フヘキコトヲ認シナカラ其任務ニ背キ被告ハ保管ニ係ル株券ヲ久松ニ返還シタル旨判示シ刑法第二百四十七條ヲ適用斷シタリ然レトモ被告ハ會社カ株主總會ニ於テ久松ヲ取締役ニ選任シタルヲ以テ其就任ニ際シ同會社カ久松ヨリ預リ居ル株券ヲ便宜取締役ノ供託株ト爲シタルモノニシテ斯ル便宜ノ取扱ヲ爲スコトニ因リ株主總會ニ於ケル取締役選任ノ決議ヲ故障ナク實現セシムルコトハ會社當時ノ事情ニ適合スル措置ナリシモノナリ即チ被告ハ會社ノ爲メ株主總會ニ於テ選任シタル取締役ヲ就任セシメントシテ爲シタルモノニシテ自己又ハ第三者ノ利益ヲ圖ルカ爲メニモアラス又會社ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ爲シタルモノニモアラス會社ノ爲メ當然ノ任務ヲ遂行シタルニ止マリ決シテ任務ニ背キタル行爲ヲ爲シタルモノニモ

番地及同地上建物ヲ抵當トシ金六千圓別ニ右建物内据付ノボイラーエンジン其ノ他器具機械一切ヲ賣渡擔保トシ金六千圓ヲ貸付ケ被告カ代表取締役ニ就任當時元金五千圓子金五千圓四圓七角五分トナリ居タル被告ハ昭和四年六月九日日本ノ利益ヲ圖リ同人カ田中元次郎ニ右土地建物ヲ任意賣却シタルカ如ク裝ハシメ中本ヨリ金一千八百八十圓ヲ受取リ之ヲ同人ノ債務中其ノ元金八金シタル上抵當權ヲ抹消シ同時ニ賣渡擔保ノ目的タル右建物内据付ノボイラーエンジン等一切ノ器具機械ヲ會社ニ何等ノ入金ナキニ拘ハラシ中本ニ交付シ同人ヲシテ他ニ賣却セシメ尙多額ノ殘債權アルニ拘ハラシ其ノ借用證書動産賣渡證書貸借證書等ヲ中本ニ返還シ會社ヲシテ債權存在ノ證據ヲ失ハシメ以テ會社ノ財産上ノ損害ヲ加ヘ三、右會社ノ取締役安富小太郎ノ利益ヲ圖リ會社對シテ同業社株券百九十株ヲ擔保ニキ青島都路街角ノ家屋ニ二番抵當權ヲ設定シテ金九百圓ヲ同人ニ貸與シ以テ會社ノ財産上ノ損害ヲ加ヘ四、加藤孝樹ノ利益ヲ圖リ會社所有ノ青島清平路七號家屋ヲ不當ノ安價ヲ以テ同人ニ賣渡シ會社ノ財産上ノ損害ヲ加ヘ五、右會社カ大正十一年開催シタル小口建築會ハ昭和六年十一月及同七年二月ニ夫々滿會トナリ會員ニ對シ積立金ヲ返還スヘキ義務アルモノナル處營業不振ニシテ到底返還不能ナルヲ見越シ積立金額ノ二割ヲ以テ債權ノ買収ヲ爲シ居タルニ拘ハラシ小口債權者山下平次郎及其ノ内職ノ妻木下ヤチノ請託ヲ容レ積立金九百九十圓ニ限リ二割ヲ以テ買収セス

刑事判例

右傷害被告事件ニ付昭和七年七月二日秋田地方裁判所ニ於テ言渡シタル第二審判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シタル事ハ右判決檢事佐々波與佐次郎ノ意見ヲ聽キ決定スルコト左ノ如シ

【主文】 本件ニ付事實ノ審理ヲ爲ス 【理由】 辯護人鈴木安孝、並原正史上告趣意書第二點原判決ハ刑ノ量定甚シク不當ナリト思料スヘキ顯著ナル事由アルモ也凡ソ傷害ノ結果一眼ヲ失明セシメタル被告ニ對シ懲役六月ノ實刑ヲ科スルハ通常ノ場合ニ於テ相當ノ所罰ナリト見ルヘク本件被告ハ對テ相當ノ所罰ナリト見

テハ能ク判リマセムカ酒類ノ良クナイト云フコトタケハ自分テ判テ居リマス間、酒宴ノ席ヲ辭退シテ居リマスアルコトヲ知ラナイカ答、判然致シマセムカ無イト思フナリカ答、判然致シマセムカ中テ私カ一番酔ツテ居リマス時飲シタ者ノ(第一審判事ノ訊問調書八及十二問答) 柳澤長一郎ハ惣次郎ハ元來酒癖カ悪イ人ナル爲メ私ハ柳澤字一同定治ト三人テ今ノ間ニ惣次郎ヲ送リ返サウト云ヒ合シ家ニ歸ラウト惣次郎ヲ誘ツテ外へ出マシタ三三三間モ行ツテ惣次郎ハ家ニハ歸ラナイト云ヒ出シ元ノ市太郎方へ戻リマシタ...

【主文】 本件ニ付事實ノ審理ヲ爲ス 【理由】 辯護人鈴木安孝、並原正史上告趣意書第二點原判決ハ刑ノ量定甚シク不當ナリト思料スヘキ顯著ナル事由アルモ也凡ソ傷害ノ結果一眼ヲ失明セシメタル被告ニ對シ懲役六月ノ實刑ヲ科スルハ通常ノ場合ニ於テ相當ノ所罰ナリト見ルヘク本件被告ハ對テ相當ノ所罰ナリト見

【主文】 本件ニ付事實ノ審理ヲ爲ス 【理由】 辯護人鈴木安孝、並原正史上告趣意書第二點原判決ハ刑ノ量定甚シク不當ナリト思料スヘキ顯著ナル事由アルモ也凡ソ傷害ノ結果一眼ヲ失明セシメタル被告ニ對シ懲役六月ノ實刑ヲ科スルハ通常ノ場合ニ於テ相當ノ所罰ナリト見

(五〇)

庭園滿ニシテ生計困難ナラス部若青年間ニ信望アリ(素行調査一丁)農會設立以來其ノ會長トナツテ部落ヲ進歩改善ヲ圖リ又兵役ノ義務ヲ果テセル豫備陸軍歩兵上等兵(第一審判調書八三三丁)ニシテ模範トナスニ足ル篤實ナル青年ナリ

【主文】 本件ニ付事實ノ審理ヲ爲ス 【理由】 辯護人鈴木安孝、並原正史上告趣意書第二點原判決ハ刑ノ量定甚シク不當ナリト思料スヘキ顯著ナル事由アルモ也凡ソ傷害ノ結果一眼ヲ失明セシメタル被告ニ對シ懲役六月ノ實刑ヲ科スルハ通常ノ場合ニ於テ相當ノ所罰ナリト見

【主文】 本件ニ付事實ノ審理ヲ爲ス 【理由】 辯護人鈴木安孝、並原正史上告趣意書第二點原判決ハ刑ノ量定甚シク不當ナリト思料スヘキ顯著ナル事由アルモ也凡ソ傷害ノ結果一眼ヲ失明セシメタル被告ニ對シ懲役六月ノ實刑ヲ科スルハ通常ノ場合ニ於テ相當ノ所罰ナリト見

【主文】 本件ニ付事實ノ審理ヲ爲ス 【理由】 辯護人鈴木安孝、並原正史上告趣意書第二點原判決ハ刑ノ量定甚シク不當ナリト思料スヘキ顯著ナル事由アルモ也凡ソ傷害ノ結果一眼ヲ失明セシメタル被告ニ對シ懲役六月ノ實刑ヲ科スルハ通常ノ場合ニ於テ相當ノ所罰ナリト見

刑事判例

右傷害被告事件ニ付昭和七年七月二日秋田地方裁判所ニ於テ言渡シタル第二審判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シタル事ハ右判決檢事佐々波與佐次郎ノ意見ヲ聽キ決定スルコト左ノ如シ

【主文】 本件ニ付事實ノ審理ヲ爲ス 【理由】 辯護人鈴木安孝、並原正史上告趣意書第二點原判決ハ刑ノ量定甚シク不當ナリト思料スヘキ顯著ナル事由アルモ也凡ソ傷害ノ結果一眼ヲ失明セシメタル被告ニ對シ懲役六月ノ實刑ヲ科スルハ通常ノ場合ニ於テ相當ノ所罰ナリト見

【主文】 本件ニ付事實ノ審理ヲ爲ス 【理由】 辯護人鈴木安孝、並原正史上告趣意書第二點原判決ハ刑ノ量定甚シク不當ナリト思料スヘキ顯著ナル事由アルモ也凡ソ傷害ノ結果一眼ヲ失明セシメタル被告ニ對シ懲役六月ノ實刑ヲ科スルハ通常ノ場合ニ於テ相當ノ所罰ナリト見

(五一)

【主文】 本件ニ付事實ノ審理ヲ爲ス 【理由】 辯護人鈴木安孝、並原正史上告趣意書第二點原判決ハ刑ノ量定甚シク不當ナリト思料スヘキ顯著ナル事由アルモ也凡ソ傷害ノ結果一眼ヲ失明セシメタル被告ニ對シ懲役六月ノ實刑ヲ科スルハ通常ノ場合ニ於テ相當ノ所罰ナリト見

【主文】 本件ニ付事實ノ審理ヲ爲ス 【理由】 辯護人鈴木安孝、並原正史上告趣意書第二點原判決ハ刑ノ量定甚シク不當ナリト思料スヘキ顯著ナル事由アルモ也凡ソ傷害ノ結果一眼ヲ失明セシメタル被告ニ對シ懲役六月ノ實刑ヲ科スルハ通常ノ場合ニ於テ相當ノ所罰ナリト見

【主文】 本件ニ付事實ノ審理ヲ爲ス 【理由】 辯護人鈴木安孝、並原正史上告趣意書第二點原判決ハ刑ノ量定甚シク不當ナリト思料スヘキ顯著ナル事由アルモ也凡ソ傷害ノ結果一眼ヲ失明セシメタル被告ニ對シ懲役六月ノ實刑ヲ科スルハ通常ノ場合ニ於テ相當ノ所罰ナリト見

刑事判例

柔道教授ノ免許證ヲ有セザル者ノ柔道整復術營業ト擬律ニ強制處分手續ニ於テ宣誓ヲ爲シ...

(五二)

營業ヲ爲シタルモノナリトノ事實ヲ認定シ内務省令按摩術營業取締規則附則末項ニ依リ同規則第十條ヲ準用處断シタリ...

本籍並住居山梨縣北巨摩郡大草村百五十九番戸、農 清水 なみの (當五十九年) 右按摩術營業取締規則違反被告事件ニ付...

法律ニ照スニ被告人ノ行為ハ醫師法第十條ニ該當スルヲ以テ同條所定ノ科刑刑ヲ選擇シ被告人ヲ科料金十圓ニ處ス...

本籍並住居大阪府浪速區大國町一丁目六十三番地、蒲鉾天婦羅商 高橋 シマ (明治二十年六月六日生) 右殺人被告事件ニ付...

刑事判例

強制處分手續ニ於テ宣誓ヲ爲シタルモノナリトノ事實ヲ認定シ内務省令按摩術營業取締規則附則末項ニ依リ同規則第十條ヲ準用處断シタリ...

(五三)

【決定理由】 仍テ記録ヲ査スルニ原判決力鑑定人太村得三作成ニ係ル昭和四年十一月四日付鑑定書ヲ採テ罪證ニ供シタルコト...

昭和七年(九)第一五九三號 本籍並住居大阪府浪速區大國町一丁目六十三番地、蒲鉾天婦羅商 高橋 シマ (明治二十年六月六日生) 右殺人被告事件ニ付...

其ノ間ニテナク大正十五年頃ヨリ大阪府浪速區大國町一丁目六十三番地ナル魚市場區域ニ店舖ヲ持テ海産物商ヲ營ミ其ノ傍被告人ハ自ラ別ニ床店ヲ借リテ蒲鉾天婦羅ヲ賣ル...

壯健ナル加フルハ状ニ考ヘ從來ハ年上トシテ夫ヲ御シ得タル被告人モヤカテ夫ニ侮ラレテハ捨テ去リテ運命ニ在リ...

刑事判例

強盗分手後ニ於テ宣言ヲ爲シ強盗處分ニ於テ宣言ヲ爲サスニテ作成セラレタル鑑定書ノ證據力

飲酒者ノ暴言ニ對スル傷害

致死ト其ノ量刑

昭和六年(レ)第一七五二號

本籍住居岡田縣美田郡巨勢村大字 海田三百九十七番地、農 横山 林太郎

(明治三十二年四月二日生)

右傷害致死被告事件ニ付昭和六年十二月四日廣島控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告人ハ上告ヲ爲シタリ仍テ檢事南部金夫ノ意見ヲ聽キ決定スルコト左ノ如シ

【主文】 本件ニ付事實ノ審理ヲ爲ス

【理由】 辯護人濱田三平、稻本鏡之助上告趣意書第一點原判決ハ左記事由ニ依リ重大ナル事實誤認ノ疑顯著ナルモノアリト信ス(一) 傷害致死被告事件ニ於テ罪責ノ有無ヲ決スヘキ最重要ナル證據ハ被害者ノ口供ナルニ本件被害者池上京平ハ生前發語上多少ノ不自由アリタルモ何等談話ニ差支ナキ容態ニアリテ被告人横山林太郎ノ爲ニ下ニ突落サレタル事實ヲ語ラリシノミナラス却テ之ヲ否認スルカカキ趣旨ノ言語ヲ遺シテ死亡シタリ即(イ) 同人ヲ診斷シタル醫師江川慎吾ノ檢事取書(記録九一丁ノ裏以下)ニ「京平ハ意識ハ明瞭デアリマシタカ私カ同人ニ何ウシテ落チタカト聞イタ處自分ハ能ク覺ヘテ居ラナイ後ニ四程道ヘ上ラウトシタカ體ノ自由カ利カスシテ上レナカウツト申シテ居リマシタ二度目ニ診察シタトキニ京平カ妻ニ向ツテ實ハ落チタ時ニ連レカアツタノテアルト云フコトハ聞キマシタ(ロ) 同人證人訊問調査

雄、草野善一、芦田定四郎、織田徳太郎ニ對スル各豫審訊問書及證人出口修輔ニ對スル第一四並第二四各豫審訊問ニ於ケル原判決採用ノ記載ニ依リ事件後ニ於ケル現場ノ事情ヲ當時ノ被告人ハ舉措態度カ到底本件殺害カ被告人以外ノ者ニヨリテ行ハレタリト認ムルヲ許ササル事實ヲ確實ニ看取シ得ルニ依リ被告人ハ否認ヲ排シ右ノ事實ヲ認定ス辯護人ハ右證人甲斐信夫ニ對スル豫審訊問調査ノ同證人ノ違法ナル訊問ニ係ル供述内容トスルヲ以テ罪證ニ供スヘキモノニアラスト論スルモ假令右證人ハ司法警察官トシテ被告人ヲ訊問シタル手續ニ違法アリトスルモ之カ爲ニ同證人ニ對スル豫審訊問調査中ノ同證人ハ供述記載ヲ採テ證據ト爲スヘカラストスルノ理ナキヤ明ナルヲ以テ所論ハ採用セス、仍テ判示事實ハスヘテ其ノ證明アリタルモノトス法律ニ照スニ被告人ノ判示行為ハ刑法第百九十九條ニ該當スルヲ以テ有期懲役刑ヲ選擇シ其ノ刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役十五年ニ處スヘク訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條ニ則リ被告人ヲシテ負擔セシムヘキモノトス、叙上ノ理由ニ基キ刑事訴訟法第四百四十七條第四百四十八條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

昭和七年十二月二十六日 大審院第一刑部裁判長判事 日高要次郎 判事 中尾 芳助 判事 三宅正太郎 判事 杉浦 忠雄 判事 植月 愛明

(記録一六七丁以下)ニ付趣旨ノ供述記載(ハ) 被害者ノ實父池上正次郎ノ證人訊問調査(記録一二五丁以下)ニ「私ハ京平ニ「京平ヤ酒ニ酔ツテ何トシタ事ナラト申シマス東京平ハ「オチイサンマコトヲシタツイ酒ヲ飲ンタモノノタカラトカ「酒ノ機嫌テトカ云フタカケテ……(二) 被害者ノ妻池上トヨノ證人訊問調査(記録一三八丁以下)ニ「京平ハ餘リ言ハ云ヒマセンテ小林方テ一度ト私方テ二四條カ畑ニ落チテ倒レタコトハ横山林太郎方知ツテキル答カラ落チタコトヲ知ラセテ呉レタと思ツテ居タカ知ラセテ呉レタノナラモツト早ク家カラ俺ヲ伴レニ來タタロウニト申シ醫師ニ診テハ何トカ生キル手當ハナイカ誠ニ残念ナルシカ別レマシタ(キ) 原審公判廷ニ提出セラレタル 國富豊太郎署名參考書ト題スル書面中(記録三〇七丁)ニ「七月二十五日午前七時頃見舞ニ行キ申候京平氏ノ枕頭ニハ家族(父、妻) 親戚知己ノ方々四名許リ看護ニ當ラレ居リ候京平氏ノ顔色蒼白四肢ハ動カス言語ニ否モツレノ氣味アレ共意識ハ明瞭ナリト推察仕候自分ハ輕微ナル腦溢血ニ非スヤト聯想致候暫クシテ妻ノ方ヨリ「貴方速カフツテ診テモシテヤナイカナト申カナク噴クモシテヤナイカナト主人ニ尋ネラレ候京平氏曰ク「ウラ噴クシヤセナンカ一人モトリヨウツツレハナカウツタ一編道カラ落チテ上ラウトシタラ二度落チタト眼ヲ閉キ乍ラ答ヘ又眼ヲツララレ候(ニ) 同須田ウラ署名ノ書面中(記録三〇八丁)ニ私池上京平様ノ御

負傷ノ折脚見舞ニ參リマシタ其ノ時京平様ノ云フタコトヲ聞キマシタノニ自分ハ獨リ落チテ上ラウトシテ又二度目ニ落チテ其ノ時動ケナクナリマシタ其ノ節骨様ハ歸ランカト云ツテ呉レマシタ自分ハ動ケナイカラ先ハ歸ツテ呉レト云ヒマシタ其ノ後ハ御家内ニ遺言ナサレマシタトアリ今之等ノ證據ヲ綜合スルニ被害者ハ生前家族知己醫師等ニ對シ種々談話ヲ爲スノ機會ト能力ト被害當時ノ記憶ト有シタルモノナルコト明瞭ニシテ其ノ言語中被告人カ落チタルコトヲ自分ノ家族ニ知ラセテ呉レタリシコトヲ恨ムカ如キ趣旨ノ言葉並深ク死ヲ惜シムノ態度判然タルニ拘ラス一言被告人ノ暴行ヲ訴フル處ナシ若原判決謂フカ如キ犯罪事實アルカ仇敵ニ對スル復讐ノ爲開口第一審暴行ノ事實ヲ告ケヘキノ筋合ナリ尙又被害當時酌量シ居リタルハ事實ナレトモ被告人ノ暴行ノミヲ失念又ハ意識セザリシモノニ非サルコトハ被害當時ノ其ノ餘ノ模樣ヲ記憶シ居タル事情ヨリ觀テ明白ナリ(二) 原審證據ニ採用シタル被告人ノ自白ハ措信スヘカラス(イ) 自白ハ不可分ナリ自白ハ自己ノ罪事實ヲ承認ナリ其ノ承認ハ終始一貫分ツヘカラス同一事實ニ付黑白相容レサルコトヲ供述即一ハ強制處分訊問調査記載ノ如ク自白ハ承認第二四取調以後ノ否認ノ原裁判ハ承認の供述ノミヲ斷罪唯一ノ證明方法ニ供シ否認の供述ハ一切之ヲ却ケテ判斷外ニ置キ然レモ前記被疑者ニ對スル強制處分訊問調査ヲ豫審第一四取調ニ於テ何等具體的ノ訊問ヲ行ハス訂正スヘキ點ノ有無ノミヲ抽象的ニ漠然訊問シ之ヲキ旨ノ答辯

刑事判例

飲酒者ノ暴言ニ對スル傷害致死ト其ノ量刑

ノミヲ徵シタル不完全極マル右豫審第一四取調調査證據ニ採用シタルモノナリ(ロ) 自白ハ任意自由ニ出タルヲ要ス辯護人ハ必シモ檢事豫審判事ニ於テ誘導威迫的ノ取調ヲ爲シタリト云ハサルモ被告人ハ被害者ノ妻ト認ムル處ノ「横山サンハ餘リ酒ハ飲マレマセヌ様子ヲ仲々眞面目ナ善良ナ青年(記録一四一丁)ニシテ生レテ初メテ訟廷ニ立ツモノナリ取調ヲ受タル弱者ナリ修養至ラサル一農民ナリ身ハ獄衣ヲ纏ツテ鐵窓ノ下ニアリ家族ヲ懷ヒ家業ヲ慮ル時取調ニ對シ迎合シ一日モ早ク歸宅セントコト願フハ人情ナリ茲ニ於テ乎被告人ノ自白ハ任意自由ニ出タルニ非ス加之實際被告事件取調ノ根柢ヲ爲ス所ノ林野警察署ノ取調ニ於テ被告人ニ對シ暴行凌辱ヲ加ヘタルノ嫌疑濃厚ナルモノアリ即原審公判廷ニ提出セラレタル中村三郎、小坂田位智治連署ニ係ル書面中(記録三〇九丁)昭和六年八月九日午後十一時頃突然小坂田位智治、横山林太郎、中村三郎三名林野警察署ニ召喚サレタリソレヨリ横山君ハ別室ニ連行サレタリ我々二人ノ者ハ宿直室ニテ警官付添ノモトニ候ニツキタリソレヨリ午後一時、二時頃トオホキ折大聲ニテ叱ル聲又ハ何カ叩ク音シハシハ耳ニセリタメニ我々ハ熟睡スル事出來ナカウツタ或ハ苛酷ナル取調ニハ非サト思ハレタリトアリ又原審公判廷ニ提出セラレタル破レタル浴衣ノ存在等(記録丁)ヨリシテ被告人カ原審第一四公判ニ於テ主張シタル凌辱暴行ノ事實(記録二二三丁以下)ハ之ヲ推斷スルニ難カラス斷罪ノ證據ニ唯一ノ證據タル被告人ノ自白ハ斯クノ如キ取

調ヲ基本トシテ爲サレタルモノナリ斷罪ノ證據トシテ許サルヘキ所謂被告人ノ自白ハ誘導セラレテ威迫セラレテ約束ヲ以テ爲サシメラレス迎合セサル全ク自由任意ノ自白ナラサルヘカラス(三) 被告人平素ノ言動ト事件ノ動機(イ) 被告人ノ性格ノ眞面目ニシテ善良ナル青年タルコトハ前叙ノ如ク被害者ノ妻又スラ認ムル所ニシテ又被害者ノ實父池上正次郎ノ證人訊問調査中(記録一四一丁)「横山林太郎ハ眞面目ナ男ヲ平素酒ヲ飲マスト喧嘩口論シタコトモアリマセヌ」原審公判ニ於ケル證人須田克己ノ證言中(記録三〇一丁ノ裏)「横山ハ平素眞面目テ餘リ酒モ飲マヌ人テ自分等トシテモ此ノ事件ニ付テハ案外ト思ツテ居ル次第テス」及同人ハ會テ宴席等ニテ人ト口論喧嘩ナシタルコトナキ旨ノ供述並原審公判廷ニ提出シタル小林壽署名ノ書面中(記録三一〇丁)「横山林太郎ハ性温厚ニシテ會合又ハ酒宴ノ席上ニ於テモ他人ト争鬪ヲ爲シタルコトヲ未タ聞カサル旨ノ記載等ヨリシテ何事カ重大ナル事情動機ナキ限り本件ノ如キ居村ノ知己ヲ死ニ致スカ如キ行動ニ出ツル謂レナシ況ンヤ被害家ノ被害者ニ對シテ約七百圓餘ノ債權ヲ有シ居ルカ如キ事情ニシテ本件ノ如キ犯行ヲ爲ス力如キコト斷シテアルヘカラス(ロ) 原判決ハ本件犯行ノ動機トシテ「被告人ニ對シ「組合長ヤ役員ハ凡テ自分ノ氣ニ入ラス御前等カ役員ニナルナラハ自分ハ小口組ニ入ルコトヲ止メル」ト侮辱的言辭ヲ弄シ……中略……右京平カ後ヨリ追付キ來リ又モ被告人ニ對シ「御前カ役員ニナルコトハ面白クナイ小口組ハモウ止メ

タ」ト反覆暴言ヲ吐キタル爲被告人ハ憤怒ノ餘リ同人ヲ踏倒シテ突キ落サント決意シ云々」ト認ムルモ被害者ノ酒癖惡シク醉ヘハ惡口スル平素ノ行狀ヲ知悉セル被告人ハ叙上ノ如キ暴言ヲ吐カレタリトテ之ヲ崖下ニ突落サント決意スルニ到リ追憤怒スルノ謂レナク況ンヤ平素ヨリ温厚善良ナル被告人ニ於テオヤト云フニ在レトモ原判決引用ノ證據ニ依レハ優ニ判示傷害致死ノ事實ヲ認定スルニ足リ記録ニ徵スルモ事實ノ誤認ヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルヲ認メス所論ハ原判決ノ證據ノ取捨判斷ヲ非難シテ事實認定ヲ攻撃スルモノニ外ナラス論旨ハ理由ナシ

第二點原判決ハ證據ニ依ラスシテ事實ヲ認定シタル違法アリ即チ原判決ニ依レハ本件公訴事實被告人カ被害者池上京平ヲ判示場所ニ於テ突落シタル事實ヲ認定ゾ爲スニ當リ豫審調査中被告人ノ供述記載ヲ證據トシテ當該事實ヲ認定セリ然レトモ右被告人ノ供述ハ架空ノ事實ヲ供述シタルモノニシテ所謂自白ニハアラス勿論自白ナルモノハ一定ノ事實ノ存在ヲ前提トシテ當該事實ヲ認容スル被告人ノ供述ヲラサルヘカラス然レニ本件ニ於テハ其ノ自白セルト稱スル自白ノ對照タル事實ノ存在ニ付テハ何等ノ證據ナキノミナラス却ツテ自白ノ對照タル土京平ヲ判示場所ニ於テ突落シタルトノ事實及其ノ動機ニ付テハ斯ル事實ノ存在セザリシ事實ヲ認定シ得ルニ十分ナリトス即チ判示事實中ノ被告人ノ犯行ノ動機並犯行ノ場所ニ於ケル被告人ノ被害者トノ口頭ノ事實ニ付テハ被告人ノ豫審庭ニ於テ自白シタ

刑事判例

飲酒者ノ暴言ニ對スル傷害致死ト其ノ量刑

(五六)

メタルモノナリトノ推理ニヨリ判定シ得...

四日廣島控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ...

約一丈三尺ノ崖下ニ墜落セシメテ頭推脫...

人ノ罪實ヲ故意ニ依ル放火罪ニ問擬シ有...

【決定理由】然レトモ職權ヲ以テ記録ヲ...

【理由】辯護人濱田三平、稻本鏡之助上...

昭和七年三月十四日 大審院第三刑事部裁判長列事...

【決定理由】然レトモ職權ヲ以テ記録ヲ...

昭和六年(九)第一七五號 本籍並住居岡山縣英田郡巨勢村大字...

【理由】辯護人濱田三平、稻本鏡之助上...

昭和六年(九)第一六五號 本籍並住居所甲府市綠町二十三番地...

【理由】辯護人濱田三平、稻本鏡之助上...

昭和六年(九)第一六五號 本籍並住居所甲府市綠町二十三番地...

【理由】辯護人濱田三平、稻本鏡之助上...

昭和六年(九)第一六五號 本籍並住居所甲府市綠町二十三番地...

【理由】辯護人濱田三平、稻本鏡之助上...

刑事判例

心神耗弱者ノ放火ト犯罪ノ情狀

(五七)

リサレハ原判決カ被告人ヲ同罪ニ問擬セ...

ハ法律家ノ任務ニシテ醫家ノ任ニアラス...

ヲ省略シ刑事訴訟法第四百三十三條ニ則...

淺カラス同夜二階十二疊ノ室ニ於テ...

犯行ニ係ルヲ以テ同法第三十九條第二項第六十八條第三號ヲ適用シテ法定ノ減輕ヲ爲スヘク尚被告人ハ果敢トシテ數代續セル蓄家ニ生レ相當ノ資産ヲ有スル者ニシテ前科ナク素行不良ニ非サルハミナラス平素孝行ノ念深ク妻ノ死後母ノ看護上憂慮スルコト能ハス痛ク一身一家ノ事情ニ果ハサレ憤懣絶望ノ極心神耗弱状態ニ陥リ深ク思慮ヲ重スルハ暇ナク放火自殺ノ決意ヲ爲スニ至リシモノニシテ其ノ動機大ニ同情スヘキモノアリ又其ハ被害ノ程度較テ輕シト云フニ非サレトモ其ノ大部分ハ被告人所有ノ建造物ニ屬スルノミナラス被害者鈴木田兩家ノ損害ニ付テハ既ニ示談等ノ方法ニ依リテ解決セラレタルコトハ當審公判準備書中被告人ノ供述記載證人平原庄兵衛ニ對スル豫審訊問調書中同人ノ供述記載並ニ前舉示ノ證據ニ徴シ明ニシテ犯罪ノ情状洵ニ憫愍スヘキモノアルヲ以テ同法第六十六條第六十七條第六十八條第三號ニ則リ更ニ酌量減輕ヲ爲シ被告人ヲ懲役二年ニ處スヘキモノトシテ被告人ハ性行及犯罪ノ動機損害ノ填補等上記ノ如クナルハミナラス今や假ニ之ヲ放免スルモ再犯罪ヲ繰返スノ虞ナキモノト認ム得ルカ故ニ本件ハ公共危險罪トシテ深甚ノ考慮ヲ拂フ要スルコト勿論ナリト雖尙且本件ハ被告人ニ對シテハ特ニ其ノ刑ノ執行ヲ猶豫スルヲ相當ト認ムルニ依リ同法第二十五條ニ則リ三年間右刑ノ執行ヲ猶豫スヘク訴訟費用ノ負擔ニ付テハ刑事訴訟

法第二百三十七條第一項ニ從テヘキモノトス、叙上ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十七條第四百四十八條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

昭和七年十二月二十六日
大審院第一刑事部裁判長列事 泉二 新熊
列事 日高要太郎 列事 三宅正太郎
列事 三浦 忠雄 列事 植月 愛明

●素行不良ナル小學校教員ノ子息殺害ト犯情

昭和七年(九)第一四七號
決定

本籍並住居愛知縣西賀茂郡舉母町大字宮口字屋敷二十一番地
無職(元小學校教員) 松田 政太郎

(明治三十七年三月二日生)

右殺人被告事件ニ付昭和六年十二月十五日名古屋控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ原審辯護人澤田二郎ハ上告ヲ爲シタリ因テ當院ハ檢事岩松支十ノ意見ヲ聽キ決定スルコト左ノ如シ

【主文】 本件ニ付事實ノ審理ヲ爲ス【理由】 辯護人島袋全達上告趣意書原判決ハ刑ノ量定甚ク不當ナリト思料スヘキ顯著ナル事由アリ(刑訴四一二條)蓋シ被告人ハ性動勉努力家ニシテ進取向上ノ精神ニ富ミ研究心厚ク僅カ高等小學校ヲ卒業シタル程度ノ正規ノ教育ヲ受ケタルノミニ拘ラス獨力ヨリ自己ノ運命ヲ開拓シ貧苦ト闘ヒテカカ老母ヲ養ヒ尋常科正教員ノ免許狀ヲ受ケ更ニ進シテ昭和四年中至難ト云ハル文部省檢定試驗國文科ノ免許狀ヲ獲得シ得ルモ研究ヲ進ム自己

ノ向上ヲ圖ルト共ニ社會文教ニ貢獻セント日夜孜々之努メタリ然ルニ何ノ因果トシテ其ノ妻ハ少シキ夫タル被告人ノ心意ヲ解セス小サキ自己ヲ主張シ被告人カ一口云ヘハ二日三口ニシテコトコトニ反抗的態度ヲトリ刺ヘテ心深キ被告人ノ眼前ニ於テ其ノ老母ヲ云ヒ込メ恰モ婢女ニ對スルカ如キ態度ニ出ツルコトアリテ聊カモ婦人ノ美德ヲ見ル能ハス如ク兩人ノ根本ノ性格ノ相違ハ必然的ニ夫婦生活ノ極端ニ嫌惡セシメ被告人ハ日夜憤懣途ニ自殺ヲサヘ考エシムル程ニテ其ノ心情定ニ同情ニ値スルモノアリ叙上ノ如ク其ノ家庭生活ハ無味乾燥ニシテ風波常ニ絶エス事件ノ起ルマテ半年相爭フ度ニ一コノ子サヘナケレハ別レマス何處カハ隱スカ一層トウカシテ殺シテ下サイト妻カ私ニ喰ツテカカル態度ハ途方ニ暮レタ私ノ精神ヲトナシ提籠シタコトアリマセウ、サウシテ妻ノ影響云々ト被告人カ告白セルカ如ク同人ハ精神興奮ノ状態ニアリテ其ノ心神ノ正常ノ働キヲ疑フニ足ル加之妻ハ常ニ子息ノ殺害ヲ暗示教唆セルヲ以テ遂ニ發作的ニ犯行ニ出テタルモノニシテ其ノ動機ハ憫愍スルニ餘アリ抑本件ノ如キ殺人罪ノ刑ノ量定ニアタリテハ主トシテ其ノ犯罪事實犯罪ノ意思並ニ動機ヲ根據トスヘキモノナリ然ルニ原判決ハ事茲ニ出ス漫然是等ノ點ヲ看過シタル憾アリ加之被告人ノ家庭ヲ觀ルニ同人ノ刑ノ執行ニヨリテ餓死ヲ豫想サルヘキ六十七歳ノ老母アルノミ一母モ私ニ三年別レテ餓死スルヨリ私ト共ニ南無阿彌陀佛ニ救ハレテ浄土ヘ參ルト申サレマスノ境遇ニ在リ此ノ點ヲ

モ考慮スルニ本事件ニ三年ノ懲役ハ其ノ刑ノ量定甚ク不當ナリト謂ハサル可カラスト云ヒ

辯護人澤田二郎上告趣意書一、原判決ハ刑ノ量定甚ク不當ナリト思料スヘキ顯著ナル事由アリ同被告人ノ本件犯行ニ至ル道程ヲ考フルニ被告人ハ幼ニシテ父ヲ失ヒ母ハ小作農ヲ爲シツテ被告人ヲ養育シ被告人ハ長スルニ及ヒ克ク學ヲ修メ獨學以テ中等教員ノ免許狀ヲ得ル等被告人ノ家庭ハ將ニ幸福ヲ望ムルニ至リシモ其ノ犯行ノ原因タルヤ一言以テ之ヲ蔽ヘハ内縁ノ妻タル正代ノ妻ニシテ妻タラサリシコトニ總テ起因シ正代又其ノ一半ノ實ヲ負ヘキノ事實ナリトス記録ニ示ス如ク被告人カ正代ト結婚スル以前ノ家庭ハ母子所謂水入ラスノ實ニ圓滿其ノモノノ如キ生活ニシテ被告人亦一意カノ不滿ト煩悶トヲ感シタルコトナク一意上級教員免許試驗ノ目的ニ邁進シ希望ト建設ノ濶濶タル生活ノ一路ヲ辿リシ處偶々正代ヲ妻トシテ迎フルヲ期待シ新婦ノ喜悅ハ幾何モナク莫切ラ正代ハ被告人ノミナラス母ヲモ泣カシムルノ日常ヲ反觀シ被告人ハ憫憫ト憂鬱ノ數々ノ擲トナリ意ニ樂シムノ日ナク寧ロ母ト共ニ死シテ此ノ苦悶ヲ脱セント意圖スルニ至レリ而モ被告人ト正代トノ間ニハ一政ヲ舉タルニ及ヒシモ正代ト被告人並ニ母ニ對スル不貞不遜ノ態度ハ愈々募リ被告人ト正代トハ夫婦トシテ同棲シ乍ラ一年ノ久シキ性交ヲモ爲ササルノ不自然ナル生活ヲ續ケ正代ハ不貞不遜ノ極ニ子息ノ爲メ戻サレタル自分故子息ノ成長スルニ於テ

ハ再ヒ離職サルヘシ子供ヲ殺シテタレレ等常ニ放言シ被告人ヲシテ更ニ其ノ苦悶ノ情ヲ深カラシムルノ言行ヲ敢テシタリ一、右様ノ次第ニシテ本件犯行直前ニ於ケル被告人ノ心情ハ何等ノ考慮ト計畫トノ存シタルモノニアラスシテ記録ニ明カナル如ク犯行ノ直前ハ定ニ開閉ノコトニ屬シ前來疎離ノ如ク苦悶中ノ被告人ノ所謂潜在意識ノ發現カ被告人自ラ茫然自失タラシムノ慘事タル本件犯行ヲ誘發シタルモノニシテ多クノ殺人事案ニ於ケル如ク明カナル犯行ノ認識ト計畫ト本件ニ於テ些カモ之ヲ見ル能ハス蓋世間事例ニ乏シカラザル青年男女間不義ノ結果ニ因リ嬰兒或ハ寡婦ノ不行跡ニ因リ嬰兒殺害事案ニ比シ平素非常ニ子供ヲ愛撫スル被告人(證人中條隆秋證言參照)カ其ノ愛兒ヲ殺害スルニ至リシ本件ハ其ノ原因ニ於テ其ノ犯情ニ於テ一般嬰兒殺人事件ト異ナリ斟酌セラルヘキ點頗ル多ク他面被告人家庭ノ事情ハ無資力ナル被告人ニシテ實刑ニ服スルトキハ竟ニ餓死ノ外ナキ老母アリ被告人現在ニ於ケル最大ノ苦惱ハ此ノ母ヲ如何ニシテ餓ヘサラシメンカニアルモノニシテ被告人ハ本件犯行ニ因リ先ニ職ヲ奪ハレ亦近ク八十數年來努力ノ結晶タル中學教員免許狀モ亦當然之ヲ失フヘク加之本件犯行以來ノ被告ノ苦悶殊ニ長期ニ亘レル未決拘留等ノ夫ヲ考慮サルニ於テハ被告人ニ對スル懲戒ノ實ハ餘ス處ナク加ヘラレタルモノニシテ今ハ被告人ニ對シ如何ニシテ更生ノ途ニ就カシムヘキカノ考慮ヲ賜ハルヘキ時期ナリト信ス之ヲ要スルニ記録ニ明カナル本件犯行ノ原因殊ニ犯罪當時

ニ於ケル被告人ノ心情ヲ仔細ニ洞察檢討セラレ尙本原審ニ於テ始メテ立證セラレタル被告人ノ人命救助ノ事實ヲ斟酌セラルルニ於テハ刑ノ執行ヲ猶豫スル旨ノ判決ヲ以テ相當トスヘク原審カ事茲ニ出テサリシハ失當ナリト信ス、以上ノ次第ナルニヨリ原判決ヲ取消シ刑ノ執行ヲ豫ノ御判決賜リ度上告趣意以上ノ如クニ有之候ト云フニ在リ

【決定理由】 因テ記録ヲ精査スルニ原判決ハ被告人ニ對スル刑ノ量定ニハ甚ク不當ナリト思料スヘキ顯著ナル事由アルモノト認ムルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十三條ニ則リ主文ノ如ク決定ス

昭和七年四月十六日
大審院第三刑事部裁判長列事 中西 用徳
列事 中尾 芳助 列事 草野約一郎
列事 高瀬幸七郎 列事 岸 達也

判 決

昭和七年(九)第一四七號
本籍並住居愛知縣西賀茂郡舉母町大字宮口字屋敷二十一番地
無職(元小學校教員) 松田 政太郎

(明治三十七年三月二日生)

右殺人被告事件ニ付昭和六年十二月十五日名古屋控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ原審辯護人澤田二郎ハ上告申立ヲ爲シ因テ當院ハ事實審理ノ決定ヲ爲シタルヲ以テ更ニ審理ヲ遂ケ判決スルコト左ノ如シ

【主文】 原判決ヲ破毀ス、被告人政太郎ヲ懲役三年ニ處ス
訴訟費用ハ被告人ノ負擔トス

【理由】 辯護人島袋全達上告趣意書ノ論

旨理由アリト認ムヘキコト昭和七年四月十六日本院ノ言渡シタル決定ニ於テ説示スルカ如クナラフ以テ刑事訴訟法第四百四十七條第四百四十八條ニ依リ原判決ヲ破毀シ更ニ本件ニ付判決ヲ爲スヘキモノトス因テ被告事件ニ付審理スルニ被告人ハ昭和四年三月八日長田道行外一名ノ嫌疑ニ依リ岩月小三郎ノ二女正世(當時二十歳)ト内縁ノ夫婦關係ヲ結ビ爾來右肩書居町大字宮口字屋敷二十一番地ニ於テ同棲セシモ日ヲ經ルニ從ヒ其ノ間圓滿ヲ缺キ加フルニ實母トシテ正世トノ折合モ亦惡シカリシヲ以テ遂ニ同年十二月頃協議ノ上内縁關係ヲ絶ツニ至リシカ被告人ノ胤ヲ宿シ居タル正世カ翌五年四月六日其ノ實父小三郎方ニ於テ一男子ヲ分娩スルヤ被告人ハ之ニ一政ト命名シ自己ノ庶子トシテ居出ヲ爲シ次テ協議ニ基キ之ヲ引取ルニ當リ其ノ養育及自己カ小學校教職ニ在ル事等ヲ考慮シ相當ノ犧牲ヲ拂ヒテモ正世ト同棲シテ共ニ一政ヲ鞠育スルニ如カスト爲シ人ヲ介シテ正世ノ復讐ヲ求メ其ノ承諾ヲ得同年六月十二日頃ヨリ再ヒ正世及一政等ト被告人方ニ於テ同棲スルコトト爲リタルモ程ナク又復感情疎隔シテ和合セザリシヲ以テ窮餘正世ヲ離別スルノ外ナシト認メ其ノ旨正世ニ告ケタルモ正世ニ於テハ一政ニ對スル愛着心強ク幼少ナル同人ノ身上ヲ憂慮シテ被告人ノ申出ヲ肯シセス之カ爲被告人ハ已ムナク正世ト不自然ナル共同生活ヲ依然繼續シ快々トシテ樂マス日夜煩悶セル中昭和六年六月一日午後五時半頃正世カ所用アリテ外出セル折柄一政カ被告人方宅前ニ於テ唯獨リ遊ヒ居ルヲ見ルヤ此ノ子

無カリセハ極テ正世ヲ離別スルヲ得ヘシト思ヒ茲ニ惡心ヲ起シ偶附近ニ人ナキヲ幸機トシ寧ロ一政ヲ殺害スルニ如カスト決意シ直ニ被告人方邸内ニ存スル直徑四尺餘深サ約三尺ノ三和土製圓形水甕内ノ水中ニ一政ヲ抛ケ落シ因テ同人ヲシテ間モナク溺死スルニ至ラシメ其ノ殺害ノ目的ヲ遂ケタルモノナリ(證據略)

法律ニ照スニ被告人ノ所爲ハ刑法第九十九條ニ該當スルヲ以テ所定ノ有期懲役刑ヲ選擇シ更ニ被告人ノ情状ニ付案スルニ被告人ハ五歳ニシテ父ヲ失ヒ母ノ手ニ養育セル小學校ヲ卒ヘ獨學ニテ中等教員ノ資格ヲ得ルニ足ルニ至リシモノトシテ年餘六十六歳ヲ超ヘ他ニ之ヲ扶養スヘキ者ナシ量刑上斟酌スヘキニ似タリト雖仍本事實ノ審理ヲ爲スニ非サレハ被告人ノ素行並ニ爾後改悔ノ有無等諸般ノ情状ヲ明ニスルコト能ハサルヲ以テ本件事實ノ審理ヲ爲シタル處被告人ハ身教權ヲ執ル者ナルニ拘ラス平素頗ル品行ナルモノアルヲ認ムルニ足ルト同時ニ他面ニ於テ正世ヲ目シテ不貞不遜ナリトスルヲ得ス且本件犯行ニ付キ上告趣意書所論ノ如ク諒恕スヘキ事情ナシト認ムヘキヲ以テ原審ノ言渡シタル刑ヲ減輕スル事由ナキモノト認メ被告人ヲ懲役三年ニ處スヘク訴訟費用ニ付テハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ依リ被告人ヲシテ負擔セシムヘキモノトス、因テ主文ノ如ク判決ス

昭和七年十二月七日
大審院第三刑事部裁判長列事 中西 用徳
列事 中尾 芳助 列事 草野約一郎
列事 高瀬幸七郎 列事 岸 達也

虚無ノ證據ニ基ク斷罪ノ違法

昭和七年(九)第六九一號

本籍並住居宮城縣柴田郡川崎村大字今宿字野上町三十六番地、農

丹野 丹七

右賭場開張常習賭博被告人付昭和七年三月二十四日仙臺地方裁判所ニ於テ言渡シタル第二審判決ニ對シ被告人ハ上告ヲ爲シタリ因テ決定スルコト左ノ如シ

【主文】 被告人丹七辯護人長谷川陸郎上告趣意書第一點原判決ハ其ノ事實理由ニ於テ「被告人丹七ハ第一犯意繼續シテ(一)昭和六年三月上旬頃同村大字今宿字野上町三十六番地自宅ニ於テ賭博ヲ開張シ丹野文吉外數名ヲシテ花札ヲ使用シ俗ニ十六メクリト稱スル賭博ヲ以テ賭博ノ約ニ相當スル金員ヲ徵收シ以テ利ヲ圖リ(二)同年七月下旬前記自宅ニ於テ賭博ヲ開張シ丹野文吉外數名ヲシテ骨子ヲ使用シ俗ニ丁半ト稱スル賭博ヲ以テ賭博ノ約ニ相當スル金員ヲ徵收シ以テ利ヲ圖リ」ト認定シ之カ唯一ノ證據トシテ「被告人丹野丹七カ利示第一ノ(一)(二)記載ノ如ク賭博ヲ開張シ利ヲ圖リタル事實ハ原審ニ於ケル第一回公判調書(被告人丹野丹七、近江市藏)中被告人丹七ノ供述トシテ犯意繼續ノ點ヲ除キ判示趣旨ノ記載アリ」ト説明シタリ仍テ同公判調書ヲ閱スルニ「判事ハ被

告人ニ對シ公判請求書ニ基キ被告事件ヲ告ケ事情ニ付陳述アリヤ否ヤヲ問ヒタルモ被告人等ハ事實相違ナク別ニ陳述スルコトナシト陳述シタリ(丹野丹七近江市藏賭場開張及常習賭博事件記録五五一丁裏)ト記載アリテ原判決認定ノ如ク具體的事實ノ陳述記載ナク右ハ公判請求書記載ノ事實ト相俟テ一個ノ記載ヲナシテ之ヲ離レテハ被告人ハ如何ナル事實ニ付供述シタルモノナリヤ知ルニ由ナキモノトス仍テ原審ニ於テ此ノ部分ニ對シ證據調ヲ爲スニハ右公判調書ト同時ニ公判請求書記載ノ事實ヲモ被告人ニ讀聞ケ其ノ意見反證ヲモ求メサルヘカラサルモノトス然レバ原告人ニ讀聞ケ其ノ意見反證ヲ求メタル旨ノ記載アルモ前記公判請求書ハ之ヲ被告人ニ讀聞ケ其ノ意見反證ヲ求メタル事述ノ徵シヘキモノ存スルコト證ナク結局原判決ハ此ノ點ニ於テ虛無ノ證據ヲ罪證ニ供シタル違法アルカ又ハ違法ニ證據調ヲ爲サル證據ヲ斷罪ノ資料ニ供シタル違法アルモノニシテ破毀ヲ免レサルモノト信ス(昭和二年(九)第九七四號同年十月二十一日第一刑事部決定、昭和五年(九)第一八六二號昭和六年一月二十六日第二刑事部決定參照)ト云フニ在リ

【決定理由】 仍テ按スルニ原判決ハ被告人丹七カ利示第一ノ(一)及(二)記載ノ賭博ヲ開張シ利ヲ圖リタル事實ヲ認定スルニ付第一審ニ於ケル第一回公判調書ニ同被告人ノ供述トシテ判示趣旨ノ申立ノ記載アリトセルコト所論ノ如シ而シテ同調書ニハ「判事ハ被告人ニ對シ公判

請求書ニ基キ被告事件ヲ告ケ事件ニ付陳述アリヤ否ヤヲ問ヒタルニ被告人ハ事實相違ナク別ニ陳述スルコトナシト陳述シタル旨記載アルカ故ニ原審ニ於テ右ノ點ニ付證據調ヲ爲スニ際リテハ須ラク右公判調書ト共ニ公判請求書記載ノ事實ヲモ被告人ニ讀聞ケ意見反證ヲ求メサルヘカラサルコト亦所論ノ如シ然レバ原告人ニ讀聞ケ其ノ意見反證ヲ求メタル旨ヲ被告人ニ讀聞ケ其ノ意見反證ヲ求メタル事述ノ徵シヘキモノ存スルコト證ナク結局原判決ハ此ノ點ニ於テ虛無ノ證據ヲ罪證ニ供シタル違法アルカ又ハ違法ニ證據調ヲ爲サル證據ヲ斷罪ノ資料ニ供シタル違法アルモノニシテ破毀ヲ免レサルモノト信ス(昭和二年(九)第九七四號同年十月二十一日第一刑事部決定、昭和五年(九)第一八六二號昭和六年一月二十六日第二刑事部決定參照)ト云フニ在リ

【決定理由】 仍テ按スルニ原判決ハ被告人丹七カ利示第一ノ(一)及(二)記載ノ賭博ヲ開張シ利ヲ圖リタル事實ヲ認定スルニ付第一審ニ於ケル第一回公判調書ニ同被告人ノ供述トシテ判示趣旨ノ申立ノ記載アリトセルコト所論ノ如シ而シテ同調書ニハ「判事ハ被告人ニ對シ公判

虚無ノ證據ニ基ク斷罪ノ違法

昭和七年(九)第六九一號

本籍並住居宮城縣柴田郡川崎村大字今宿字野上町三十六番地、農

丹野 丹七

右賭場開張常習賭博被告人付昭和七年三月二十四日仙臺地方裁判所ニ於テ言渡シタル第二審判決ニ對シ被告人ハ上告ヲ爲シタリ因テ決定スルコト左ノ如シ

【主文】 被告人丹七辯護人長谷川陸郎上告趣意書第一點原判決ハ其ノ事實理由ニ於テ「被告人丹七ハ第一犯意繼續シテ(一)昭和六年三月上旬頃同村大字今宿字野上町三十六番地自宅ニ於テ賭博ヲ開張シ丹野文吉外數名ヲシテ花札ヲ使用シ俗ニ十六メクリト稱スル賭博ヲ以テ賭博ノ約ニ相當スル金員ヲ徵收シ以テ利ヲ圖リ(二)同年七月下旬前記自宅ニ於テ賭博ヲ開張シ丹野文吉外數名ヲシテ骨子ヲ使用シ俗ニ丁半ト稱スル賭博ヲ以テ賭博ノ約ニ相當スル金員ヲ徵收シ以テ利ヲ圖リ」ト認定シ之カ唯一ノ證據トシテ「被告人丹野丹七カ利示第一ノ(一)(二)記載ノ如ク賭博ヲ開張シ利ヲ圖リタル事實ハ原審ニ於ケル第一回公判調書(被告人丹野丹七、近江市藏)中被告人丹七ノ供述トシテ犯意繼續ノ點ヲ除キ判示趣旨ノ記載アリ」ト説明シタリ仍テ同公判調書ヲ閱スルニ「判事ハ被

告人ニ對シ公判請求書ニ基キ被告事件ヲ告ケ事情ニ付陳述アリヤ否ヤヲ問ヒタルモ被告人等ハ事實相違ナク別ニ陳述スルコトナシト陳述シタル旨記載アルカ故ニ原審ニ於テ右ノ點ニ付證據調ヲ爲スニ際リテハ須ラク右公判調書ト共ニ公判請求書記載ノ事實ヲモ被告人ニ讀聞ケ意見反證ヲ求メサルヘカラサルコト亦所論ノ如シ然レバ原告人ニ讀聞ケ其ノ意見反證ヲ求メタル旨ヲ被告人ニ讀聞ケ其ノ意見反證ヲ求メタル事述ノ徵シヘキモノ存スルコト證ナク結局原判決ハ此ノ點ニ於テ虛無ノ證據ヲ罪證ニ供シタル違法アルカ又ハ違法ニ證據調ヲ爲サル證據ヲ斷罪ノ資料ニ供シタル違法アルモノニシテ破毀ヲ免レサルモノト信ス(昭和二年(九)第九七四號同年十月二十一日第一刑事部決定、昭和五年(九)第一八六二號昭和六年一月二十六日第二刑事部決定參照)ト云フニ在リ

【決定理由】 仍テ按スルニ原判決ハ被告人丹七カ利示第一ノ(一)及(二)記載ノ賭博ヲ開張シ利ヲ圖リタル事實ヲ認定スルニ付第一審ニ於ケル第一回公判調書ニ同被告人ノ供述トシテ判示趣旨ノ申立ノ記載アリトセルコト所論ノ如シ而シテ同調書ニハ「判事ハ被告人ニ對シ公判

内ニ於テ被告人ヲ懲役三月ニ處スヘク尙同法第二十一條ニ依リ被告人ノ未決拘留日數中二十日ヲ本刑ニ算入スヘキモノトス、以上ノ理由ニ因リ刑事訴訟法第四百四十七條第四百四十八條第四百五十五條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

昭和七年(九)第一二三號

本籍大阪市住吉區安立町一丁目二番地

住居大阪市東區南久寶寺町五丁目五番地、雜誌記者

多喜健一

(明治十九年九月十六日生)

右衆議院議員選舉法違反被告事件ニ付昭和五年十二月十五日大阪控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告人ハ上告ヲ爲シタリ因テ決定スルコト左ノ如シ

【主文】 本件ニ付事實ノ審理ヲ爲ス

【理由】 被告健一辯護人樋口恒藏上告趣意書第一點原判決ハ第三、第四、第五、事實ノ證據トシテ原院公判廷ニ於ケル被告人之進ノ供述ヲ採用シタリ依テ原院公判調書ヲ閱スルニ原院ニ於テハ被告人之進ニ對シテハ他ノ被告人即チ健一等ノ事件ト分離シテ審理ヲ爲シタルモノト

ス、然レハ右之進ノ供述ヲ被告人健一等ノ犯罪事實ノ證據ト爲サシカ爲メニハ右之進ノ供述ヲ被告人健一等ニ讀聞ケ其ノ意見反證ヲ求メサルヘカラサルモノトス然レバ原告人ニ讀聞ケ其ノ意見反證ヲ求メタル旨ノ記載アルモ前記公判請求書ハ之ヲ被告人ニ讀聞ケ其ノ意見反證ヲ求メタル事述ノ徵シヘキモノ存スルコト證ナク結局原判決ハ此ノ點ニ於テ虛無ノ證據ヲ罪證ニ供シタル違法アルカ又ハ違法ニ證據調ヲ爲サル證據ヲ斷罪ノ資料ニ供シタル違法アルモノニシテ破毀ヲ免レサルモノト信ス(昭和二年(九)第九七四號同年十月二十一日第一刑事部決定、昭和五年(九)第一八六二號昭和六年一月二十六日第二刑事部決定參照)ト云フニ在リ

【決定理由】 仍テ按スルニ原判決ハ被告人丹七カ利示第一ノ(一)及(二)記載ノ賭博ヲ開張シ利ヲ圖リタル事實ヲ認定スルニ付第一審ニ於ケル第一回公判調書ニ同被告人ノ供述トシテ判示趣旨ノ申立ノ記載アリトセルコト所論ノ如シ而シテ同調書ニハ「判事ハ被告人ニ對シ公判

請求書ニ基キ被告事件ヲ告ケ事件ニ付陳述アリヤ否ヤヲ問ヒタルニ被告人ハ事實相違ナク別ニ陳述スルコトナシト陳述シタル旨記載アルカ故ニ原審ニ於テ右ノ點ニ付證據調ヲ爲スニ際リテハ須ラク右公判調書ト共ニ公判請求書記載ノ事實ヲモ被告人ニ讀聞ケ意見反證ヲ求メサルヘカラサルコト亦所論ノ如シ然レバ原告人ニ讀聞ケ其ノ意見反證ヲ求メタル旨ヲ被告人ニ讀聞ケ其ノ意見反證ヲ求メタル事述ノ徵シヘキモノ存スルコト證ナク結局原判決ハ此ノ點ニ於テ虛無ノ證據ヲ罪證ニ供シタル違法アルカ又ハ違法ニ證據調ヲ爲サル證據ヲ斷罪ノ資料ニ供シタル違法アルモノニシテ破毀ヲ免レサルモノト信ス(昭和二年(九)第九七四號同年十月二十一日第一刑事部決定、昭和五年(九)第一八六二號昭和六年一月二十六日第二刑事部決定參照)ト云フニ在リ

【決定理由】 仍テ按スルニ原判決ハ被告人丹七カ利示第一ノ(一)及(二)記載ノ賭博ヲ開張シ利ヲ圖リタル事實ヲ認定スルニ付第一審ニ於ケル第一回公判調書ニ同被告人ノ供述トシテ判示趣旨ノ申立ノ記載アリトセルコト所論ノ如シ而シテ同調書ニハ「判事ハ被告人ニ對シ公判

ノ者ニ相談ノ上入院セシムルコトトシ一面其ノ準備ヲ爲シ立去リタルニ被告人ヨリ往診先ニ電話アリ右患者ハ一時入院ヲ見合セタキモ又甚シキ腹痛ヲ催シタルニ因リ投藥ヲ請フ旨患者ヨリ依頼アリタルトノコトナルニ付直ニ被告人ニ對シ電話ニテ處方ヲ示シ調劑ノ上交付セラレ度キ旨依頼シタルカ電話ニテ處方ヲ頼ミタル際ニハ一々其ノ藥品分量用方等ヲ口授シ先方ハ之ヲ書取リタル上復唱シテ其ノ相違ナキヤ否ヲ確メ處方箋ヲ後送スルコトヲ約シ歸宅後還帶ナク送付方ヲ事務員ニ命シ置キタリ而シテ患者ハ翌日ニ至リ入院治療ヲ爲スニ至リタルカ同月十九日朝患者ノ病モアリ退院ヲ許シタルニ當日被告人ヨリ往診先ニ電話アリ右マサカ苦痛ヲ訴ヘ投藥方ヲ求メタル由ナルニヨリ前同様ノ方法ニテ電話ニテ處方ヲ口授シ調劑投藥方ヲ依頼シ正式ノ處方箋ハ歸宅後還帶ナク同藥劑師方ニ送付シ置キタルモノナリト云フニ在リ以上ノ供述ハ孰レモ措信スルヲ得ルモノトス要之被告人ハ著シキ疾病ヲ訴ヘ急治ノ必要アル患者深淵マサニ對シ小川醫師カ其ノ病症ヲ診察シ其ノ重病ニ變移スヘキ危險アルヲ恐レテ急遽ニ投藥スルノ必要アリト認メ電話ニ依リ處方調劑方ヲ平素熟知ノ被告人ニ依頼シテ處方箋ヲ送付ヲ約シ被告人ニ於テ其ノ電話處方ヲ書取リタル上直ニ之ヲ同藥劑師ニ渡シ過誤ナキコトヲ確メタル上之ニ依リテ調劑シ且其ノ後相當時日內ニ其ノ處方箋ヲ送付ヲ受ケタル事實存スルモノト認ムヘキモノトス抑々藥劑師法第九條ニ於テ醫師ノ署名又ハ捺印シタル處方箋ヲ必要トセルハ藥劑師ノ實

任ヲ明ニシテ醫藥分業ノ實ヲ舉ゲ且調劑上ハ過誤ヨリ生ズヘキ危險ヲ避ケルヲ目的トスルモノナルカ故ニ之カ解釋ヲ嚴格ニシ其ノ履行ヲ期スルノ必要アルコト勿論ナリトス從テ藥劑師カ醫師ノ調劑所ハ機關トシテ調劑ニ從事スルニ非スシテ自ラ藥局ヲ經營シ自己ノ責任ヲ以テ調劑販賣スルニハ必ス處方箋ニ依ルコトヲ要スルハ藥劑師法第十一條ノ規定ヲ遵守スヘキ點ヨリ觀察スルモ明白ナルカ故ニ電話ニ依リ醫師ノ處方ニ依リ調劑販賣ヲ爲ストキハ第九條ノ違背タルヤ疑フ容レサル所ナリ又電話ニ依リ處方調劑ハ往診ニシテ過誤ヲ生ジキモノナルカ故ニ之ヲ避ケ得ヘキ特別ノ事情存スルニ非サレハ須ラケ責任ヲ確實ニスヘキ處方箋ニ依ルコトヲ要スヘキ又縱令電話ニ依リ處方調劑カ精密ナル條件ノ下ニ過誤ヲ避ケルニ十分ナル注意ヲ用フルコトヲ得ル場合ナルニモ治療上急遽ヲ貴フ場合ニ非サレハ容易ニ解釋ヲ擴張スヘキモノニ非サルコト亦明白ナリト雖(本件ノ如キ)特殊事情ノ存スル場合ニ在リテハ醫師ノ處方箋ニ依リテ調劑シタルモノハ之ノ同一視スルヲ以テ社會通念上及人情道義上妥當ナリトスヘキハミナラス叙上ノ如キ條件ノ下ニ於テ此ノ類推解釋ヲ爲スモ毫毛叙上立法ノ精神ニ抵觸スル處アルコトナキカ故ニ徒ニ文句ノ末ニ拘泥シテ此ノ解釋ヲ排斥スルハ正當ニ非ラズ若シ夫レ電話調劑ハ危險ニシテ中斷難關合ハ

場合ノ如キハ特ニ其ノ危險著シキカ故ニ絕對ニ之ヲ禁止スヘキモノニ非サルヤハ疑ナキニ非スト雖若シ何等ノ例外ナク絕對ニ之ヲ禁止スルニ非サレハ危險ヲ避ケルコト能ハサルモノトセハ醫師カ急遽ヲ要スル場合ニ自己ノ調劑所ニテ調劑ニ從事スル者ニ對シ患者往診先ヨリ電話ヲ以テ處方調劑ヲ爲サシムル場合ニ於テモ等シク此ノ危險ノ存スルハ明白ナルカ故ニ醫師法中ニモ之ヲ防止ニ付テ特別ノ規定ヲ設ケ醫師ニシテ之ニ違反スルモノハ罰スルノ必要アルヘキモノナルニ拘ラス新ル規定ノ存セサルニ由テ之ヲ觀レハ藥劑師法第九條ノ規定ニ付テ上叙ノ如キ確實ノ保障スルニ必要ナル諸般條件ノ具備スル場合ニ於テモ尙ホ右類推解釋ヲ絕對ニ拒否スルハ理由アリト爲スヘキニ非ス然レハ原則決力上叙諸般ノ事情ノ存在スル點ヲ看過シ輕ク本件公訴事實ニ對シ刑ノ言渡ヲ爲シタルハ失當ニシテ本件上告ハ其ノ理由アリ原則決ハ破毀ヲ免レス而シテ本件公訴事實ハ罪ト爲ラサルニ付刑事訴訟法第三百六十二條ニ依リ被告人ニ對シテハ無罪ノ言渡ヲ爲スヘキモノトス、右ノ理由ニ基キ刑事訴訟法第四百四十八條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

● 公文書偽造及偽造公文書行使罪ノ公訴時効
昭和七年(九)第一一三號
判決
本籍並住居秋田縣北秋田郡二井田村 比内前田九善地、農 芳賀 辨治 (昭和三年三月八日生)

右ニ對スル業務上横領公文書偽造行使詐欺未遂被告事件ニ付昭和七年六月二十八日官廳控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告人ハ上告ヲ爲シタリ因テ判決スルコト左ノ如シ

【主文】 原則決ヲ破毀ス、被告人ヲ懲役十月ニ處ス、但シ本判決確定ノ日ヨリ三年間右刑ヲ執行ヲ猶豫ス

被告人カ意思繼續シテ二井田村役場備付ノ大正十三年度大正十四年度大正十五年各現金受拂簿中ニ虛偽ノ記入ヲ爲シテ右公文書ヲ偽造シ夫々之ヲ同役場ニ備付ケテ行使シタリト公訴事實ニ付テハ被告人ヲ免訴ス、訴訟費用ハ被告人ノ負擔トス

【理由】 辯護人阿部藤治、赤井幸夫上告趣意書第一點原則決ハ其事實理由中ニ「被告人ハ大正十三年七月十四日ヨリ昭和三年七月十二日迄秋田縣北秋田郡二井田村役場ニ於テ勤務シ居リタルモノナルコト」(一) 大正十三年十二月頃二井田村役場ニ於テ村ノ收支關係ヲ合致セシムル爲同村収入役代理タリシ武田久五郎ト共謀ノ上行使ノ目的ヲ以テ收入役ノ職務上作成スヘキ同役場備付ノ大正十三年度現金受拂簿中ニ同年七月ヨリ十月頃迄ニ被告人ニ於テ徵收シタル同年村度

稅戶數額二千九百四十八圓七錢及雜種稅牛馬稅十三圓四十四錢ヲ同年六月三十日ニ收入シタル旨虛偽ノ記入ヲ爲シテ右公文書ヲ偽造シ即時之ヲ同役場ニ備付ケテ行使シト認定シ被告人ヲ刑法第五十五條第三項ニ問擬シタリ然レトモ同罪ハ三年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ該ルモノナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十一條第五號ニ依リ三年ヲ經過スルニ因リ公訴時効完成スヘキモノナルヲ以テ被告人ノ右行為ハ昭和二年十二月ヲ經過スルニ因リ其公訴時効完成シタルモノナリ然ルニ本件豫審請求書ヲ閱スルニ右ノ事實ヲ起訴シタルハ昭和六年十一月四日ニシテ公訴時効完成後ノ起訴ニ係ルモノナルコト明ナリトス尤モ原則決ハ右事實ト第二ノ(三)(三)ノ事實ト連續犯ノ關係ニ在ルモノナリト認定シタルモノ右ノ犯行ハ大正十三年十二月ニシテ(一)ノ犯行ハ昭和二年二月ニシテ其間滿二年以上ヲ經過シアリテ同一意思ノ發動ニ依リ連續犯トハ認メ難ク右犯行ハ本件起訴當時ニ於テハ既ニ時効完成シタルモノナルコト勿論ナレハ原則決ニ於テハ右ノ事實ニ對シテハ免訴ノ言渡ヲ爲ササルヘカカラサルモノナルニ事甚ニ出テサリシハ違法ニシテ破毀ヲ免レサルモノト信スト謂フニ

公文書ヲ偽造シ即時之ヲ同役場ニ備付ケテ行使シ(一) 昭和二年二月頃同所ニ於テ行使ノ目的ヲ以テ前同様二井田村役場備付ノ大正十四年度現金受拂簿中ニ虛偽ノ記入ヲ爲シテ右公文書ヲ偽造シ即時之ヲ同役場ニ備付ケテ行使シ(二) 昭和三年二月二十七日頃同所ニ於テ行使ノ目的ヲ以テ前同様二井田村役場備付ノ大正十五年現金受拂簿中ニ虛偽ノ記入ヲ爲シテ右公文書ヲ偽造シ即時之ヲ同役場ニ備付ケテ行使シタル事實ヲ認定シ右公文書偽造ヲ刑法第五十六條第五十五條第三項第五十五條ニ其ノ行使ヲ同法第五十八條第一項第五十六條第五十五條第三項ニ問擬シタリ而シテ右ニ依リハ右公文書偽造ノ罪モ偽造公文書行使ノ罪モ等シク三年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處セラルヘキモノナルハ右各罪ハ公訴時効ハ刑事訴訟法第二百八十一條第五號第二項第八十四條ニ依リ犯罪行為ノ終リタルトキヨリ進行シ三年ヲ經過スルニ因リテ完成スルモノナルコト明ナリ然レハ前示第二事實ニ於ケル公文書偽造及偽造公文書行使ノ各罪ハ假令之ヲ原則決ハ認メタル如ク刑法第五十五條ノ連續犯ヲ構成スルモノモ其ノ時効ハ其ノ犯罪行為ノ終リタル時期即チ昭和三年二月二十七日頃ヨリ起算シ三年ヲ經過スル昭和六年二月二十七日頃ヲ以テ完成スルモノナリト謂ハサルヘカラス然ルニ本件記録ヲ査スレハ右犯罪事實ニ付豫審請求書アリタルハ昭和六年十一月四日ナルカ故ニ右各罪ノ時効ハ本件公訴提起前既ニ

完成セルコト洵ニ明白ナリ從テ原告ハ須ク右第二事實全部ニ付免訴ノ言渡ヲ爲スヘキモノナルニ事甚ニ出テス前調法條ヲ適用シ處斷シタルハ明ニ違法ニシテ該違法ハ判決ニ影響ヲ及ヘキコト勿論ナレハ論旨ハ理由アリ原則決ハ破毀ヲ免レ

第二點原則決ハ判示第四事實ニ付被告人ヲ起訴罪ニ問擬シタリ然レトモ同罪ハ人ヲシテ刑事事又ハ懲戒ノ處分ヲ受ケシムル目的ヲ以テ虛偽ノ申告ヲ爲スニ因リテ成立スルモノニシテ(一) 其中告シタル事實ハ眞實ニ合致セサル虛偽ノ事實ナルコトヲ要スルハ勿論(二) 申告ヲ爲シタル者ニ於テ該事實ノ虛偽ナルコトヲ知りテ故意ニ斯カル申告ヲ爲シタル事實アルコトヲ必要トス從テ被告ノ其申告シタル事實カ眞實ニ反スルモノト認令其申告シタル者ニ於テ其虛偽ナルコトヲ知ラス其申告シタル事實カ眞實ニ合スルモノト信シ居リタル場合ニ於テハ犯意ヲ缺如シ同罪ヲ構成スヘキモノニアラサルナリ故ニ本件ノ場合被告人ヨリ同罪ニ問擬スルニハ被告人カ其告訴狀ニ記載シタル事實カ眞實ニ反スル虛偽ナルコトヲ知悉シ居ルニ拘ラス故ニ「斯カル告訴ヲ爲シタルモノナルコト」ノ事實理由ニ明示セサルヘカラス然レハ「被告人ハ昭和六年七月六日辯護人小山章ヲ告訴代理人トシ二井田村長一關國郎ヲシテ刑事上ノ處分ヲ受ケシムル目的ヲ以テ秋田地方裁判所大館支部檢察局ニ對シ演說並ニ詐欺利得ナル罪名ノ下ニ一關國郎ハ被告人ニ於テ公金受拂簿ノ事實ナキヲ知悉シ居ルニ拘ラス

職權ヲ濫用シ昭和三年十月二十日二井田村會ヲシテ金三千六百三十六圓一錢二厘ヲ辨償セシムヘキ旨ノ不法決議ヲ爲シ之レカ辨償ヲ爲サシメタル旨虛偽ノ事實ヲ記載シタル告訴狀ヲ提出シ以テ同人ヲ起訴シト判示シタリテ是レニ由レハ被告人ハ一關國郎ヲシテ刑事上ノ處分ヲ受ケシムル目的アリタルコト告訴狀記載ノ事實ハ虛偽ナリトノ事實ヲ知り得ルニ止マリ當時被告人ニ於テ該告訴狀記載ノ事實カ虛偽ナルコトヲ知り居リタルニ拘ラス故意ニ斯カル告訴ヲ提起シタルモノナリヤ否ヤニ付何等判示スル所ナク結局原則決ハ此點ニ於テ事實理由不備ノ違法アリ破毀ヲ免レサルモノト信スト謂フニアレトモ被告人カ所論告訴狀ヲ爲シタル當時其ノ告訴ノ内容タル事實ノ虛偽ナルコトヲ自知リ居タリトノ事實ヲ證據トシテ原則決ハ判示第一事實ニ對シテ證據說明中一、二ニ舉示スル證據即チ豫審ニ於ケル證人一關國郎成田重三郎ニ對シタル各訊問調書ノ供述記載ヲ引用セルモノニシテ右兩箇ノ供述記載ニ依レハ被告人自ラ告訴ノ内容タル事實即被告人カ公金受拂簿ニ於テ虚偽ノ事實ヲ知悉シ居タル事情ヲ認ムルニ十分ナルヲ以テ原則決ハ證據ニ依ラスシテ事實ヲ認定シタル違法アルコトヲ論旨ハ理由ナシ

第三點原則決ハ其事實理由中「被告人ハ大正十三年七月十四日ヨリ昭和三年七月十二日迄秋田縣北秋田郡二井田村収入役トシテ勤務シ居リタルモノナルコト」(一) 大正十三年四月頃ヨリ昭和三年七月頃迄ノ間ニ左記ノ如ク十數回ニ亘リテ二井田村役場ニ於テ業務上自己ノ保管ニ係

ル同村一般會計其ノ他ノ出金中ヨリ合計三千四百三十三圓九十六錢ヲ...

大正十五年度分等ノ不足額ニ付詰問スルモ被告人ハ之ヲ承認シツツ尙手許ニハ...

據ハ之ヲ舉示スル所ナキノミナラス原判決第一事實ニ依レハ被告人ノ横領シタル...

右ノ如ク被告人ノ横領シタル金額ハ原判決ノ金三千四百三十三圓九十六錢ナル...

法第二百五十條第二百四十六條第一項ニ原判決第四ノ原告ノ所爲ハ同法第七十七...

隣郎方、赤倉嶺山小使 橋本 徳次郎 (大正二十年十月十五日) 右汽車往來危險發生被告事件ニ付昭和七年七月二十一日官控控訴院ニ於テ言渡シ...

然レトモ此ノ點ニ於テハ確カニ第一審判決ハ原判決ニ比シ妥當ノ判決ナリト思料...

リ與ヘラレル收入十圓中七圓宛ハ自カラ受取ラシテ直接主家ヨリ母サノ送リ...

私モ癡ニ謂リ言フテモ判ラヌ馬鹿カアルカト怒鳴リ付ケテ云々トアリ又被告ノ原審公判始末書ニ依レハ「最初助役カラ何ントカ言葉ヲ發セラレタ様テシカカ足駄キテテ居ツタノテ其ノ言葉ハ判然判ラナカッタノテスカ鬼ニ角注意ヲ受ケタラシクアリマス私ハ夫ヲ氣ニ留メスニ國道ニ出タノテスカ其ノ際大キナ聲テ馬鹿野郎ト言ツテ怒鳴ラレタノテス」トアリ兩々相對照スルトキハ被告ノ方ニシテ其ノ國道ニ出テタルモノナルモ田村助役ノ方ニテハ被告ハ同人ノ注意ヲ諒シテララズ故ニ其ノ注意ヲ蔑視シタリト觀察シタルル知ル可シサレハ被告ノ行為カ非常ニ同人ノ怒罵ハ如何ニ辛酷苛悴ニシテ被告ノ感情ヲ刺戟シタルカヲ察知スルニ足ルヘシ更ニ原審公判始末書ノ被告ノ供述ニ依レハ「私ノ佇立シカ五、六間先キノ所ニ三、四人ノ女子カ居リタルカ其ノ怒鳴ヲ聞キ内一人ノ女子カ私ノ方ヲ振り向イタ様テシタ其ノ女子カ前ハ判リマセヌカ顔丈ハ見知ツテ居ツタノテ助役ヨリ怒鳴ラレタルヲ其ノ女達ニモ振り返ツテ見ラレタノテ恥シク思フ」ト同時ニ腹モ立チタリ煙草モ賣リテ直ク國道ヲ通ツテ歸宿シタノテスカ途中ニテ助役ニ復讐シテヤロウト思ヒタリトアリ馬鹿野郎ナル言葉ハ往々甚シク人ノ肝癢ニ障ルコトアルモノニシテ冷静ニ常識的ニ考フルトキハ此ノ如キハ毫モ意ニ介スヘキモノニアラサル可シト雖青年年少ノ徒ニアリテハ必スシモ兩カテ論過セラレサルモノアルヘシ殊ニ被告ノ如キ物ノ

モノナラサル様見受ケラレル爲ニ碎サレ單ニ激動ヲ感スル程度ニテ済ムニアラスヤト考ヘラル貨車ノミナラハ脱線ハ豫想サルルモ機關車ニアリテハ其ノ重量ニテ石カ粉砕アリ而シテ當夜下リ列車ノ定約ノ供送アリ而シテ當夜下リ列車ノ貨車四五ハ偶然ニモ都合上運轉停止セラシムル事ナリアリタルモノナレハ(塚田嘉助證參照)旁々實際ニ於テハ汽車ノ脱線等アリ得可カラサリシ状態ニアリタルモノナリ殊ニ驛構内ノ轉轍場所ハ驛員ニ於テ常ニ巡回監視シタルモノ(塚田嘉助證參照)故比較的容易ニ發見セラレ可キ筋合ノモノナリ本件犯行モ亦直チニ發見セラレタルモノナリ從ツテ本件被告ノ犯行ハ汽車往來妨害ノ可能性アルハ言フ迄モ無キモ然モ場所力場所支ケニ比較的實現性ナキモノナリ而シテ犯罪ノ結果ノ發生如何ハ刑ノ量定ノ上ニ於テハ勿論刑ノ執行猶豫ノ上ニ於テモ重大ナル關係有スルモノナルコトハ言フ迄モナシ一、以上主觀的並ニ客觀的ノ各方面ヨリスルモ本件被告ノ犯行ニ對シテハ刑ノ執行猶豫ヲ與フルノ洵ニ適當ナルヲ信スルナリ原判決ハ刑罰法規ノ適用トシテハ或ハ其ノ當ヲ得タルモノナル可シ然レトモ判決ノ結果ハ執法者トシテモ亦大ニ考ヘサル可カラサルモノナリ原判決ノ執行ハ確カニ此年少憐ム可キ純真無垢ノ被告今正ニ悔悟反本シアル被告將來ノ正シキ生活方面ニ振り向キル被告ニ對シテ徒ラニ今後ノ全生活ヲ惡人トシテ前科者トシテ公ニ宣言シ其ノ上ニ永久ニ社會的ニ排斥去ル可キ者ナルコトノ極印ヲ刻ミ付タルモノナリ前科者テフ肩書カ如何ニ世

其ノ他社會的地位ヲ有スル者ノ子弟ナリシハ刑ノ執行ヲ猶豫セラル事多キモノアルニ反シ偶々被告ノ如キ貧窮無産ノ者ニアリテ往々檢事及裁判官ノ顧ミル所トナラサルモノハ憾アリ之カ爲ニ稍々モスレハ法ノ平等性ニ疑ヲ抱カシムルニ至ルノ處ナキニアラサル可シ洵ニ心ム可キコトナリ刑ノ執行猶豫ハ期間ノ滿了ニ因リテ刑ノ言渡ノ效力ヲ失ハシムルノ方面ヨリ見ルトキハ如何ニモ刑罰ノ威嚴ト效力ヲ失墜セシムルカ如キ感ナキニアラサルモノモ有罪ノ裁判ハ其ノ宣告ニ依リテ直チニ犯人ノ社會的地位ト名譽ニ對シテ大打撃ヲ與フルモノナルカ故ニ裁判ノ宣告只夫レノミヲ以テシテ一般豫防ノ目的ハ已ニ十分ニ達セラレアルモノナリ必スシモ實刑ヲ科スルニアラサレハ一般豫防ノ目的ヲ達セサルモノナリト言フコトヲ得サルナリ故ニ苟クモ主觀的並客觀的ノ情状ノ個體ス可キモノアル限リ刑ノ教育的改善の效果ノ發生ニ注意ヲ拂フ可キハ正ニ裁判ノ眞精神ナル可シ之ヲ要スルニ本件被告ニ對シテ刑ノ執行ヲ猶豫セザリシ原判決ハ前段所述ノ如キ違法アルモノナリ況ンヤ第一審判決ハ已ニ敢然執行猶豫ヲ宣言シアルオヤ又況ンヤ事實ニ於テモ被告ハ已ニ本年三月以來七月ニ亘リテ未決勾禁セラレアルモノナレハ一般豫防ノ目的モ特別豫防ノ目的モ事實上ハ已ニ十分ニ達成セラレアルモノト言フモ不可ナキモノナレハ益々以テ執行猶豫ヲ與フルノ正當ナルヲ信スルナリト云フニ在リ

モノナラサル様見受ケラレル爲ニ碎サレ單ニ激動ヲ感スル程度ニテ済ムニアラスヤト考ヘラル貨車ノミナラハ脱線ハ豫想サルルモ機關車ニアリテハ其ノ重量ニテ石カ粉砕アリ而シテ當夜下リ列車ノ定約ノ供送アリ而シテ當夜下リ列車ノ貨車四五ハ偶然ニモ都合上運轉停止セラシムル事ナリアリタルモノナレハ(塚田嘉助證參照)旁々實際ニ於テハ汽車ノ脱線等アリ得可カラサリシ状態ニアリタルモノナリ殊ニ驛構内ノ轉轍場所ハ驛員ニ於テ常ニ巡回監視シタルモノ(塚田嘉助證參照)故比較的容易ニ發見セラレ可キ筋合ノモノナリ本件犯行モ亦直チニ發見セラレタルモノナリ從ツテ本件被告ノ犯行ハ汽車往來妨害ノ可能性アルハ言フ迄モ無キモ然モ場所力場所支ケニ比較的實現性ナキモノナリ而シテ犯罪ノ結果ノ發生如何ハ刑ノ量定ノ上ニ於テハ勿論刑ノ執行猶豫ノ上ニ於テモ重大ナル關係有スルモノナルコトハ言フ迄モナシ一、以上主觀的並ニ客觀的ノ各方面ヨリスルモ本件被告ノ犯行ニ對シテハ刑ノ執行猶豫ヲ與フルノ洵ニ適當ナルヲ信スルナリ原判決ハ刑罰法規ノ適用トシテハ或ハ其ノ當ヲ得タルモノナル可シ然レトモ判決ノ結果ハ執法者トシテモ亦大ニ考ヘサル可カラサルモノナリ原判決ノ執行ハ確カニ此年少憐ム可キ純真無垢ノ被告今正ニ悔悟反本シアル被告將來ノ正シキ生活方面ニ振り向キル被告ニ對シテ徒ラニ今後ノ全生活ヲ惡人トシテ前科者トシテ公ニ宣言シ其ノ上ニ永久ニ社會的ニ排斥去ル可キ者ナルコトノ極印ヲ刻ミ付タルモノナリ前科者テフ肩書カ如何ニ世

昭和二年六月發行

大審院裁判例拾遺 (一)

總頁數二百十頁
定價金壹圓參拾錢
郵稅金八錢

昭和三年十月發行

大審院裁判例 (二)

總頁數二百六十頁
定價金壹圓五拾錢
郵稅金十錢

昭和五年六月發行

大審院裁判例 (三)

總頁數二百十餘頁
定價金壹圓五拾錢
郵稅金八錢

昭和六年十二月發行

大審院裁判例 (四)

總頁數百八十餘頁
定價金壹圓五拾錢
郵稅金八錢

昭和七年十二月發行

大審院裁判例 (五)

總頁數三百五十頁
定價金壹圓五拾錢
郵稅金十一錢

既刊五卷は何れも本書と編輯體裁を同じくして大審院棄却判例の外に破毀判例を集めたものである。民事と刑事とに拘らず、破毀判例は個々に散見するよりも一書に纏めて見る時により以上の効果を發揮するもので、特に刑事の場合に於て然りとす。即ち事實審理の決定と、それに基づく判決とを並べて始めて事案の性質が明になり破毀の理由が判明するからである。本書は何れも右の趣旨の下に編纂されたもので、従つて第一卷より備ふることによつて最近數年間に於ける大審院の破毀の方針なり態度なりが一目瞭然するのである。敢て一般實務家諸氏の閱讀を乞ふ次第である。

昭和八年十一月二十五日印刷
昭和八年十一月三十日發行



大審院裁判例 (六) 附典

定價金壹圓八拾錢

東京市日本橋區本町四丁目五番地五
發行所 山川金五郎

東京市日本橋區本町四丁目五番地五
印刷所 山川金五郎

東京市日本橋區本町四丁目五番地五
印刷所 益文社

東京市日本橋區本町四丁目五番地五
發行所 法律新聞社

振替口座東京五二五五番
電話日本橋(24)五九三七一

大賣捌所

- 東京 東海書房
- 東京 東政書房
- 東京 東松堂
- 東京 有斐堂
- 北 北隆館
- 同 同
- 同 同
- 同 同
- 同 同
- 同 同

初版忽于賣切・再版出來!!
法律新聞社編纂

判決要録

四六版總革特製爪掛附
紙數一千八百頁
定價金六圓
送料内地(普通)二二錢
臺灣・樺太四七錢(書留)六二錢
朝鮮・滿洲・南洋(書留)六二錢

最新刊

第二十三卷
(昭和八年版)

內容充實 摘錄適正
檢索至便 最新唯一

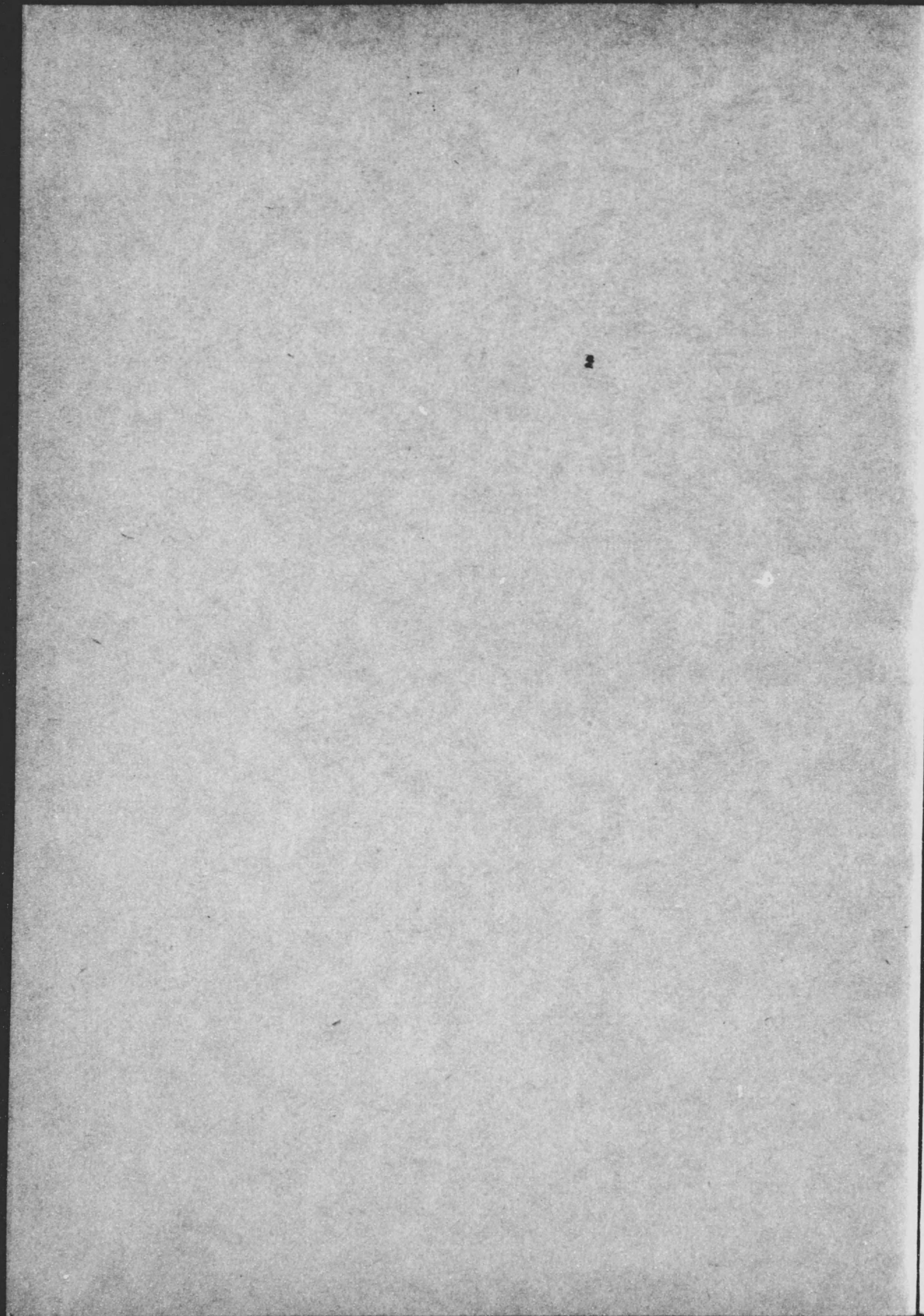
▲本卷ハ昭和七年中ノ大審院以下各裁判所判例及司法省訓令回答通牒
▲法曹會決議全部ヲ網羅シ法條別ニ分類編纂シ一目瞭然タラシメタル
▲モノニシテ法曹諸家、實業家、學者、學生必備ノ判例年鑑也

既刊

- | | | |
|----------|----------|-----------|
| 第十五卷 第四版 | 第十八卷 第四版 | 第二十一卷 第四版 |
| 第十六卷 第四版 | 第十九卷 第四版 | 第二十二卷 第三版 |
| 第十七卷 第四版 | 第二十卷 第四版 | |

發行發賣所 東京市日本橋區本町四丁目五番地五
電話日本橋五・一九三一番
振替東京五・二二五五番
大賣捌所 大阪 法政書房 東京 酒井書店 廣松堂 有斐閣 東京堂 東海堂 北陸館

法律新聞社



147
550



